

319
211

戰史例證戰術教科書

全



戰史例證戰術教科書

全

獨逸陸軍少將フオン、ツォーベル閣下著
日本陸軍歩兵少佐鈴木義任氏譯

明治
41 6 26
内交

東京 不動書店發行

1.30.10.07

Herrn Major Jarukito Subzaki
Himedji, Japan.

Ihre geliebten Eltern Majors!

Auf Ihre gefällige Schreiben vom 6. Okt.,
war mir sofort die Freude ergehen, daß es
mir eine Befreiung ist, meine in
Lafayette. Der Sachverhalt mit dem ich
geistlichen Beistand in Japanische
übertragen mit welcher ich hoffe mir
Angelegenheit in der Handlung zum Abbruch
bringen. Ich habe nun in der Handlung,
daß mein Name als Hauptmann genannt
wird mit in einer 3. Beleg & Zeugnisse,
sowie über den Namen R. Bredow, Leipzig,

Königsplatz 23, am Königsplatz Hauptstr.
Zürich.

Geben Sie auf die 8. (letzte) Auflage
des Buches vom Jahre 1900? Sie ist eine
unveränderte Abdruckgabe der 7. Auflage
u. soll mir zur Ergänzung meines Buch-
weg, ohne Eingekaufene Sie nicht
gleich im Tag ausgeben können.

Ihrer besten Willkommene der Arbeit
und Erfolg wünsche, bei ich mit der
unveränderten Druck mit neuen
Einführung

Ihr

angenehmen

J. J. J. J.
Grußworte z. d.

原著者承認書譯文

甚々榮譽アル少佐君ヨ予ハ尊敬スヘキ足下ノ十月六
日發ノ芳信ニ對シ茲ニ謹テ足下ニ報復シ得ルノ光榮
ヲ有スルコトヲ特ニ感喜スルモノナリ足下ハ予ノ既
著戰史例證戰術教科書ヲ日本語ヲ以テ翻譯セラレ之
ヲ世ニ公ニセントスルニ當リ予ニ乞フニ其翻譯權讓
與ノ承認ヲ以テセラル予ハ足下ノ此請求ニ對シ滿身
ノ好意ヲ以テ足下ニ翻譯權讓與ノ承認ヲ與フルモノ
ナリ但シ予カ此承認ヲ足下ニ與フルト同時ニ足下ニ
次ノ二條件ヲ要求ス即チ足下ノ翻譯刊行セラル、前
記書籍ニハ原著者タル予ノ姓名ガ錄セラレ且ツ其翻
譯書ノ三部ヲ予ニ竝ニ他ノ一部ヲライプチヒケニ

二
ヒ街二十三出版者「エルブロードール」ニ無代價ヲ以テ送
附セラレシコト是レナリ

足下ノ翻譯セラル、前記書籍ハ千九百年ニ刊行セラ
レシ第八版ニシテ最新ノモノナラン蓋シ第八版ト雖
第七版ト殆ント全ク異ナル所ナク只第八版ニハ補足
トシテ卷末ニ一ノ附録ヲ添附セシニ過キス而シテ其
附録中ニ掲載シ在ル事項ニ就テハ足下ハ恐ラクハ翻
譯書ノ本文中ニ適當ニ挿入スルナラン
予ハ足下ノ此作業ニ對シ至親ナル友情及熱誠ナル敬
意ヲ以テ偏ニ其結果ノ大成ヲ切望スルモノナリ

千九百七年十月三十日

於獨逸國柏林府足下ニ從順ナル

少將フアンツォーベル

於日本國姫路市

少佐鈴木義任君

緒言

予ハ明治三十一年十月ヨリ同三十七年五月迄參謀本部ニ奉職シ專ラ戰史ノ編纂ニ從事シ其參考トシテ常ニ獨逸ノ兵書ヲ參照セシカ其内同國陸軍少將「フォン、ツォーベル」氏著戰史例證戰術教科書ハ最モ有益ニシテ且ツ趣味豊富ナルモノト確信セリ依テ公務ノ餘暇之ヲ翻譯シテ同好ノ士ニ頒タント欲シ將ザニ其事業ニ着手セントスルヤ明治三十七、八年戰役ハ俄然トシテ倏忽ノ間ニ發生シ予モ亦幾何ナラスシテ内地勤務ニ服シ次テ某軍ニ屬シ出征ノ途ニ上レリ而シテ該戰役ハ明治三十八年ノ秋ニ於テ全ク平和克復ヲ告ケ數十百萬ノ人馬ハ陸續トシテ内地ニ凱旋シ予カ大隊ハ他ノ諸部隊ト共ニ平和克復後第一回ノ守備トシテ滿洲ニ殘留スルコトトナリ其任務ニ服シツ、昨明治四十年十月ニ至レリ其間東奔西馳殆ント席暖マルニ遑ナカリシト雖予カ最初ノ決心ハ之カ爲メニ毫モ動搖セラレスシテ滿洲守備間繁劇ナル公務ノ餘暇ヲ以テ遂ニ該原書

ノ翻譯ヲ完了セリ

該原書翻譯ノ着手ニ先タチ予ハ原著者タル少將「フォン、ツォーペル」氏ノ承認ヲ求ムルノ必要アリシヲ以テ同氏ニ其趣ヲ通信セント欲セシモ同氏ノ居所明瞭ナラザリシ爲メ通信ヲ遂行スルニ由無ク止ムヲ得ス當時獨逸國駐在我國公使館附武官ニ頼リ同少將ニ前記ノ趣旨ヲ照會セラレンコトヲ懇囑セリ爾來予ハ同武官ノ回答ヲ待ち在リシニ一年有半ヲ經ルモ該武官ヨリ予ニ對シ一言半詞ノ回答無シ昨秋ニ至リ予ハ翻然思ラク依頼スヘカラサル人ニ依頼セシハ予カ終生ノ過失ナリ若カス是ヨリ斷然原著者ニ向テ直接照會ノ策ヲ講センニハト是ニ於テ原著者ノ居所充分明瞭ナラサルニモ拘ハラズ遂ニ直接通信ヲ爲セリ然ルニ該通信ハ幸ニシテ原著者ノ許ニ達シ同氏ハ滿腹ノ同情ト喜悅トヲ以テ直チニ予ニ與フルニ翻譯刊行ノ承認ヲ以テセリ先ノ同胞在外武官ノ超然主義ト後ノ異邦原著者ノ友誼的熱情トヲ兩々相對照シ予ハ衷心實ニ無量ノ感慨ニ堪エザリキ依テ原著者ノ情誼ニ對シテモ刊行ハ一日モ迅速ナルヲ可

トスト雖昨今ニ於ケル予カ職務ノ繁劇ハ予ヲシテ容易ニ該翻譯書ノ校正ニ時間ヲ見出スコトヲ得セシメス然ルニ幸ニシテ滿洲守備ノ特賜休暇二週間ヲ得タリシヲ以テ晝夜兼行該翻譯書ノ校正ヲ完了シ書肆ノ請ニ應シテ之ヲ東京ニ郵送セリ

本原書ハ主トシテ野外要務令步兵操典步兵射擊教範野戰築城教範等ノ原則ヲ説キ之ヲ證明スルニ適當ナル戰例ヲ以テシ專ラ初級士官ノ戰術教科書トナスヲ目的トセシモノナレトモ其他ノ將校及下士以下ノ參考用書トシテ敢テ不可ナル所ナキハ予ノ固ク信シテ疑ハサル所ナリ只予ノ淺學菲才ナル原書ノ趣旨ヲ充分ニ發表スルコト能ハサルヲ遺憾トス本原書ハ第八版ニシテ最新ノモノニ屬スト雖獨逸國ニ於テハ其後千九百六年ニ於テ步兵操典ノ改正アリ我國ニ於テモ明治三十九年十二月步兵操典改正草案發布セラレ次テ昨年三月步兵射擊教範改正草案發布セラレ同年十月野外要務令ノ改定アリ本年一月ニ至リ野戰築城教範改正草案又發布セラル依テ予ハ此等ノ改正獨逸步兵操典及我國改定野外要

四
務令并ニ改正草案ノ典範諸書ヲ熟讀シ而シテ本原書ト對照スルニ其精神ハ概シテ異ナル所無キモ些細ナル點ニ於テ若干意義ノ相異ナルモノアリ或ハ更ニ新タナル規定トシテ増加セラレシモノアリ依テ予ハ蛇足ノ譏ヲ願ミス本原書ニ記載シ在ル趣旨カ右改定若クハ改正草案ノ原則ト若干相違スルカ或ハ其趣旨同一ナルモ改定若クハ改正草案ノ記述カ一層詳密ナルトキハ其部分タケテ特ニ摘出シテ翻譯文ノ相當欄外ニ揭示シ以テ兩々相對照スルノ便ニ供セリ

熟ラ方今字内ノ形勢ヲ觀察スルニ火器及戰術ノ進歩ハ屢々トシテ底止スル所ヲ知ラス故ニ數年前ニ於テ刊行セラレシ戰術書ハ其種類ノ如何ヲ論セス右改定若クハ改正草案ノ諸書ト必ス相對照シテ研究スルハ緊要ニシテ今日ハ實ニ其最好時期タルヲ確信ス
原著者トノ通信ニ際シ予カ爲メニ大ニ斡旋ノ勞ヲ執ラレタル陸軍二等軍醫正大高信藏君並ニ元參謀本部陸軍編修兵藤三郎君ノ友誼的懇情ヲ感謝ス

明治四十一年二月十一日紀元ノ佳節攝津國有馬温泉場池ノ坊旅館
閑雅幽靜ナル別莊樓上ニ於テ之ヲ識ス

譯者

戰史例證戰術教科書目次

第一章 行軍ニ於ケル警戒勤務

- 一、敵ノ近傍ニ於ケル行軍
- 二、尖兵ノ責務及前兵ノ動作
- 三、側衛ノ責務及動作
- 四、敵ヲ發見セントキノ處置
- 五、縱隊内(本隊等)ニ於ケル兵卒ノ動作
- 六、前衛及後衛ニ關スル一般ノ原則

第二章 前哨勤務

- 一、前哨ノ目的及區分
 - イ、前哨本隊
 - ロ、前哨中隊
 - ハ、小 哨

目次

一
一
一一
二七
三六
四二
四七
五〇
五〇
五四
五四
五六

- ニ、獨立下士哨 六二
- ホ、下士哨 六二
- ハ、查哨 六三
- ト、複哨 六三
- 二、複哨ハ如何ニシテ敵ヲ發見スヘキカ 六五
- 三、敵ヲ發見セシトキノ處置 七五
- 四、晝間ニ於ケル問查 八八
- 五、夜間ニ於ケル問查 九五
- 六、小哨ニ於ケル動作 九八
- 七、銃前哨 一〇三
- 八、要塞戰ニ於ケル前哨 一〇四

第三章 斥候勤務

- 一、一般ニ於ケル斥候ノ目的及責務 一〇六
- 二、如何ニシテ斥候ハ敵方ニ前進スヘキカ 一〇八

- 三、敵ノ近傍ニ於テ斥候ハ如何ニシテ必要ナルコトヲ視察スヘキカ 一二三
- 四、如何ニシテ斥候ハ再ヒ歸還スヘキカ 一三五
- 五、前哨内部ニ於ケル斥候ノ目的及責務 一三六
- 六、其他ノ前哨斥候ノ動作 一三九
- 七、前哨ノ密集部隊ニ在ル兵卒 一四四
- 八、報告 一四七

第四章 宿營

總則

- 一、露營 一五二
- イ、露營ニ於ケル諸勤務 一五三
- ロ、外衛兵及歩哨ノ責務并ニ動作 一五七
- ハ、露營ニ於ケル兵卒 一六七
- ニ、敵襲ニ際シテノ動作 一六九

二、舍 營

總 則

イ、敵ノ近傍ニ於ケル舍營

ロ、舍營及緊急舍營ニ於ケル兵卒

ハ、敵襲ニ際シテノ處置

第五章 戰鬪術

一、一般ニ於テ兵卒ノ具有スヘキ性質及責務

二、戰鬪ノ種類

イ、通 則

ロ、散開戰鬪

α、中隊ノ戰鬪隊形

β、散開隊次ノ戰鬪ニ於ケル幹部及兵卒ノ動作

1、通 則

2、平坦地ノ戰鬪ニ於ケル幹部及兵卒ノ動作

四

一七四

一七四

一七六

一八二

一八七

一八九

一九九

一九六

一九六

二〇三

二〇三

二〇八

二〇九

二二五

作

3、斷絶地及蔭蔽地ノ戰鬪ニ於ケル幹部及兵卒ノ動作

二二八

4、散兵線ノ運動

二二七

5、戰鬪斥候

二四四

ハ、射撃戰鬪

二四五

α、射撃ノ學理

二四七

β、各人ニ由ル銃ノ應用法

二五四

γ、指揮官ノ直接指揮ニ於テ獨逸國八十八年式銃ノ應用

法(部隊射撃)

二五五

1、射撃効力

二五五

2、照尺ノ使用法及照準規定

二五六

3、射撃指揮及射撃軍紀

二五七

通 則

防禦ニ於ケル射撃指揮

二七三

目 次

五

攻撃ニ於ケル射撃指揮 二七七

退却ニ於ケル射撃指揮 二七九

ニ、密集戦闘 二八二

ホ、相互ノ連繫ニ於ケル散開及密集戦闘 二九三

 a、攻撃(攻撃戦闘) 二九四

 b、防禦(防禦戦闘) 三〇七

 c、退却 三二四

 d、各兵種ニ對スル動作 三二六

 1、歩兵ニ對スル動作 三一六

 2、騎兵ニ對スル動作 三一八

 3、砲兵ニ對スル動作 三三三

ヘ、局地戦闘 三三七

 a、村落及大莊園ニ於ケル戦闘 三三七

 b、森林及叢林ニ於ケル戦闘 三三一

 c、陸路縱令ハ橋梁凹道等ニ於ケル戦闘 三三二

 d、高地ニ於ケル戦闘 三三四

ト、工事ノ利用 三三五

第六章 距離測量 三三八

第七章 野戰ニ於テ特發ノ事項及企圖 三五〇

 一、徵發隊ノ派遣及輸送ノ掩護 三五〇

 二、伏兵及誘致兵 三五六

 三、軍用倉庫、廠舎并ニ軍事的作業ノ掩護 三五九

 四、別働隊及義勇兵 三六一

 五、捕虜ノ護送 三六四

 六、輸送ニ對スル攻撃 三六六

 七、交通機關ノ破壞及使用停止并ニ其修復 三六九

イ、小路、街道、淺瀬 三六九

ロ、橋梁 三七五

ハ、軍隊ノ渡河	三七七
ニ、鐵道及電信	三七八
八、局地ニ於ケル築壘并ニ築城諸工事	三七九
イ、森林ニ於ケル築城工事	三八三
ロ、隘路ニ於ケル築城工事	三八四
ハ、家屋ニ於ケル築城工事	三八六
ニ、莊園製造場及停車場等ニ於ケル築城工事	三八八
ホ、村落ニ於ケル築城工事	三八九
ヘ、城壘無キ市街ニ於ケル築城工事	三九二

戰史例證戰術教科書目次終

戰史例證戰術教科書

獨逸 陸軍少將ブォン、ツォーベル氏著
日本 陸軍歩兵少佐鈴木義任譯

第一章 行軍ニ於ケル警戒勤務

一、敵ノ近傍ニ於ケル行軍

敵ノ近傍ニ於テ軍隊ハ警戒無ク行軍シ得ヘキモノニアラス若シ或ル軍隊カ敵地ニ於テ警戒無ク行軍センカ敵ハ路傍ニ潛匿シ或ハ他ノ方向ヨリ來リ驀然トシテ警戒無キ行軍軍隊ヲ奇襲スヘシ事茲ニ至ラハ該軍隊ハ充分ナル戰備ヲ以テ敵ニ當ルコト能ハサルカ故ニ多クハ不利ノ戰鬪ヲ爲スノ止ムヲ得サルニ陷ルモノナリ

此危害ヲ避クヘキ爲メニ行軍縱隊ハ其前方適當ノ距離ニ一ノ掩護隊ヲ

派遣ス之ヲ前衛ト稱ス又縱隊ノ後方ニ敵襲ノ顧慮アルトキハ縱隊ノ後方適當ノ距離ニ一ノ掩護隊ヲ派遣ス之ヲ後衛ト稱ス又側方掩護ノ爲メニハ縱隊ノ一側又ハ兩側ニ若干ノ掩護隊ヲ派遣ス之ヲ側衛ト稱ス此等ノ掩護隊ヨリ更ニ一部隊若クハ散兵ヲ尖兵或ハ側斥候トシテ派遣ス其目的ハ主トシテ行軍縱隊ノ爲メニ適當ノ範圍内ニ於テ可成精密ニ敵情及地形等ヲ搜索シ敵襲ニ際シテハ一時敵ヲ拒支シテ縱隊ニ充分ナル戰鬪準備ヲ得セシムルニ在リ

總テ此等ノ目的ヲ以テ派遣セラルヘキ部隊及動作ヲ警戒部隊并ニ警戒勤務ト名ク

各兵種ヨリ編組セラレタル大ナル行軍縱隊ニ在リテハ最前線ニ於ケル警戒勤務ハ通常騎兵之ヲ擔任スルモノトス然レトモ其任務ニ於テハ多少異ナル所アリ即チ大ナル範圍内ニ於テ殆ント獨立的ニ搜索及警戒勤務ヲ擔任スルモノ之ヲ獨立騎兵ト稱シ前衛若クハ後衛ニ屬スルモノハ之ヲ前衛騎兵若クハ後衛騎兵ト名ク後者ニ在テハ前者ノ如ク廣範圍ニ

二

於テ獨立的行動ヲ爲サスシテ斷ニス行軍縱隊ト連絡ヲ保持セサルヘカラサルヲ以テ搜索範圍モ亦獨立騎兵ノ如ク廣大ナル能ハス

騎兵ノ後方ヨリ前進スル步兵縱隊モ亦通常前衛及後衛ヲ編成シ必要ニ際シテハ側衛ヲモ派遣スルモノトス然レトモ此場合ニ於ケル步兵縱隊ハ前方ニ在ル騎兵ノ爲メニ搜索範圍及警戒勤務ヲ若干輕減シ得ヘキモノトス但シ前方ニ在ル騎兵トノ連絡ハ斷ニス之ヲ保持スルコトニ努力セサルヘカラス

前衛及後衛ノ兵力ハ步兵縱隊ノ三分ノ一ヨリ六分ノ一迄ニ増減セララル、モノトス故ニ步兵一中隊ニ在テハ一小隊ヲ以テ前衛ト爲スコト多シ然レモ戰時編成ノ中隊ニ在テハ半小隊ヲ以テ前衛ト爲スコトアリ此等ノ前衛部隊ハ亦更ニ一小部隊ヲ尖兵トシテ其前方ニ派遣スルモノトス步兵一大隊ニ在リテハ一中隊ヲ以テ前衛ト爲シ其中隊ヨリ一小隊若クハ半小隊ノ前兵ヲ出シ其前兵ヨリ一小部隊ヲ尖兵トシテ更ニ其前方ニ派遣スルモノトス步兵一聯隊ニ在リテハ通常一大隊ヲ以テ前衛ト爲シ

在スルトキハ該騎兵カ行軍縱隊ノ前方或ハ後方幾何ノ距離ニ在テ行進スルカ等ニ由テ自ラ決定セラル、モノトス

通過スヘキ地形若干ノ蔭蔽地アルモ多クハ開濶地ヲ以テ形成セラル、トキハ單ニ蔭蔽地若クハ敵襲ノ顧慮アル方向ニ側衛ヲ派遣シ其他ノ方向ニ於ケル警戒法ハ大ニ輕減セラル、モノトス此場合ニ於テハ後衛ハ概テ其必要ヲ見サルモノトス如何ントナレハ斯ノ如キ地形ニ在テ斯ノ如キ警戒法ヲ以テ行進スレハ後方ヨリ不時ノ奇襲ヲ受クル如キハ殆ント絶無ナルヲ以テナリ然レトモ千八百七十七一年戰ニ於テ獨逸軍カ佛蘭西國內ヲ行軍セシ際ニ於ケルカ如ク佛蘭西ノ人民競テ義勇兵或ハ別働隊トナリ種々ノ密謀ト詭計トヲ以テ屢々獨軍ヲ奇襲セシ如キ形勢ニ在テハ其警戒勤務ハ最モ嚴密ニ且ツ周到ナラサルヘカラス殊ニ徵發隊若クハ軍需品輸送隊ノ如キ部隊ニシテ其兵力一中隊内外ニ過キスシテ該部隊カ森林若クハ住民地ヲ通過スル際ノ如キハ最モ細心注意シテ危險ヲ豫防スヘキモノトス

此等ノ部隊カ千八百七十七一年佛蘭西國ニ於テ該人民ヨリ如何ニ多クノ損害ヲ受ケタリシカハ當時ノ歴戦者ハ今猶記憶ニ存スルナラン當時佛國ニ於テ義勇兵ナルモノ到ル處ニ編成セラレ其一部ハ統一的ニ武装セラレシト雖モ所在村落ノ壯丁ヨリ成立セシモノノ多クハ一定ノ武装ナク通常人民ノ服装ニ於テ相團結シ一地ニ潛匿シテ通過スル獨逸軍ヲ奇襲シ然ル後忽然トシテ其踪跡ヲ没スルヲ常トセリ或ハ此等義勇兵ノ中全ク無爲ノ陪觀人ヲ裝ヒ村落ノ出口或ハ入口ニ佇立シテ獨逸軍隊ノ通過ヲ窺ヒ其小部隊ノ通過ヲ確認スルヤ彼等ハ今迄隱匿シ置キシ銃器ヲ携ヘテ村落内適當ノ場所ニ潛匿シ以テ小部隊ノ通過ヲ待チ其適當ナル距離ニ達スルニ及ヒ俄然急射撃ヲ之ニ加ヘタリシ例證實ニ尠ナカラス

以上記述セシ事實ヲ證明スル爲メニ左ニ其實例ヲ掲載ス

第一例 第二豫備獵兵大隊ハ兵站監部ニ屬シヒートルイレエフランクアイスニ在リ千八百七十年十二月該大隊ノ一中隊カ大尉某ノ指揮ノ下

小部隊カ行軍中村落ニ於テ敵國義勇兵ノ爲メニ被リシ損害ノ戰例

ニ軍用税ヲ徵集スヘキ任務ヲ以テ或ル方面ニ派遣セラレタリ此中隊
カ充分ノ警戒ヲ以テコンフランヌ村附近ニ達シタリシトキ大尉某ハ
村落ノ入口ニ集團シテ佇立シ在リシ住民ニ村長ノ所在ヲ訊問スヘキ
爲メニ中隊ノ先頭ヲ超ヘテ若干距離ヲ前進セリ而シテ彼カ住民ト談
話ヲ交換シ在ル間ニ中隊ノ尖兵モ亦到着セリ此時村落ノ各家屋ヨリ
俄然トシテ銃聲起ルヤ今迄無爲ヲ装ヘタリシ村落ノ住民ハ忽然トシ
テ圍壁又ハ離墻ノ後方ニ走リ銃ヲ以テ戰鬪ヲ準備シ大尉某ハ第一ニ
重傷ヲ負ヘリ此不時ノ奇襲ニ際シ且ツ重ク傷ケラレシ大尉ハ創痕ニ
屈セス驅足ヲ以テ中隊ニ合シ喊聲ヲ揚ケテ村落ニ突入セリ此時村落
ノ各方面ヨリ銃彈雨ノ如ク飛來シ武器ヲ携ヘシ住民ハ時々刻々ニ増
加シ茲ニ劇烈ナル一場ノ市街戰ヲ形成スルニ至レリ中隊ハ奮戰最モ
努ムト雖他ニ後續部隊無キヲ以テ此村落ヲ突破シテ行軍ヲ續行スル
コトハ不可能ト爲リ止ムヲ得ス退却セサルヘカラサル狀況トナレリ
斯カル急遽ノ際ニ於テ重傷ヲ負ヘタリシ大尉某ヲ運搬スルコト至難

警戒ナキ行軍縱隊
カ敵ノ奇襲ヲ受ケ
甚ダシキ損害ヲ被
リシ戦例

ナリシヲ以テ之ヲ村落内ノ或ル家屋ニ殘置セリ譯者曰ク如何ニ困難
ナル情況ト雖負傷セル指揮官ヲ殘置シテ退却スル如キハ甚タ不可ナ
リ負傷セル大尉某ハ今ヤ殘虐ナル仇敵ノ掌裡ニ在リテ無殘ニモ其死
ヲ待ツノ果敢ナキ形勢ニ瀕シツ、在リ翌日獨逸軍ノ大部隊カ該村落
ニ來リ一方ニハ住民ニ脅懾ヲ加ヘ一方ニハ負傷セル大尉ヲ救出セン
ト企テタリシモ大尉ハ其後直チニ殘虐ナル住民ヨリ屠殺セラレ剩サ
ヘ其遺骸ハ水中ニ投棄セラレ友軍部隊カ企圖セシ救援ノ舉モ遂ニ空
シク水泡ニ屬スルニ至レリ

第二例 第二例トシテ警戒ナキ行軍縱隊カ敵ノ奇襲ニ遭遇シテ如何ナ
ル損害ヲ惹起セシカヲ掲ケ更ニ一步ヲ進メ如何ニセハ此損害ヲ避ケ
得ラル、カニ就テ讀者ニ一考ヲ煩サント欲ス
千五百五十五年普魯士帝國軍ハ曾テ佛蘭西軍ヨリ奪取セラレシメッ
ツ要塞ニ向テ奇襲ヲ企テタリ然ルニ佛軍ハ豫メ間諜ニ由テ此事ヲ探
知シ普魯士帝國軍ノ通過スヘキ地區中彼等ニ最モ不利ニシテ佛軍ニ

最モ有利ナル地點ニ伏兵ヲ潜匿セシメ以テ普軍ノ前進シ來ルヲ待テ
 普軍ハ一ノ尖兵モ亦一ノ側衛モ派遣セス從テ敵ヲ搜索スヘキ手段ヲ
 一モ施ス所ナク一ノ行軍縱隊ヲ以テ漫然行進ヲ續行シ途中伏兵ニ遭
 遇スルカ如キ願慮ハ毫モ之ヲ念頭ニ置カサリキ
 餘念ナク行進シ來レル普軍ニ向テ佛軍ハ驀然トシテ潜匿所ヨリ躍出
 シ不意ニ普軍ノ縱隊ヲ側面及前方後方ヨリ猛烈ニ掩撃セリ是レカ爲
 メニ普軍ハ全ク潰走シ一ノ抵抗モ爲スコト能ハサリシノミナラス大
 部分ハ佛軍ノ爲メニ捕獲セラレ一部分ハ死傷者トナリテ道路上ニ横
 ハレリ
 讀者須ラク一考セヨ若シモ普軍カ一ノ前衛ヲ縱隊ノ前方ニ行進セシ
 メ尖兵及側衛候ニ由テ前地ヲ搜索シタランニハ恐ラク適當ノ時期ニ
 於テ佛軍ノ伏兵ヲ發見シ得タリシナラン然ルトキハ普軍ハ斯ノ如キ
 不時ノ厄難ニ遭遇スルコト無カリシナルヘキコトヲ

二、尖兵ノ責務及前兵ノ動作

尖兵ノ主ナル責務ハ敵ヲ早く發見シ速ク報告スルニ在リ
 此目的ヲ達成スヘキ爲メニハ尖兵ハ行軍縱隊ノ前方及兩側ヲ數百歩間
 綿密ニ搜索セサルヘカラス此搜索ニ際シ尖兵ハ如何ナル場所カ敵ノ伏
 兵ヲ置クニ最モ適當スルヤ否ヤヲ商量セサルヘカラス即チ敵ノ騎兵ハ
 特ニ好テ波狀地並ニ開濶地ニ在ル森林及莊邸ノ後方等ニ潜伏シ在ルモ
 ノナリ又歩兵ハ通常採石場、凹道、鐵道堤防後、墓地及森林等ニ埋伏所ヲ撰
 定スルモノナリ故ニ此等ノ埋伏所ハ充分綿密ニ觀察シ且ツ周到ニ搜索
 セサルヘカラス
 尖兵ノ兵力ハ一分隊ヲ下ラサルヲ要ス是レ即チ後方ヨリ援助ヲ仰カス
 必要ナル搜索ヲ現人員ヲ以テ遂行シ得ンカ爲メナリ蔭蔽シテ一ノ展望
 モ許サス且ツ前方ニ一ノ騎兵モ有セサル大ナル部隊ニ在テハ尖兵ヲ一
 分隊以上ニ増加スルモノトス之ニ反シ展望自在ナル地形ニ在リテハ尖
 兵ノ兵力ハ六乃至八人ニ減少セラル、コトアルモノトス但シ小部隊ニ

在テハ其兵力ニ應シ尖兵トシテ單ニ三人乃至六人ヲ使用スルコトアリ
大ナル部隊ニ於テ尖兵ノ指揮ハ通常一將校之ヲ擔任スルモノトス小ナル
部隊ニ在リテ若シモ將校ノ人員寡少ナルトキハ尖兵ノ指揮ハ一下士
之ヲ擔任スルコトアリ

尖兵ハ散開隊形ヲ以テ前進ス而シテ通視ノ難易ニ由リ尖兵ノ後方五十
歩百歩或ハ之ヨリ以上ノ距離ニ二人ノ兵卒ヲ前兵トノ連絡ノ爲メニ配
置スルモノトス此連絡兵モ亦道路上通視ノ難易ニ從ヒ二人相並ヒテ道
路ノ兩側ニ沿ヒ或ハ適當ノ距離ヲ取り前後ニ相重ナリテ行進シ其後方
ニハ前兵前進ス

地形平坦開濶ニシテ展望自在ナルトキハ尖兵ハ密集シ或ハ道路上ヲ行
進スルノミヲ以テ足レリトス然レトモ蔭蔽斷絶ニシテ展望ヲ妨クルト
キハ尖兵ハ道路上及其兩側ニ廣間隔ニ散開シ且ツ側方搜索ノ爲メ必要
ニ際スレハ更ニ該方向ニ若干人ヲ派遣スルモノトス
尖兵ハ敵ヲ成ル可ク早ク發見シ速ニ報告セサルヘカラスルカ故ニ展望

ニ便利ナル地點ハ勉メテ之ヲ利用スルヲ要ス故ニ通過スヘキ地區内ニ
之ニ適當ナル地點アリテ尖兵若シ之ヲ利用セサルトキハ尖兵長ハ其中
ノ一二人ニ命シ必ス該地點ヨリ敵情ヲ展望セシメサルヘカラス
後衛尖兵ハ特ニ奮勵シテ監視ヲ嚴密ニ實行セサルヘカラス是レカ爲メ
適當ナル高地等アルトキハ若干分時該地點ニ止マリ敵方ノ地形ヲ展望
シ敵カ後方或ハ側方ヨリ行軍縱隊ニ向テ近接スルヤ否ヤヲ觀察スルヲ
要ス此際連絡兵ハ正確ニ尖兵ノ動作ニ注意シ尖兵ト後衛後兵トノ連絡
ヲ確實ニ保持セサルヘカラス若シ此注意ヲ懈ルトキハ尖兵ト連絡兵及
後兵トノ連絡ハ全ク斷絶シ又回復スルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ萬
一斯ノ如キ場合ニ際會セシトキハ連絡兵ハ時機ヲ失セス必ス後方ニ此
事ヲ報告セサルヘカラス

著者ハ或ル實見者ノ手記ヨリ最モ注意周到ニ且ツ敏活ニ尖兵勤務ヲ施
行セシ某部隊及兵卒ノ動作ニ關シ例證ヲ左ニ掲ケント欲ス

尖兵及其他ノ前衛

第三例 千八百七十一年一月獨逸軍カレエマンスニ向テ前進ノ際佛蘭

西軍ハ伏兵ヲ置キ獨軍ヲ途中ニ於テ掩撃セント企圖セリ然ルニ佛軍ノ此企圖ハ成功セズシテ却テ失敗ニ終レリ其原因ハ獨軍カ該地方ニ向テ行軍ノ際尖兵及側斥候等ヲ派遣シ充分ニ警戒セシニ由レリ即チ尖兵ハ漫然トシテ道路上ヲ行進セズシテ其兩側ニ散開シ活眼ヲ以テ根本的ニ且ツ敏捷ニ籬牆及林叢等ヲ搜索セリ假令ハ行進中疑ハシキ地區ヲ遠方ヨリ發見スルヤ尖兵ノ一二人ハ之ヲ搜索スヘキ爲メニ直チニ之ニ進入シ又展望ヲ資クヘキ高地等ニ出會スルヤ尖兵ハ必ス其地點ニ到リ以テ遠方ヨリ敵情ヲ候察セリ

又行進中屢々出會セシ所ノ道路ヨリ稍離隔セシ林叢ニハ必ス側斥候ヲ派遣シ最モ熱心ニ敵ヲ搜索セリ要スルニ該警戒部隊ハ本縱隊ノ爲メニ最モ果敢ニ最モ敏活ニ其任務ヲ遂行シ注意ト、胆勉トヲ以テ元來寡弱ナリシ兵力ヲ補ヘリ

斯ノ如ク行進ヲ續行シテ未タ二時間ヲ經過セサルニ尖兵ノ一人驅足ヲ以テ來リ報告シテ曰ク『右側斥候ノ報告○我々ノ前方約四百歩ニシ

テ本道ノ右側二百歩ニ在ル林叢中ニ敵ノ歩兵ヲ發見セリ其兵力ハ詳カナラサルモ一中隊ヨリ少ナカラサルモノ、如シ而シテ其中ニ乘馬セル二名ノ將校ヲ確認セリ』ト

是ニ於テ前衛司令官ハ敵ヲシテ知ラシメサル如ク歩兵一中隊ヲ該敵兵ノ側面ニ派遣シ同時ニ前方ヨリ之ヲ攻撃セリ忽チニシテ一場ノ劇戰ハ近距離ノ間ニ發生セシモ佛軍ハ不意ニ獨軍ヨリ側方及前方ヨリ攻撃セラレシ爲メ暫時ニシテ潰走シ死傷セサルモノハ多クノ將校ト共ニ概テ捕虜トナリ終レリ

尖兵又ハ斥候突然敵ヲ發見シ後方ニ報告ヲ送ルヘキ暇ナキトキハ其人ハ直チニ數回ノ急射撃ヲ爲シ以テ第一ノ報告ヲ爲シ然ル後實見者ハ驅足ヲ以テ其情況ヲ尖兵長若クハ報告傳達ノ爲メニ走リツ、在ル所ノ斥候ニ告知スルヲ要ス

經驗無キ兵卒ハ敵兵ヲ發見スルヤ彼カ向我ヲ目撃スルコトモ尙危險ヲ及ホスコトナキ遠大ノ距離ニ在ルニモ拘ハラス動モスレハ喧騒ヲ爲ス

ゴトアリ斯ノ如キ場合ニ於テ斯ノ如キ動作ハ甚タ我ニ不利ナルヲ以テ能ク沈着シテ靜肅ニ動作シ其中ノ一人ハ潜カニ退却シテ其情況ヲ報告シ他ノ一人ハ掩蔽シテ其位置ニ止マリ斷ニス敵ヲ監視シ在ラサルヘカラス

斯カル情況ハ我指揮官ニ最モ利益ヲ呈スルモノナリ如何シトナレハ指揮官ハ敵情地形任務及我兵力ノ多少ニ由テ前進シ來ル敵ニ對シ一ノ伏兵ヲ置キ之ヲ掩撃スヘキカ或ハ敵ノ兵力強大ニシテ我任務之ト衝突ヲ避クルヲ要スルトキハ敵ニ發見セラレサル中ニ於テ彼ノ虎口ヲ脱シ得ルヲ以テナリ

我々カ大ナル局地(莊邸村落森林籬牆灌木林葡萄園鐵道堤防谷地及其他一般ニ龜裂若ハ凹陥シ在ル地區)ノ搜索ニ際シテハ目下ノ情況ニ於テ其局地カ彼我ニ對シ如何ナル關係ヲ持ツカヲ充分ニ商量セサルヘカラス小ナル部隊ハ大ナル部隊ニ比シ敵ノ奇襲等ニ對シテハ其顧慮特ニ深シ然トモ目標小ニシテ縱長亦大ナラサル爲メニ住民地及大街道ヲ避ケ其

經過路ヲ山路森林地若クハ一般ニ蔭蔽シタル地區ニ取ルコトヲ得ルノ利アリ

小部隊ノ取ルヘキ道路ハ蔭蔽シタル高地若クハ林道ノ近傍ヲ可ナリトス如何トナレハ我レノ行進ヲ敵ヨリ發見セラレスシテ我レヨリ敵ヲ展望シ得ルノ利益ヲ有スルヲ以テナリ故ニ小部隊ハ必要ニ際スレハ迂路ヲ取ルモ亦可ナリ

要スルニ小部隊ハ敵ニ向テ勇敢ニ奇襲等ヲ斷行スルヨリモ注意周到ニ且ツ巧ミニ敵眼ヲ避ケ以テ其行進ノ目的ヲ達成スルコトヲ努メサルヘカラス故ニ小部隊ハ其尖兵ヲ或ル疑ハシキ莊邸凹道等ニ進入シ之カ搜索ニ從事スル間ハ能ク掩蔽シテ停止スルヲ要ス而シテ搜索ノ結果其異狀無キヲ認ムルヤ尖兵長ハ連絡兵ニ連絡兵ハ後續部隊ニ順次記號ヲ爲シ靜肅ニ復ヒ行進ヲ續行スルモノトス

數中隊數大隊數聯隊等ノ大ナル部隊ニ在リテハ前項ノ如キ遲緩ナル行進法ヲ取ルハ不可ナリ即チ斯ノ如キ部隊ニ於ケル尖兵ハ極メテ迅速ニ

搜索ヲ實行シ後方縱隊ヲシテ務メテ停止セシメサルヲ要ス殊ニ一定ノ時期ニ於テ一定ノ地點ニ到着セサルヘカラサル任務ヲ有スル縱隊ハ行進ノ遲緩スルコトヲ最モ深ク豫防セサルヘカラス千八百六十六年及千八百七十一年戰ニ於テ獨逸軍カ佛蘭西軍ニ向テ行軍ノ際屢々其必要ヲ實驗セリ故ニ斯ノ如キ情況ニ在テハ警戒部隊ハ緻密ニ過キタル緩徐ナル行軍ヨリハ寧ロ果斷ニ富ミタル迅速ナル行軍ヲ以テ大ニ優レリトスルコト多シ

大ナル地區假令ハ森林、穀物圃、地隙等ヲ搜索スルトキハ成ルヘク廣間隔ニ散開シタル散兵ノ隊形ヲ應用スルヲ可トス若シ此等ノ散兵カ右ノ地區ノ或ル一側ニ到着シタルトキハ散兵ハ先ツ外方ヨリ敵カ右ノ地區ヲ占領シ在ルヤ否ヤヲ觀察シ然ル後其中ノ若干人ハ迅速ニ其内部ニ進入シテ搜索ヲ遂行シ尖兵ハ停止スルコト無ク行進ヲ續行スルモノトス敵兵決然我ニ向テ前進スルトキハ尖兵ハ先ツ第一ノ散兵線ヲ形成シ此敵ヲ射撃ス敵ノ兵力強大ニシテ其勢ヒ猖獗ナルモ尖兵ハ遲疑スルコト

無ク全力ヲ盡シテ敵ニ向ヒ急射撃ヲ施シ以テ後續部隊ノ來援ヲ待タサルヘカラス

尖兵ノ動作ニ就テハ以上陳述セシ所ヲ以テ略々其趣旨ヲ明瞭ニスルコトヲ得ヘシ然レトモ充分軍事教育ニ感染セラレサル若年ノ兵卒ハ小部隊若シクハ斥候ニ於ケル警戒法ト大部隊ノ其レトヲ同一視シ大部隊ノ行軍ニ於テモ尙小部隊ノ行軍ニ於ケル時ノ如ク警戒法ヲ實施セントスル傾キアルヲ以テ指導者ハ最モ此點ニ注意セサルヘカラス尙他ニ一ノ最モ注意ヲ喚起セサルヘカラサル事件アリ近來各國相競フテ無烟火藥ヲ採用セシ結果敵兵自カラ巧ミニ掩蔽シテ一地點ヲ占領シ該所ヨリ射撃スルモ其地點カ果シテ何レノ部分ナルヤヲ知ルニ由ナク從テ尖兵及前兵ハ近距離ニ於テ甚タシキ損害ヲ被ルコト無キヲ保セス畢竟無烟火藥ノ採用ハ掩蔽者ニ頗ル有利ニシテ搜索者ニ頗ル不利ナルモノナルヲ以テ尖兵ハ從來ニ比シ一層注意ヲ倍蕞シ從來活動セシ範圍内ニ比シ更ニ一層廣範圍ニ於テ大ニ耳目ヲ活動セサルヘカラサルヤ固ヨリ論ヲ待

尖兵射撃ヲ受ケ其彈丸カ果シテ何レノ方向ヨリ來ルヤヲ知ル能ハサルトキハ先ツ掩護物ニ己レノ身ヲ托シ此處ヨリシテ更ニ精密ニ敵方ヲ觀察スルヲ要ス其他ノ尖兵モ亦注意シテ前地ヲ肉眼ヲ以テ觀察スル間ニ尖兵長ハ雙眼鏡ヲ以テ更ニ遠距離ノ地點ヲ觀察シ敵情及地形ニ關シ更ニ詳細ナル認識ヲ得ルコトニ努メサルヘカラス

飛來スル所ノ彈丸ノ多少ニ由テ及ヒ地形ノ種類ニ由テ詳言スレハ地形カ斷絶シ在ルカ或ハ平坦ナルカ或ハ展望ヲ許スヘキカ或ハ地區廣大ナルカ或ハ地區狹小ニシテ寡弱ナル部隊ニアラサレハ隱匿シ能ハサルカ等ニ由テ敵ノ兵力ヲ略ホ推察シ得ヘキモノナリ

此際尖兵ヨリ前兵ニ前兵ヨリ前衛本隊ニ送ルヘキ報告ハ最モ敏活ニ且ツ確實ナルヲ要ス

敵ニ就キ何等ノ情况モ得ルコトナキトキハ尖兵ハ尙敵火ヲ冒シテ適當ノ距離迄前進シ以テ敵情ヲ觀察セサルヘカラス

敵ノ射撃猛烈ニシテ從來取リ來リシ進路ヲ前進スル能ハサルトキハ若干從前ノ進路ヨリ離ル、モ支障無キヲ以テ成ルヘク速カニ適當ノ地位迄前進シ以テ敵情ヲ精密ニ觀察スルヲ要ス而シテ其後尖兵ハ依然トシテ其位置ニ止マリ尙敵ノ後方部隊等ニ就テ觀察ヲ爲スヘキカ或ハ從前ノ街道ヨリ更ニ前進ヲ續行スヘキカ或ハ街道ヨリ分岐スヘキカ或ハ他ノ道路ヲ取ルヘキカ或ハ一時停止スヘキカ且ツ尖兵ハ第一ニ何ニ注意シ何ヲ觀察スヘキカハ其時ノ情况ニ由テ自然決定セラル、モノトス

射距離充分ニシテ確實ナル命中効力ヲ有スル小口徑銃ヲ以テ攻者ヲ遠距離ヨリ既ニ充分ニ雜射シ得ル所ノ一ノ陣地ニ據レル防者ハ單ニ物質上ノ關係ヨリ觀察スルトキハ實ニ次ノ利益ヲ有ス即チ無烟火藥ノ採用以來有烟火藥ノ時代ニ比シ其占領位置ヲ秘匿スルニ最モ便利ナリ從テ一陣地ニ巧ミニ掩蔽シ在ル守者ハ其地位及兵力ニ就テ攻者ニ一ノ認識モ與ヘサルコトヲ得ルモノナリ

此原因ヨリ方今ニ於ケル戰鬪開始ハ以前ニ比シ往々時間ヲ費スコトア

ヲ是レ豫測シ難キ敵火ノ中ニ進入シテ決戦ヲ賭スルコトハ大ニ慎重ノ考慮ヲ要スル問題ナレハナリ又目下採用シツ、在ル火器ハ其射距離遠大ナルカ爲メニ戦闘ハ概テ遠距離ヨリ開始セラル、ヲ以テ其發展ヲ見ルハ以前ニ比シ長時間ノ後ニ在ルハ著者ノ信シテ疑ハサル所アリ火器ノ進歩ニ由リ騎兵斥候カ敵火ヲ冒シテ行進ヲ續行スルハ必要ナル報告ヲ友軍ニ傳達スル時ノ外殆ント稀有ニ屬スルモノナリ尙將來ニ於テハ此等ノ勤務ハ歩兵ノ手ニ歸スルナラン就中尖兵并ニ尙前方ニ派遣セラルヘキ歩兵斥候ハ敵ニ接近スル迄潛行シ而シテ敵ノ兵力陣地及處置等ニ就キ詳細ノ偵察ヲ爲シ以テ必要ナル報告ヲ適當ノ時期ニ上官ノ許ニ進達セサルヘカラス是レカ爲メ尖兵及斥候ハ地形ヲ最モ能ク利用シ其動作ハ敏活ニシテ如何ナル危険ニ際會スルモ決シテ躊躇逡巡スヘカラス要スルニ此等ノ勤務ニ當ル所ノ人員ハ實ニ我軍ノ安危ト名譽トヲ己レノ雙肩ニ擔ヒ居ルモノナルコトヲ肝銘セシムルヲ要ス

一ノ村落ヲ進路ノ前方ニ發見スルヤ尖兵長ハ先ツ敵カ其村縁ヲ占領シ

在ラサルヤ否ヲ雙眼鏡ヲ以テ觀察セサルヘカラス從來ノ經驗ニ由レハ此注意ヲ缺キタル行軍縱隊カ村落内ニ進入セントスルニ際シ不意ニ敵ノ射撃ヲ受ケ損害ヲ被リシ實例尠ナカラス

村落前或ハ村縁ニ關シ敵ニ就テ何モ得ル所ナキトキハ尖兵ハ直チニ廣正面ヲ以テ該村落内ニ進入シ最近ノ家屋ヨリ住民ヲ拉シ來リ之ニ敵情ヲ問ヒ且ツ必要ニ際シテハ之ヲ拘留シ置クモノトス

尖兵ノ一部ハ街道上ヲ前進シ他ノ一部ハ墓地、學校、製造所、鐵道停車場等ヲ搜索スルモノトス

尙數人ノ住民ニ敵情ヲ訊問シ其答辨ヲ彼此比較シ其一致ノ多少ニ由テ真相ヲ發見スルコトアリ

尖兵ノ若干人若クハ側斥候ハ村落ノ外部ヲ繞回スルヲ可トス是レ敵カ外方ヨリ村落ニ向テ接近スルヲ發見スル爲メト或ハ曾テ敵兵カ村落内ニ進入セシコトアルカ或ハ村落内ヨリ外方ニ出テ行キシカヲ其足跡ニ由テ知ルニ便ナランカ爲メナリ

敵國ニ於テハ該地ノ村長ヲ人質トシテ必要ノ間之ヲ拘留シ置クヲ可トスルコトアリ

尖兵ノ兵力寡少ニシテ必要ノ範圍内ニ於ケル全部ノ搜索困難ナルトキハ其支援トシテ前兵ヨリ所要ノ方向ニ斥候ヲ派遣スルモノトニ
行軍縱隊ノ大小ニ拘ハラズ隘路即チ橋梁淺瀬及兩側通過シ難キ堤道并ニ急造橋等ヲ通過セサルヘガラサルトキハ其通過ニ先タチ尖兵ヲ該隘路ノ前方ニ派遣シ適當ノ位置ヲ占領セシメ且ツ斥候ヲ所要ノ方向ニ放チテ警戒及搜索ヲ嚴ニシ而シテ縱隊ハ隘路ヲ通過スヘキモノトス若シ縱隊カ該隘路ヲ再ヒ背進スルヲ豫期スルトキハ該縱隊ハ斥候又ハ一小部隊ヲ該隘路ノ監視トシテ殘置スルモノトス是レ縱隊背進ノ際確實ニ該隘路ヲ利用セント欲スルカ爲メナリ故ニ隘路監視部隊ハ縱隊通過ノ後敵兵該隘路ニ向テ突進シ來ルトキハ飽迄頑強ニ之ヲ防遏セサルヘカラス若シ敵勢猖獗ニシテ寡弱ナル隘路監視隊ニテハ到底其侵入ヲ防止シ能ハサルトキト雖モ友軍ニハ必ス其情況ヲ詳細ニ報告シ以テ友軍ヲ

シテ再ヒ該隘路ヲ通過スル爲メニハ如何ナル方法ヲ取ルヘキカ或ハ地ノ道路ヲ取ルヘキカニ就キ充分判斷シ得ル所ノ材料ヲ與ヘサルヘカラス

警戒無キ行軍部隊
橋梁上ニ於テ敵兵
ヲ受テ多クナル射撃
ヲ受テ多クナル損
害ヲ被ルハ例

第四例 最終ノ波蘭騷亂ニ際シ露國軍隊ハツアーゴロウオー附近ニ於テ前地ニ何等ノ警戒部隊ヲ派遣セスシテ橋梁ヲ通過セント欲シタリ而シテ密集部隊カ橋梁上ニ到着スルヤ猛烈ナル射撃ハ附近ノ林叢中ヨリ開始セラレ勇敢ニ且ツ注意周到ナル露國軍隊モ此不意ノ打撃ノ爲メニ多大ノ損害ヲ以テ橋梁ヨリ再ヒ退却セサルヘカラサル狀況ニ陷レリ

暗夜ニ於テハ搜索ハ殊ニ困難ナルモノナリ即チ先頭部隊ハ前方ニ於テ人聲或ハ人馬ノ行進音響ヲ聽取スルヤ直チニ之ヲ確ムル爲メ其中ノ若干人ヲ其方向ニ急進セシメサルヘカラス但シ其間查法ハ前哨ニ於ケル複哨ノ動作ト同一ニシテ敵ト衝突セシ場合ニハ機ヲ失セス此敵ニ向テ機先ヲ制スルノ處置ヲ爲スニト肝要ナリ

夜間ニ於テ彼我兩
隊衝突シ一方軍
ノ動作敏捷果斷ナ
リシ爲メ敵ニ對シ
テ有利ヲ得タリ

第五例 千八百七十年戰ニ於テ佛軍ト獨軍ト夜間ニ於テ衝突セシ趣味
アル戰例ヲ掲クヘシ
或ル夜獨軍ノ尖兵ノ一人ハ報告シテ曰ク「前方ノ山徑ヲ一小部隊カ攀
登スル如キ音響ヲ聞ケリ」ト其後亦尖兵ノ一人カ前ト同様ナル報告ヲ
爲セリ是ニ於テ獨軍ハ直チニ一地ヲ占領シ且ツ其指揮官ハ部下ニ命
令シテ曰ク「佛軍ノ最近距離ニ近接スルヲ待チ一ノ記號ノ下ニ攻撃ヲ
開始スヘシ」ト佛軍ハ漸次ニ近接セリ而シテ其前方ニ或ル部隊ノ存在
スルコトヲ察知セシモ此ヲ以テ獨軍ト判斷スルコト無ク却テ友軍ノ
現在スルモノナルコトヲ信セリ
遂ニ佛軍ハ近ク獨軍ノ三十歩前ニ來リシ時獨軍ノ一將校ハ「止レ、誰カ」
ト呼ヘリ此呼聲ハ蓋シ獨軍カ攻撃開始ノ記號ニテ在リシナリ獨軍ハ
此ノ呼聲ノ下ニ電光石火ノ如ク佛軍ニ衝突シ同軍カ急遽之ニ抵抗セ
ント欲スル間ニ其大部分ハ獨軍ノ爲メ既ニ捕獲セラル、ノ止ムヲ得
サルニ至レリ

夜間ニ於テ彼我兩
隊衝突シ一方軍
ノ動作敏捷果斷ナ
リシ爲メ敵ニ對シ
テ有利ヲ得タリ

第六例 千八百十三年グラウスベエレンノ會戰ノ後コルベルギツシニ
シテ步兵聯隊第二大隊ノ動作ハ最モ賞賛ニ價スヘキモノトス
暗夜ニ於テ一ノ騎兵部隊カ我側方ニ存在スルコトヲ察知セリ此時同
大隊ノ下士「ハーゼー」ハ此騎兵部隊ニ向テ勵聲「誰カ」ト疾呼セシニ直チ
ニ「普魯士軍ナリ」ト應答セリ仍テ同下士ハ更ニ「其中一人前ヘ」ト呼ビ
掛ケタリ此聲ニ應シテ騎兵部隊ヨリ一人ノ將校其隊ノ前方ニ進出セ
リ「ハーゼー」ハ此時彼騎兵部隊ハ普魯士軍ニアラスシテ其進出者ハ確
カニ敵ノ一將校ナルヲ察知セリ是ニ於テ「ハーゼー」ハ彼ノ敵ニ向テ
射撃ヲ爲シ大隊モ亦殆ント同時ニ射撃ヲ開始セリ此不利ナル打撃ニ
由テ敵ノ騎兵ハ損害ヲ受ケ戰場ヲ撤退スルノ止ムヲ得サルニ至レリ
地形搜索ノ際ニ於ケルモ亦敵ト衝突シ兵力ノ増加ヲ要スル際ニ於ケル
モ前兵ハ尖兵ノ爲メニ常ニ第一ノ支援タリ故ニ尖兵ト前兵トノ連絡ハ
最モ確實ニ保持セラレサルヘカラス

三、側衛ノ責務及動作

側斥候ノ兵力ニ關シテハ其任務ニ由テ自ラ決定セラル、モノトス即チ第一第二第四項ノ任務ヲ達成スル爲メニハ二人乃至三人ニテ足レルモ第三項ノ爲メニハ六人乃至八人ヲ要スルヲ通常トス其他側斥候ノ兵力ハ行軍縱隊ノ大小ニ應シテ増減セラル、ハ論ヲ俟タス

今茲ニ三十人ヨリ成ル一小部隊ノ側衛カ一縱隊ヲ以テ行進ヲ續行セント欲セハ其中ノ六人乃至八人ヲ尖兵トナシ三人ヲ後衛トナシ此等ノ警戒部隊ハ散開隊次ヲ以テ行軍縱隊ノ前方及後方ヲ警戒セサルヘカラス而シテ道路ノ側方約五百歩ノ地點ニ敵ノ潛匿シ得可キ一ノ墓地等ヲ發見スルヤ此地點ヲ搜索スヘキ爲メニ約二人ノ斥候カ該縱隊ヨリ派遣セラル、ナラン而シテ此斥候其任務ヲ遂行シ終レハ直チニ再ヒ該縱隊ニ歸還スルヲ常トス是レ即チ斯ノ如キ寡弱ナル部隊ハ爲シ得ル限リ其兵力ヲ集結シ置クノ必要アルヲ以テナリ

大ナル側衛ニ在テハ次ニ掲クル情況ニ從テ其行進隊形ヲ形成スルモノトス讀者須ラク想像セヨ一ノ獨立大隊ヲ以テ河孟村落ノ如キ低地ニシ

テ其間ニ大道ノ通シ在ル地區ヲ行進スルコトヲ又高地丘陵及山嶺間ヲ行進スルコトヲ面シテ此等ノ地形ニ遭遇スルコトノ如何ニ多キカハ別ニ説明ヲ要セサルヘシ又假定セヨ丘陵ハ下部ヨリ上部ニ至ル迄葡萄蘿樹木及各種ノ植物ヲ以テ蔭蔽セラレ側斥候等カ此内部ニ進入スルコトノ困難ナルノミナラス展望ニ就テハ只天空ト樹木トヨリ外ニ何物モ眼界ニ映スルモノ無シ是レ高地點ハ彼等ノ通過セント欲スル部分ヨリ多クハ離隔シテ存在スレハナリ又想定セヨ敵ノ別働隊カ斷ニス出沒スル地方ニ於テ長キ側面ヲ山地ノ方向ニ曝露シテ行軍スル縱隊ハ敵ノ攻撃ニ對シテ全ク危険ナシト斷言スルコトヲ得ルカラ

以上掲ケシ如キ情況ニ於テハ行軍縱隊ハ三十乃至五十人ヨリ成ル一ノ大ナル側衛ヲ縱隊ノ側方高地ニ派遣スルヲ可トス特ニ該縱隊カ其道路ヲ取り再ヒ歸還セント欲スルトキハ尙其必要ヲ見ル

小ナル側斥候ハ成ルヘク能ク掩蔽シテ行進シ必要以外ニ本縱隊ヨリ離隔セサルヲ要ス是レ警報ニ際シ射撃ヲ以テ本縱隊ニ報告ヲ爲サンカ爲ナリ

側斥候ノ任務ヲ充足スル爲メ三ツノ主要ナル方法アリ次ニ掲クヘシ
 第一ノ方法ハ主トシテ進路ノ附近ニ於テ高起セル地點ヲ求ムルニ在リ
 蓋シ彼等ハ此地點ヨリ敵方向就中此處ヨリ敵方ニ通スル道路並ニ該高
 地點ノ下ニ在ル穀物圃起伏地谷地谷道村落莊邸等ヲ容易ニ且ツ迅速ニ
 展望シ得ルヲ以テナリ而シテ該斥候ハ或ル疑ハシキ地點ヲ發見スルヤ
 其真相ヲ確得スル迄ハ飽迄搜索ヲ續行セサルヘカラス
 第二ノ方法ハ主トシテ情報ノ蒐集ニ在リ即チ斥候ノ一人カ時トシテ一
 家屋或ハ野外ニ在ル住民ニ近ツキ彼レニ此地方ニ於ケル敵ノ有無及敵
 カ何處ニ露營セシカ又ハ舍營セシカ或ハ何レノ方向ニ行軍セシカ又ハ
 敵ノ斥候ヲ見シカ或ハ該斥候カ何レノ方向ニ退却セシカヲ訊問ス但シ
 該斥候カ此等ノ土人ヲ訊問スル際己レノ言語ヨリシテ友軍部隊ノ情況
 ヲ自然土人ニ察知セラル、コト無キ如ク注意スルヲ要ス如何トナレハ
 我企圖ヲ土人ニ察知セラル、トヤハ土人ハ之ヲ敵ニ告知スルコトアル
 ヲ以テナリ

積雪上ニ印セル足跡ニ由リ敵ノ伏兵ヲ發見セシ實例

第三ノ補助方法ハ主トシテ足跡及蹄痕ニ注意スルニ在リ即チ如何ナル
 敵ト雖モ足跡及蹄痕ナクシテ野外ニ行動シ得ヘキモノニアラス故ニ行
 軍縱隊カ警戒範圍内ニ斥候ヲ派遣スルハ該斥候ハ其範圍内ニ於ケル足
 跡及蹄痕ハ必ス之ヲ檢知スルコトヲ得ルモノナリ蓋シ敵ハ原野ニ在リ
 テハ穀物牧草霜雪等ヲ蹂躪シ森林内ニ於テハ地上ニ堆積シ在ル木葉ヲ
 踏散シ土又ハ砂ヨリ成レル土質ニ在テハ無數ノ靴跡又ハ蹄痕ヲ道路上
 ニ殘置スルモノトス
 千八百七十、七十一年戰ニ於テ佛軍ノ伏兵ハ獨軍ノ爲メニ發見セラレシ
 實例アリ當時恰モ積雪中ニシテ道路ヨリ佛軍ノ埋伏所ニ到ル迄無數ノ
 足跡ヲ積雪上ニ殘セリ獨軍ハ此足跡ニ據リ容易ニ佛軍ノ伏兵ヲ發見ス
 ルコトヲ得タリ
 側衛ハ其本縱隊ノ指揮官ニ事變ノ有無ニ拘ハラズ屢々報告ヲ送呈セテ
 ルヘカラス蓋シ指揮官ハ異狀ナキ側衛ノ報告ニ由テ一ハ該方面ノ情況
 ヲ知リ一ハ側衛カ時々刻々其任務ニ服シ在ルコトヲ知ルヲ得ルヲ以テ

搜索ニ困難ナル地形ニハ敵ハ好テ伏兵ヲ隱匿セシメ置クモノトス是レ行軍縦隊ノ側斥候等カ搜索ノ爲メ之ニ進入スルハ至難ナルモノト信スレハナリ然レトモ前記ノ理由アルヲ以テ斯ノ如キ地區ハ尙一層精密ニ搜索セサルヘカラス

多クノ地方ニ於テ菓物ヲ守護スヘキ爲メニ地區ノ大部分ハ生籬木柵土坡及牆壁ヲ以テ圍繞セラレ在リ此等ノ圍廓内ニ侵入スルハ稍々困難ナルモ有爲ニシテ活潑ナル斥候ハ總テノ困難ト疲勞トヲ排除シテ圍廓内ニ侵入シ以テ搜索ノ目的ヲ達成スルモノナリ

草叢或ハ矮樹ヲ以テ蔭蔽セラレ側斥候ノ侵入ヲ殊ニ困難ナラシムル所ノ大ナル森林ヲ通過スル一部隊若クハ一縦隊ハ其警戒法ニ關シ更ニ一段ノ顧慮ヲ要スヘキモノトス此場合ニ於テ側斥候ハ敵ノ方向ニ對スル森林ノ一側ヲ迂回シ敵カ此森林内ニ侵入セシヤ否ヤヲ知ル爲メ森林ノ外部ニ於テ其足跡ヲ檢查スルヲ要ス但シ側斥候ノ内若干ハ森林ノ内部

ニ侵入シテ搜索スルハ勿論ノコトトス

若シ其森林尙廣大ナルトキハ縦隊ノ側方道路ニ派遣セラレシ側衛若クハ側斥候ハ縦隊ノ齊頭面ヨリ稍々前方ニ挺進シテ行進スルヲ要ス是レ側衛若クハ側斥候ハ臨時ニ發生スル音響ヲ聞クヘク爲メニ或ハ各高地點ヲ展望ニ利用スヘキ爲メニ或ハ林空地等ヲ通視スヘキ爲メニ屢々停止スルノ必要アルヲ以テナリ然レトモ側斥候ハ縦隊ト甚シク遠隔スヘカラス是ヲ以テ側斥候ハ縦隊ト約束スルニ小笛等ノ信號ヲ以テシ之ヲ適當ノ地點ニ於テ利用シ以テ縦隊トノ連絡ヲ確實ニ保持セサルヘカラス

平坦ニシテ一ノ觸起點ヲ有セス且ツ林叢等ヲ以テ蔭蔽セラレタル原野ハ側斥候ノ爲メニハ一ノ低地ニ價スルモノナリ斯ノ如キ地形ニ在テハ穀物菓樹白楊接骨木柳林堤防等到ル處ニ散在シ展望ヲ遮キルヲ以テ該地區ヲ行進スル縦隊若クハ一部隊ハ二百歩ノ距離ヲモ通視シ能ハサルヲ常トス又通過スヘキ道路ノ側方ニハ水ヲ以テ満たセル溝渠等アリ

テ側斥候ハ屢々之ニ出會スルナラン又地形敵ノ小伏兵ヲ置クニ適當ニシテ行軍縱隊ハ之ヲ急遽ニ驅逐スルコト困難ニ從テ伏兵ハ己レノ損害ヲ受クルコト無ク稍長時間縱隊ヲ射撃シ得ル如キ地形ヲ縱隊若クハ一部隊ハ往々通過セサルヘカラサルコトヲ覺悟スヘシ

此等ノ地區ニ於テ不時ノ危害ヲ避クヘキ爲メニ斥候ハ全力ヲ盡シテ側方ノ地形ヲ搜索セサルヘカラス而シテ若シ側斥候等カーノ溝渠等ニ出會シ之ヲ跳越スルコト能ハサルトキハ附近ノ家屋ヨリ板戸及梯子等ヲ持チ來リ之ヲ溝渠ノ兩岸ニ架シ以テ其上ヲ通過スヘシ若シ斯ノ如キ物ヲ缺クトキハ側斥候ハ水中ヲ徒涉セサルヘカラス

大ナル行軍縱隊ニ於テハ地形ノ搜索ハ概テ騎兵之ヲ擔任スルモノトス然レトモ或ル範圍内ニ於ケル側面ノ警戒ハ步兵之ヲ擔任スルハ勿論ナリ

四、敵ヲ發見セシトキノ處置

敵ヲ發見セシトキノ處置ハ其時ノ情況自ラ之ヲ決定スルモノトス然レ

前衛カ敵ノ前哨ニ
衝突シ果敢ナル動
作ヲ以テ奇勝ヲ得
ル戦例

トモ之ヲ概言スレハ敵ト不意ニ衝突セシ際ニ於テハ遲疑ナキ勇敢ナル突進カ多クハ速カナル勝利ヲ導クモノナルコトヲ銘心スヘシ

第七例 前項ノ事實ヲ證明スル爲メニ千八百十二年八月七日普魯士ノ

前衛部隊カウオルグンドニ向テ前進ノ際敢行セシ動作ヲ直接ニ模範トシテ引用セントス

前衛尖兵カ或ル森林ニ於テ敵ノ復哨ニ衝突シ彼レヨリ射撃ヲ受ケタリ是ニ於テ前兵ハ直チニ尖兵ニ増加シ前衛本隊ハ前兵ニ増加シ此等ノ部隊ハ一モ遲疑スルコトナク前進シ本隊モ尙速カニ其後方ニ跟隨セリ此勢ニ壓倒セラレ現在シタリシ敵ハ悉ク潰走シ森林ノ前縁ハ遂ニ普軍ノ占領ニ歸シ普軍ハウオルグンドニ對シ甚タ有利ナル位置ヲ占得スルニ至レリ

故ニ斯ノ如キ場合ニ際シ敵ノ射撃カ甚タシク我ヲ損害セサルコトヲ看破スルヤ遲疑スルコト無ク勇猛ニ前進スルヲ可トス然ラサレハ敵ハ其猶豫ノ時間ヲ利用シテ戰鬪準備ヲ完成シ從テ我攻撃ハ大ニ困難ニ至ル

前項ノ理由ニ由リ我行進縦隊カ搜索ノ爲メ百般ノ注意ヲ拂ヒシニモ拘
ハラス適時ニ於テ敵ノ伏兵等ヲ發見スルコト能ハスシテ却テ此物ヨリ
奇襲ヲ受クル如キ情況ニ際シテハ此等ノ敵兵ヲ第一ニ目撃シタル部隊
ハ電光石火ノ如ク該敵ニ向テ突進シ猛烈果敢ニ之ヲ攻撃スルカ或ハ彼
等ヲ急射撃ヲ以テ驅逐スルノ覺悟アルヲ要ス

第八例 普魯士軍側衛ノ勇敢ナル動作ニ就テ騎兵大尉某ハ彼レノ著書
「殊勳者新報」ニ甚タ趣味アル戰例ヲ記載セリ故ニ著者ハ之ヲ次ニ引用
ス

千八百六十四年二月二十日ニ於テ步兵第五十五聯隊第十中隊ノ下士
「ボーエー」ハ兵卒二十人ヲ率ヒテ縦隊ノ右側ヲ掩護スヘキ命令ヲ受領
セリ彼レハ附與セラレシ兵卒ヲ指揮シ注意周到ニ且ツ巧ミニ掩蔽シ
テ行進ヲ續行シツ、在ル間ニ遽然敵ノ步兵一中隊カ我ニ向テ前進シ
來ルヲ發見シタリ仍テ其部下ヲ一ノ波狀地ノ後方ニ隱匿セシメ彼レ

小ナル側衛カ大膽
ナル動作ニ由テ奇
功ヲ奏シタル戰例

前衛カ濃霧ヲ利用
シテ奇功ヲ奏シタ
ル戰例

ノ近接ヲ待チ大呼喊聲ヲ放チ彼ニ向テ突撃セリ
奇襲ニ關シ何等ノ豫想モ有セザリシ步兵中隊ハ不意ノ攻撃ニ對シ大
ニ驚駭シ直チニ退却ヲ始メタリ即チ此中隊ハ彼ノ下士ノ率ユル側衛
ニ比シテ兵力遙カニ優勢ナリシニモ拘ハラス敵ニ對スル警戒ヲ怠リ
シ爲メ却テ弱勢ノ一側衛ヨリ掩撃セラレ若干ノ死傷者ト捕虜トヲ殘
シテ空シク退却スルノ止ムヲ得サルニ至レリ

第九例 千八百七十一年一月七日第十八師團ノ前衛ハクブイザア附近
ニ於テ最近距離ヨリ俄然三回ノ一齊射撃ヲ被レリ時正ニ濃霧ニシテ
敵情ニ就テハ何モ知諒スルコトヲ得ザリキ
前衛ハ直チニ散開シ喊聲ヲ揚ケ敵ニ向テ突進シ奇功ヲ奏セリ此時敵
モ亦如何ナル部隊カ自己ニ相對抗シ在ルヤヲ知ルニ由ナカリシモ此
機會ニ際シ敵ノ爲メ最モ有利ナルハ此瞬間ニ於テ勇決果斷猛烈ニ我
部隊ニ向テ突進スルニ在リ然ルニ策茲ニ出テス兵力ノ乘隙地ノ利ヲ
頼ミ遲疑逡巡一地ニ繋留セラレシカ故ニ失敗立ロニ至リシハ理ノ最

以上ノ例ニ據リ不意ニ敵ト衝突セシ際ニハ勇猛果敢ノ突進ヲ斷行スルモノ多クハ勝利ノ獲得者タルコトヲ證明セリ且ツ斯ノ如キ果斷ノ處置ニ由テ敵ニ先制ノ利ヲ得ルトキハ然ラサル場合ニ於テ多クハ長時間連續スル所ノ頑固ナル戦闘ヲ避ケ得ルモノナリ

之ヲ要スルニ斯ノ如キ不意ノ衝突ニ際シテハ形勢爾後ノ前進ヲ許サ、ルトキト雖可成速ニ爲シ得ル限リ前方ニ一ノ好陣地ヲ確實ニ占領スルコトヲ努メサルヘカラス又斥候ハ斯ノ如キ場合ニ際シテハ速カニ己レノ身體ヲ掩護スヘキ地ヲ發見シテ之ヲ占領シ必要ニ際シテハ有効ナル火力ヲ以テ其任務ノ達成ヲ計ラサルヘカラス

第十例 千八百七十年十二月九日カムボルド城ノ公園ニ於テヘツセン軍カーノ敢爲ナル突進ニ由リ非常ニ良好ナル成功ヲ獲得セリ即チ該軍ノ前衛ハ日暮俄カニ敵ノ部隊ト公園ノ入口ニ於テ衝突シヘツセン軍ハ猛烈果敢ニ佛軍ニ向テ突進セシ爲メ佛軍ハ咄嗟ノ間ニ全部潰走

日暮時衛ノ勇敢ナル動作ニ由テ友軍ニ大ナル利益ヲ與ヘシ戦例

シ大砲五門ヲ遺棄セリ若シヘツセン軍ノ前衛カ遲疑逡巡ノ結果策此ニ出テテリシナラハ後ニ至リ此公園ヲ略奪スル爲メニ必スヤ一ノ甚タ激烈ナル戦闘發生セシナラン如何トナレハ此公園ハ既ニ其以前ニ於テ佛軍ノ爲メニ一ノ防禦陣地トシテ占領セラレ且ツ其周圍ヲ圍繞スル高キ牆壁ハヘツセン軍ノ爲メニハ頗ル不利ナル副防禦物ナリシヲ以テナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ情況不明ノ際ニ於ケル迅速ナル決心及果敢ナル突進ハ遲疑逡巡シタル周密ナル熟慮ヨリ多クハ意外ノ成功ヲ博シ得ルモノトス

夫レ然リ然レトモ勇猛果敢ナル突進ト雖亦稀ニハ失敗ナキヲ保スルコト能ハス然ルトキハ勉メテ精神ヲ沈靜ニシ爲シ得ル限リ手段ヲ盡シテ再ヒ虎口ヨリ脱却スルノ方法ヲ講セサルヘカラス

又情況頗ル明瞭ニシテ勇猛果敢ナル突進モ成功ノ望ナキコト明カナル場合ニ際シ暴虎憑河ノ突撃ヲ斷行スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラ

迄之ヲ平滑ナラシメ又足部ノ下方ハ軟クシテ餘リ薄カラサル足布ヲ以テ巧ミニ纏繞セラレサルヘカラス

三能ク結束セラレ一方ニ偏重偏輕ナキ各人ノ武裝

通常落伍者カ行軍間ニ於テ惹起ス所ノ諸般ノ失策其他總テノ不準備ハ宿營ニ就クヤ直チニ之ヲ改良セシメサルヘカラス若シ此失策若クハ不準備カ行進中其者ニ感スヘクアルトキハ次ノ休止ニ於テ直チニ之ヲ除却スルノ方法ヲ講セサルヘカラス

一旦列伍ヲ離レ且ツ疲勞シタルモノハ再ヒ縱隊ニ復歸スルハ甚タ困難ナルモノトス而シテ此落伍者ノ數増加スルトキハ縱長ハ延伸シ此處彼處ニ指揮無キ無數ノ單獨行進者ヲ生シ行軍軍紀ハ此ニ至リテ全ク壞亂セラル、ニ至ル加之敵ノ近傍或ハ奸譎ナル住民ノ地方ニ在テハ斯ノ如キ落伍者ハ概テ彼等ノ捕獲トナルヲ免レサルモノトス

千八百七十年一月瑞西ノ國境ヲ超越スルノ止ムヲ得サルニ至リシボウルバツキノ率ユル佛蘭西軍ニ於テ實ニ大多數ノ落伍者ヲ見タリ此等數

飲水法ノ件ニ關シ
衛生上ノ類處ヨリ
我國改定野外要務
令ノ左ノ如ク説明
軍隊時ハ之ヲ携行
スル時ハ之ヲ使用
セシメ成ルヘク生
水ヲ用ヒシメサル
ヲ要ス

千ノ落伍者ハ強奪者及遲留者トシテ多クハ捕獲スル所トナレリ

縱隊出發ノ後本道ニ達スルヤ「途步」ノ號音若クハ號令ノ後縱隊ハ行軍ニ便利ノ爲メニ列間距離ヲ開キ且ツ步調無ク行進スルヲ常トス又行進中談話シ唱歌シ喫烟スルヲ得ルモノトス銃ハ各人ノ意向ニ從テ其携帶法ヲ許シ敬禮ハ執行セサルモノトス最前方ニ行進スル部隊ハ道路ノ一側ニテ其適當ナル側方ヲ行進シ其他ノ部隊ハ之ニ跟隨スルモノトス道路ノ關係其兩側ノ狀況均一ナルトキハ通常軍隊ハ其右側半部ヲ行進シ左側半部ハ之ヲ開放シ置クモノトス各人カ服裝ヲ任意ニ輕減シ又ハ變更スルハ禁スヘキコトトス故ニ其必要ニ際スレハ指揮官ハ適時ニ之ヲ命令スルモノトス極暑ノ候村落ノ通過ニ際シテハ上官ハ良水ノ飲用法ヲ規定スルモノトス即チ上官ハ豫メ乘馬將校等ヲ豫定ノ村落ニ派遣シ多量ノ良水ヲ本道ノ側方ニ準備シ置キ縱隊到着ノ際該縱隊ヲ止メテ飲用セシムルカ或ハ行進中酌取ラシムルカハ其時ノ情況ニ由テ指揮官之ヲ命令スルモノトス而シテ行進及停止中ノ何レニ拘ハラヌ甚タシク縱隊

此等ノ障害除却ニ際シ斥候ハ最モ勤勉ニ且ツ注意周到ニ其附近ヲ搜索セサルヘカラス然ラサレハ敵ハ工事又ハ力役ノ爲メ一時防禦力ヲ缺ク所ノ作業者ニ向テ急遽ニ攻撃シ來ルカ或ハ附近ヨリ射撃ヲ以テ彼等ノ作業ヲ妨害スルナラン

後衛ハ元來防勢的性質ヲ有シ退却行軍ニ際シ主トシテ其効用ヲ發揮スルモノナリ千八百七十一年戰ニ於テ獨逸軍カ佛蘭西國內ヲ行進スルトキニ際シ同國內ニハ義勇兵所々ニ蜂起シ蔭蔽地或ハ村落内ニ潛匿シテ獨逸軍ヲ奇襲セシコト妙ナカラス斯クノ如キ情況ニ於テ斯クノ如キ地方ヲ行軍スル縱隊ハ退却行軍ニアラサルモ後衛ヲ設クルヲ通常トス

退却行軍ニ於ケル後衛ノ任務ハ追躡シ來ル所ノ敵ヲ爲シ得ル限り本隊ヨリ離隔スルニ在リ故ニ敵ニ對シ勉強ナル抵抗ヲ爲シ能フヘキ陣地ハ成ルヘク之ヲ確實ニ利用セサルヘカラス此際我軍隊ニ於テ使用シツ、在ル卓越ナル火器ヲ巧ミニ應用スルコト亦頗ル重要ノ事件ナリ橋梁

及ヒ眞陸路ハ友軍悉ク通過シ終ルヤ直チニ之ヲ敵カ通過シ難キ迄ニ破壞スルヲ要ス是レ敵ノ前進ヲ一時該陸路ニ由テ阻止セノカ爲メナリ敵ヨリ追躡セラレサルトキト雖情況ニ由リ後衛ハ一ノ陣地即チ陸路ノ後方或ハ高地上又ハ其他確實ニ且ツ容易ニ防禦陣地ト爲シ得ヘキ適當ナル地區ヲ發見スルトキハ一時之ヲ占領シ以テ縱隊ノ後方及側方ヲ安全ニ掩護シ且ツ斷エス敵情ヲ搜索シ行軍縱隊ヲシテ爲シ得ル限り危險ヨリ脱却セシムルヲ利アリトスルコトアリ

小ナル後衛ノ動作即チ後衛尖兵及斥候等ノ動作ニ就テモ大ナル後衛ト其精神ニ於テハ異ナルコトナシ只其兵力寡少ナルカ爲メ充分ナル希望ヲ貫徹スルコト能ハサルモ爲シ得ル限リ上ニ掲ケタル原則ニ據リ其任務ヲ遂行スルヲ要ス

後衛ハ亦縱隊ノ後方ニ於テ落伍者疲勞者負傷者及病者等ノ行進及搬送ヲ監督シ此等ノ運留者ヲシテ可成速カニ所定ノ位置ニ復歸セシムルノ處置ヲ施サ、ルヘカラス故ニ後衛ハ行軍縱隊ノ最後尾ニ在テ軍事警察

ノ勤務ヲモ亦執行セサルヘカラサルモノトス

第二章 前哨勤務

一、前哨ノ目的及區分

戰時ニ於テ敵ノ近傍ニ在ル軍隊ハ決シテ無爲ニ休息シ得ヘキモノニア
ラス若シ此原則ニ戻リ敵ニ對シ何等ノ處置モ施サス無爲ニ休息シ在ル
軍隊アリト假定センカ敵ハ潛カニ該軍隊ニ向テ近接シ該軍隊カ戰鬥準
備未タ全カラサルニ乘シ之ヲ擊破スルヤ必セリ
此危害ヲ避クヘキ爲メニ軍隊ハ常ニ其一部ニ至嚴ナル戰鬥準備ヲ爲サ
シメ以テ敵ノ近接ヲ適時ニ發見セシメ且ツ敵ノ攻撃ニ對シテハ頑強ニ
第一ノ抵抗ヲ爲サシメサルヘカラス此レカ爲メ軍隊ハ其一部ヲ敵ノ方
向ニ配置シテ斷ニス敵ヲ監視セシメ尙其一部ヲ敵ニ向ケテ前進セシメ
而シテ其情況ヲ候察セシムルヲ要ス此等ノ處置完全ナルニ及ヒテ始メ
テ軍隊ハ安全ニ其後方ニ休息シ得ルモノナリ此等ノ處置ヲ一般ニ前哨

ト稱シ其勤務ヲ前哨勤務ト唱ヒ之ニ任スル部隊ヲ前哨部隊ト稱ス

前哨部隊ハ敵方ニ近ツクニ從ヒテ小ナル部隊ニ區分セラレ地形ニ應シ
適當ナル距離間隔ヲ以テ左右及前後ニ配置セラレ各部隊ハ皆特別任務
ヲ負擔スヘキモノトス

各兵種ヲ以テ編組セラレタル大ナル部隊ノ前哨勤務ハ通常歩兵及騎兵
之ヲ擔任スルモノトス而シテ騎兵ハ多ク晝間ノ勤務ニ服シ歩兵ハ概ネ
夜間ノ勤務ニ服スルモノトス然レトモ騎兵ハ晝夜ヲ論セス敵ヲ搜索ス
ヘキモノニシテ夜間ハ概ネ歩兵ニ支援セラル、モノトス又時トシテ步
兵ハ晝間ト雖騎兵ノ掩護トシテ前哨ヲ配布スルコトアリ又緊要ナル地
點及重要ナル街路ノ監視トシテ晝間ニ於テ歩兵ノ前哨ヲ要スルコトア
リ此等ノ前哨ヲ混成前哨ト名ク

獨立歩兵部隊ニ在テハ休止シ在ル軍隊ヲ掩護スヘキ爲メニ歩兵ハ晝夜
ヲ論セス前哨勤務ニ服シ斷ニス敵方ヲ監視シ且ツ之ヲ搜索シ以テ警戒
ノ任ヲ全フセサルヘカラス

前哨ハ何レノ情況ニ於テモ終始同一ナルモノニアラス地形敵情及我軍ノ兵力等ニ由テ自ラ大小疎密ノ度ヲ異ニスルモノトス
 平坦開濶ナル地形ニ在テ且ツ敵ニ遠キトキハ騎兵ハ主トシテ主要道路ヲ監視シ步兵ハ其後方ニ在テ中間ノ道路接合點等ヲ監視スレハ足レリ之ニ反シ地形蔭蔽シテ展望ヲ遮キリ敵亦近クニ在ルトキハ前哨ハ益々濃密ニ配置セラレサルヘカラス而シテ敵ト益々相接近シ戰鬪目前ニ迫リタル際若クハ戰鬪勝敗未タ決セスシテ相對峙セル儘夜ニ入り少クモ翌拂曉ヲ以テ戰鬪ヲ繼續スヘキトキハ步兵ノ各部隊ハ歩哨及斥候ヲ以テ警戒スルノミニシテ一般ニ戰鬪準備ノ隊形ヲ以テ露營スルモノトス
 一般ニ於テ前哨ハ前哨本隊前哨中隊及前哨騎兵ニ區分セラル、モノトス
 極メテ困難ナル地形ニ於テ或ハ敵ノ直接接近傍ニ於テ若クハ騎兵ノ數缺乏ナルトキハ前哨騎兵ハ之ヲ設クル能ハサルコトアリ然レトモ爲シ得ル限リ前哨本隊及前哨中隊ニハ斥候ニ要スル騎兵ノ小部隊ヲ配屬セラ

前哨部隊下前哨司令官トノ關係ニ關シ我國改定野外要務令ハ左ノ如ク説明セリ
 前哨ニハ一ノ前哨司令官ヲ置ケ然レ

ル、ヲ要ス若シ此騎兵ヲモ缺クトキト雖傳令トシテ若干ノ騎兵ハ必ズ前哨ニ配屬セラル、ヲ通常トス
 前哨本隊ハ主要ナル街道上又ハ抵抗アル高地等ノ後方ニ配置セラル、モノトス前哨中隊ハ尙其前方ニシテ敵方向ニ對シ一定ノ地區ヲ警戒スル爲メ配置セラル、モノトス而シテ前哨中隊ハ概テ警戒線ヲ形成スルモノニシテ敵ノ攻撃ニ際シテハ主トシテ第一ノ抵抗ヲ爲シ以テ後方ニ休止シ在ル部隊ニ戰鬪準備ニ要スル時間ヲ與ヘサルヘカラス
 通常前哨中隊ハ夜間小哨下士哨若クハ獨立下士哨ヲ以テ自ラ警戒スルモノナリト雖モ必要ニ際スレハ晝間モ亦此等ノ部隊ヲ配布スルモノトス前哨本隊モ亦情況ニ由リ前方或ハ側方ニ右等ノ部隊ヲ出シテ特別ニ自ラ警戒スルコトアリ
 前哨中隊若クハ步兵小哨前哨前哨騎兵配置セラル、トキハ此前哨騎兵ハ更ニ小哨下士哨及騎哨ヲ配布シ且ツ敵ノ方向ニ斥候ヲ派遣スルモノトス前哨部隊ハ總テ前哨司令官ノ區處ニ屬スルモノトス

トモ戰術準備ノ度
或ハ地形ノ延長
若クハ地形ノ要
部ニ各隊ヲ配置
前哨司令官ノ各
隊ニ各別ノ前哨
隊ヲ配屬ス
前哨隊ノ給養ニ
關シ我國改定野
要務令ハ左ノ注
意ヲ加セリ
チ増加セリ
情況ニ依リ各中
隊ニ於テ自炊セ
ルヲ便利ト爲ス
トアリ

以下順序ヲ追ヒ前哨ノ各部毎ニ其目的及任務ヲ述ヘ且ツ單獨ノ歩兵ハ前哨勤務ニ於テ如何ナル動作ヲ爲サ、ルヘカラサルヤヲ説明セントス、イ、前哨本隊

前哨本隊ハ敵ノ攻撃ニ對シ速カニ之ニ應シ得ル如ク常ニ準備シ在ラサルヘカラス而シテ通常露營スルカ或ハ村落露營ヲ爲スモノトス歩兵ハ背囊ヲ卸スモ其他ノ準備ハ前哨司令官之ヲ決定スルモノトス前哨本隊ハ自己ノ警戒ノ爲メ必要ニ應シテ外衛兵ヲ配布シ風紀及武器ノ監視ノ爲メニハ内衛兵ヲ設置スルモノトス

各人ハ靜肅ニ其位置ニ停止シ在ルヲ要ス而シテ前方ニ警報起ルヤ速カニ戰鬪準備ヲ爲シ得ル如ク用意シ在ラサルヘカラス
ロ、前哨中隊

前哨中隊ノ數及配置ハ地形特ニ道路網ニ由テ決定セラル、モノトス而シテ其配置セラル、ヤ固有ノ中隊番號ヲ以テ表示セラル、モノニシテ其位置ハ夜間ニ於テ在ルヘキ位置ニ晝間モ亦停止スルヲ通常トス地形

困難ニシテ前方ニ派遣シ在ル騎兵ニ一ノ支援ヲ要スルトキハ前哨中隊ハ必要ニ從ヒ晝間已ニ小哨或ハ獨立下士哨又ハ此兩者ヲ前方緊要ナル地點ニ配置スルコトアリ前哨中隊ニ全ク騎兵ヲ缺クトキカ或ハ僅カノ傳騎等有ルニ過キサルトキハ前哨中隊ハ勿論其區域内ニ於テ晝夜充分ナル警戒及敵情搜索ヲ擔任スヘキモノトス
中隊内ニ於テ小哨及獨立下士哨ハ右翼ヨリ一連ノ番號ヲ附セラル、モノトス前哨ノ各部ハ可成敵ヨリ見ラレサル如ク配置セラレサルヘカラ
前哨中隊ニ於テ各兵卒ハ背囊ヲ卸シ得ルモノトス然レトモ常ニ又銃線及背囊ノ附近ニ在リテ迅速ナル戰鬪準備ニ應シ得ラル、如ク注意シ在ラサルヘカラス
前哨中隊ハ又銃ノ前方ニ步哨ヲ要ス此ノ步哨ハ中隊カ露天ニ位置スルカ或ハ掩蔽下ニ位置スルカ及ヒ地形カ展望ヲ許スヤ否ヤニ從テ單哨複哨若クハ尙多クノ步哨ヲ配置スルモノトス此等ノ銃前哨ハ上官ニ對シ

ヲ敬禮ヲ爲スコト無ク亦「銃」ヲ呼フコトナシ
前哨中隊ハ防禦陣地ノ中ニ或ハ其後方ニ配置セラル、モノトス而シテ
敵ノ攻撃ニ際シ中隊ハ何レノ地點ヲ占領スルヤヲ各人ニ豫メ知ラシメ
置クヲ必要トス

ハ、小 哨

前哨騎兵存在スルトキハ步兵ノ小哨ハ晝間ハ該騎兵ノ收容支援或ハ後
拒トシテ配置セラル、モノトス然ルトキハ小哨ハ銃前ニ一ノ單哨ヲ配
置スルカ或ハ必要ニ從テ尙監視哨ヲ配置スルモノトス此監視哨ハ戦闘
準備ニ就テ最モ能ク注意シ且ツ斷エス前方ニ在ル騎兵ト肉眼ヲ以テ連
絡ヲ保持スヘキモノトス

之ニ反シ前哨騎兵ナキトキ或ハ之レアルモ其數僅少ニシテ必要ナル斥
候勤務ノ外他ニ使用スル能ハサルトキハ步兵小哨ハ最前線ノ全警戒ヲ
自ラ擔任スルモノトス又前哨騎兵存在スルトキト雖其時ノ情況ニ由リ
此等ノ騎兵ハ夜間斥候及傳令ノ爲メ前哨本隊ニ招致セラル、コトアリ

小哨ノ兵數ハ我國
野外要務令ニ於テ
小隊或ハ中隊トナ
用フルコトナセ

然ルトキハ小哨ハ夜間ニ於テ前哨騎兵無キ時ノ配備ヲ取ラサルヘカラ
ス

小哨ノ任地ニ着クハ必ス黄昏若干時前ナルヲ要ス是レ小哨ノ全員ヲシ
テ晝間ニ於テ地形ヲ目撃セシメ其位置並ニ附近ノ地形カ彼我ノ爲メニ
如何ナル關係ヲ有スルカヲ容易ニ判斷シ得セシメンカ爲メナリ

小哨ノ兵數ハ一將校ノ指揮スル二十五人乃至四十人ノ一群ヨリ成リ其
中ヨリ敵方ノ監視ノ爲メ一、二若クハ三複哨ヲ配布スルカ或ハ必要ニ由
テ下士哨(下士若クハ上等兵)ノ指揮ノ下ニ少クモ六人ヨリ成ル一群ヲ配
置スルモノトス而シテ其配置ノ巧拙ハ小哨ノ警戒及兵力ノ發展ニ大ナ
ル關係ヲ有スルモノトス即チ歩哨ハ前地及側方ノ土地ヲ能ク展望スル
コトヲ得歩哨及小哨ハ地物ニ由テ能ク掩蔽セラル、ヲ要ス特ニ道路就
中大道及橋梁並ニ村縁林縁等ハ最モ綿密ニ之ヲ監視セサルヘカラス
是レ敵ハ前進ノ爲メニ通常大道ヲ利用シ亦我ヲ候察スル爲メニ屢々
村縁及林縁ヲ利用スルヲ以テナリ

我國改定野外要務
令ニ左ノ注意ヲ増
加セリ
道路外ノ通過容易
ナル地方ニ在テハ
道路間ニ於ケル地
區ノ守備ヲモ亦忽
ニスヘカラス

我國改定野外要務
令ハ查哨ニ關スル
規定ヲ一切削シシ
其必要生シタリシ
トキハ歩哨之ヲ少
哨線外ニ止メ小哨
長ニ報告スルコト
トナレリ

我國改定野外要務
令ニ由リ歩哨ハ復
舊ノ人乃至四人ト
爲リシ故一哨所ニ
屬スル歩哨ノ人員
井ニ其交代法ハ小
哨長臨時之ヲ定ム
ルコトナレリ又
歩哨ノ主トシテ又
備ナラズル地點ハ
方ニ通スル道路ノ
地ナラスル重要ナル
地點ヲモ必要ナル
ハキヤ夜間高地ニ
在ルハ必要トスル
ニシテ低地ニ

在ルモノハ敵ヲ透
視シ得ルノ利アル
コトヲ述ヘ又展望
ヲ助ケル爲メ歩哨
ヲ樹木若クハ家屋
上ニ置クヲ有利ト
スル場合多シト既
キ尙之ニ附加シテ
易ニ敵ノ目ヲ見セ
ラレサル爲メ哨所
附近ノ地物ヲ同色
トシテ掩フテ歩哨
トスルコトアリト
説明セリ

我國改定野外要務
令ハ又銃ノ外ニ銃
架ニ銃ヲ托スルコ
トノ注意ヲ増加セ

下士哨ハ小哨監視區域内ニ於テ特ニ緊要ナル地點又ハ敵ニ對シ殊ニ危
險ト認ムヘキ地點等ニ配置セラル、モノトス即チ二人ハ歩哨トシテ立
テ其他ノ交代兵ハ直接近傍ニ於テ能ク掩蔽シテ休止シ在ルモノトス
前哨線中敵方ニ通スル大街道ニ配置セラレ歩哨線ヲ出入スル人物ノ處
置ニ就キ特別ノ任務ヲ負擔セシメラル、下士哨ヲ查哨ト名ク即チ前哨
線中ニ於テ此查哨配置セラル、トキハ其他ノ歩哨ハ規定以外ノ歩哨線
出入者ヲ悉皆指示シテ此查哨ノ方向ニ到ラシムルモノトス
歩哨ノ位置ハ小哨ヨリ通常四百米突以上離隔セサルヲ要ス而シテ其配
置法ハ一復哨ニ屬スル六人ヲ一下士若クハ上等兵之ヲ率ヒ勉メテ敵眼
ヲ避ケ捷路ヲ取り小哨長ヨリ指示セラレシ地點ニ向テ前進シ此地ニ在
テ敵ノ方向ヲ監視シツ、小哨長ノ來ルヲ待ツモノトス小哨長ハ其時ノ
情況ニ應ジテ便宜ナル一翼ヨリ順次ニ各歩哨線ヲ巡視シ各歩哨ノ一群
毎ニ特別守則ヲ歩哨掛以下全員ニ授クルモノトス此處置終了スルヤ下
士ハ復哨ノミヲ其位置ニ殘シ其他ノ交代兵ヲ率ヒテ小哨ニ歸還スルモ

ノトス但シ歩哨線中下士哨ヲ置クノ必要アルトキハ此一群ハ下士哨ト
シテ其位置ニ殘留スルモノトス
小哨内ノ歩哨ハ復哨ト下士哨トヲ通シテ右翼ヨリ番號ヲ附セラル、モ
ノトス
小哨ニ於ケル歩哨ノ配布ハ通常敵方ニ派遣セル斥候ニ由テ掩護セラル
、モノニシテ小哨ハ此際又銃スルコトヲ得ルモノトス然ルトキハ銃前
ニ一ノ單哨ヲ配置スルモノトス小哨若シ掩蔽地ニ位置スルトキハ此銃
前哨ハ概テ復哨ヲ配布スルモノトス此銃前哨ノ位置ハ可成四方ヲ展望
シ得ヘキ位置ヲ撰ヒ情況ノ如何ニ拘ハラス前方歩哨線ニ在ル復哨ト肉
眼ヲ以テ連絡ヲ保持セサルヘカラス
歩哨ノ配布終リ小哨長小哨ノ位置ニ歸還スルヤ歩哨ノ交代兵及各斥候
毎ニ其銃ヲ交叉セシム是レ必要ニ際シ他兵ニ關係無ク又銃ヲ解キ得セ
シメンカ爲メナリ然ル後小哨長ハ中隊長ニ報告ヲ送り且ツ比隣小哨ト
連絡ヲ保持スルモノトス又情況ニ應ジ小哨長ハ各兵ノ背囊ヲ卸スコト

ヲ許可スルモノトス小哨ニ上官來ルコトアレハ銃前哨ハ小哨長ニ報告ス小哨長ハ上官ヲ迎エテ現狀ヲ報告スヘキモノナレトモ其他ノ兵員ハ依然トシテ休止シ在ルモノトス

小哨ニ於テハ通常炊爨セサルモノトス故ニ各人ノ糧食ハ前哨中隊ヨリ之ヲ送附セサルヘカラス

小哨ノ勤務ハ疲勞多キカ故ニ勤務ニ支障無キ限リハ可成兵員ヲ休憩セシムルヲ要ス又敵情及勤務ノ關係之ヲ許ストキハ兵員ノ一部ヲ睡眠セシムルコトヲ得

小哨ニ於テ各人ハ許可無ク又ハ任務無ク恣ニ其位置ヲ離ル、コトヲ得サルモノトス

小哨ニ配屬セラレタル騎兵ハ前哨中隊ヨリ給養セララル、モノトス蓋シ騎兵ハ斷ニス騎乗ノ準備ヲ爲シ其命令ヲ待チツ、在ルモノナルヲ以テ小哨ノ他ノ兵員ハ此等ノ騎兵ニ對シ最モ懇切ニ取扱ヒ給養其他ニ關シ遺憾無カラシムルヲ要ス

各人ハ其精神ニ包藏スル信切ヲ決シテ等閑ニ附スヘカラス殊ニ戰時ニ於テ此信切カ屢々偉大ナル効果ヲ持チ來スモノナルコトヲ忘ルヘカラス

小哨長ハ河レノ時期ニ於テモ其小哨ヲシテ充分ナル戰備ニ在ラシムルコトヲ身ヲ以テ責ニ任セサルヘカラス且ツ高聲ナル談話唱歌大笑及無意味ナル徘徊ハ禁止セサルヘカラス各兵卒ハ敵眼ニ掩蔽シテ銃ノ近傍ニ停止シ不意ノ敵襲ニ際シテモ瞬間ニ之ニ應シ得ラル、如ク準備シ在ルヲ要ス

小哨長ハ晝間ハ小哨ノ位置ニ固着シ在ルコト無ク勉メテ警戒區域内ヲ巡視シ利用スヘキ地區地物等ニ就キ爲シ得ル限り充分ノ研究ヲ爲スヲ要ス然レトモ常ニ其所在ヲ明ラカシ置カサルヘカラス而シテ夜間ハ概テ小哨ノ位置ニ在ルヘキモノトス

查哨ヨリ送致セラレタルモノニシテ我軍所屬ノモノニアラサルコトヲ判斷シタルトキハ小哨長ハ之ヲ前哨中隊ニ送致スヘキモノトス

我國改定野外要務令ハ查哨ヲ廢止セシメテ後方ニ送ルヘキモノハ直チ

ニ獨立下士哨

ニ步哨線ヨリ小哨
ト送附セラルルコ
ト獨立下士哨ノ兵數
及國改定野外變務
令ハ左ノ如ク説明
此下士哨ハ復哨ノ
交代兵ノ外斥候ニ
充テヘキ者若シテ
ヨリ成ルモトス
又時宜ニ依リ上等
兵ヲ以テ其長ト爲
スコトアリ

獨立下士哨ノ兵數ハ六人乃至十五人ニシテ有爲ナル一下士之ヲ指撰ス
ルモノトス其動作ノ要旨ハ小哨ニ同シ然レトモ其兵力小哨ヨリ少ナキ
ヲ以テ小哨ヨリ稍々小ナル區域ヲ獨立のニ一或ハ二復哨ヲ以テ警戒ス
ルモノトス又獨立下士哨ハ必要ニ應シ敵ノ方向ニ及ヒ隣接部隊ノ前哨
ト連絡ノ爲メニ斥候ヲ派遣スルコトアリ

獨立下士哨ハ前哨線ノ側方或ハ前方ニ於テ緊要ナル地點ニ前哨中隊若
クハ前哨本隊ヨリ派遣セラル、モノトス但シ前哨線ノ前方ニ派遣セラ
ル、場合ハ前進セラレタル騎兵線ノ内部ニ在ル橋梁林縁及莊邸等ヲ確
實ニ保持スル爲メト夜間ニ於テ斷ニス敵ノ運動ヲ監視スル等ノ任務ニ
由ルコト多シ

ホ、下士哨

下士哨ハ多クハ敵カ我ニ發見セラレシテ近接シ得ヘキ地點ニ配置セ
ラレ通常一復哨ヲ以テ監視セシム其他ハ其直接近傍ニ掩蔽シテ停止シ

在ルモノトス要スルニ下士哨ノ任務ハ我斥候ヲ速ニ救助シ或ハ敵ヨリ
急襲セラレシ步哨ヲ速ニ援助シ或ハ步哨ノ距離小哨ヨリ遠隔スルトキ
ハ其交代ヲ容易ニスルニ在リ

ヘ、查哨

查哨ハ我軍ニ屬スルモノト確認セシトキハ前哨線ヲ通過セシメ其他ノ
者ハ小哨若クハ前哨中隊ニ送致ス軍使及奔來人モ亦小哨若クハ前哨中
隊ニ送致スルモノトス但シ軍使ハ其送致前ニ彼等ノ眼目ヲ纏束シ而シ
テ彼等ト談話ヲ交ユルコトヲ禁ス

ト、複哨

步哨ノ一般守則ハ次ノ如シ曰ク斷ニス敵方向ヲ監視ス曰ク總テ疑ハシ
キ徵候ニ細心注意シ敵ニ就テノ認識ヲ速カニ報告シ危險ニ際シテハ射
撃ニ由テ警報ス曰ク命令ナクシテ坐臥シ或ハ喫煙スルコトヲ禁シ銃ハ
決シテ手ヨリ離スヘカラス曰ク上官ニ對シ敬禮スルコトヲ要セス且ツ
上官ノ現在ニ由テ監視ニ何等ノ障害モ與ヘラレサルモノトス曰ク上官

我國改定野外變務
令ニテ軍使及奔來
人等來ルトキハ小
哨ハ之ヲ止メ小哨
ニ報告スルコトヲ
ナレリ而シテ軍使
ハ歩哨線内ニ入レ
サハル規定ナルヲ
テ眼目ヲ纏束スル
ノ必要ナル

查哨ニ關シテハ前
シノ注意ヲ參照スヘ

我國改定野外要務
令ハ「止レ」ト呼
フコトヲ止メ直チ
ニ「誰カ」ト呼フコ
トニ規定セリ
軍使及奔來人ニ關
シテハ前ノ注意ヲ
參照スヘシ

歩哨カ銃ノ維持法
ニ關シテハ我
野外要務令及我
野守則トシテ之
敷育シテテテ
ニ於テハ晝間ニ
銃ヲ我國ニ於テハ
晝間ニ晝銃ヲ夜間ニ
立銃ヲ禁セリ又我

國改定野外要務令
ハ歩哨カ銃ノ維持
法中ニ提銃ヲ增加
セリ

ノ諸問ニ對シテハ監視ヲ中絶スルコトナク姿勢ヲ正シクシテ之ニ答フ
ルモノトス

晝間ハ我軍ノ將校、密集部隊、斥候、傳令ハ歩哨線ヲ通過セシムルモ其他ノ
者ニ在リテハ指示シテ查哨ノ方向ニ赴カシム若シ指示セラレタル方向
ニ赴カス却テ前哨線ヲ通過セントスルモノ或ハ歩哨ノ命令ヲ用キサル
モノハ歩哨之ヲ射撃スルモノトス

夜暗ニ於テ歩哨ニ近接スルモノ有ルヲ知ルトキハ歩哨ハ「構ヘ銃」ノ姿勢
ヲ取リ「止マレ」「誰カ」ト呼フ「止マレ」ト呼フコト三回ナルモ尙止マラサ
ルモノハ歩哨之ヲ射撃ス其他ハ總テ晝間ニ於ケルト同シ動作ヲ爲スモ
ノトス軍使及奔來人來ルトキハ指示シテ查哨ノ方ニ赴カシム

一般守則ノ外ニ歩哨ハ小哨長ヨリ特別守則ヲ授ケラル、モノトス即チ
我歩哨ノ表示(假令ハ第二小哨ノ第一下士哨ノ復哨)隣接歩哨ノ位置及表
示、查哨、小哨、前哨、中隊、前哨、本隊ノ位置、此諸隊ニ對ル捷路、我前遣部隊ノ位
置、敵情并ニ前哨線中及其前方ニ於テ特ニ監視スヘキ地區其他歩哨ハ銃

ヲ擔フヘキカ銃ヲ腕ニスヘキカ立銃スヘキカ或ハ隣哨トノ連絡ハ動哨
ヲ以テ爲スヘキカ或ハ斥候ニ由ルヘキカ或ハ背囊ヲ卸スコトヲ得ルカ
或ハ喫煙スルコトヲ得ルカ等ナリ

歩哨ノ交代ハ各人敵方ニ面シ歩哨掛下士(上等兵)ノ現在ニ於テ舊歩哨ハ
新歩哨ニ特別守則及敵ニ就テ認識セシコトヲ告知ス

前哨内ニ於ケル各人ノ動作ニ就テ尙一層詳細ナル研究ヲ爲スヘキ爲メ
ニ次ニ重要ナル問題ヲ提出ス

一、復哨ハ如何ニシテ敵ヲ發見スヘキカ

復哨ノ主要ナル任務ハ近接シ來ル敵ヲ早時ニ且ツ精密ニ發見シ迅速ニ
報告スルニ在リ要スルニ歩哨ノ勤務ニ服シツ、在ル兵卒ノ動作ハ頗ル
單簡ニシテ只最モ勤勉ニ最モ注意周到ナレハ可ナリ
今茲ニ有爲ナル一兵卒アリテ歩哨ノ勤務ニ服シツ、在ルカ彼レハ必ス
自ラ決心シテ自問スルナラン「今爰ニ自分ハ歩哨トシテ立ツ自分ハ飽迄
モ近接スル敵ヲ早時ニ且ツ精密ニ發見シ迅速ニ之ヲ報告セサルヘカラ

ス之ヲ爲スニハ如何ニシテ可ナルカト此決心ト注意トニ基キ彼レハ斷
エス指示サレタル監視區域内ヲ展望シ同時ニ敵ノ近接ニ容易ナル道路
及地物等ヲ一層注意シテ視察スルナラン

歩哨ハ可成高所ヲ利用シ以テ敵ニ對シ充分ナル視界ヲ得ルコトヲ努メ
サルヘカラス

各歩哨ノ間隔ハ敵カ其間ヲ發見セラレヌシテ通過シ能ハサル程度ニ伸
縮スヘシ

然レトモ地形及時刻等ノ關係ニ由リ此間隔ノ連繫ニ就キ大ニ困難ヲ感
スルコトアリ即チ一ノ深谷カ前哨線ヲ縱斷スルカ或ハ森林カ敵方向ニ
綿亘スルカ或ハ暗夜ニ際會スル時等はレナリ此際ニ在リテハ爲シ得ル
限り之ニ應シテ適當ナル手段ヲ取り以テ不時ノ危害ヲ豫防セサルヘカ
ラス千八百六十四年リルレメルレ附近ニ於テ丁抹軍ノ歩哨ハ普魯士軍
ノ一部隊カ奇襲ノ爲メニ前進シ來ルヲ知ラス該部隊カ愈々近接シ歩哨
ハ之ヲ射撃シ能ハサル距離ニ於テ初メテ發見セシモ時期已ニ後レ歩哨

歩哨ノ發見後
シノ爲メ敵ノ奇襲隊
ヲ爲メ射撃セラル
シノ實例

ハ一發ノ射撃ヲモ爲スコト能ハスシテ普魯士軍部隊ノ爲メニ刺殺セテ
レタリ

故ニ歩哨ハ注意ヲ周到ニシ勤勉シテ其守則ヲ勵行シ如何ニ困難ナル地
形ト雖亦如何ナル天候及時期ト雖近接スル敵ヲ早時ニ發見シ迅速ニ之
ヲ報告スヘキモノナルコト是レ彼等カ雙肩ニ擔フ所ノ天職タルコトヲ
決シテ忘ルヘカラス

此目的ヲ達成スヘキ爲メニ復哨ノ兩人ハ總テノ手段ヲ講セサルヘカラ
ス即チ音響ヲ聞クニ便ナル爲メ時トシテハ耳ヲ地上ニ附着スヘシ又深
谷、建築物及其他ノ疑ハシキ地區ハ歩哨ノ一人時々其中ニ進入シ敵カ該
所ニ潜行シ來ラサルヤ否ヤヲ搜索スヘシ又附近ニ崛起セル巖石或ハ高
地アルトキハ之ニ登リ以テ敵方ヲ展望スヘシ千八百六十六年普魯士軍
ハクレクウキツ附近ニ於テ其歩哨ヲ樹木ニ登ラセ以テサドワア及リ
一バア附近ノ埃軍ヲ發見セシコトアリ

復哨ノ一人ハ原則トシテ其定位置ニ在ルヲ通常トス是レ歩哨交代兵及

歩哨ヲ樹木ニ登ラ
セ敵ヲ發見セシメ
タル實例

我斥候カ容易ニ其位置ヲ發見シ得ヘキ爲メト各歩哨ノ間隔中ニ於テ適
 當ナル監視點ヲ保持シ置クカ爲メナリ然レトモ他ノ一人ハ決シテ一定
 ノ地點ニ拘束セララル、モノニアラス故ニ必要ト認ムレハ若干前方及側
 方ニ到リ充分ニ敵情ヲ搜索スヘキモノトス但シ複哨行動ノ範圍外ニ溢
 出スルヲ得ス
 要スルニ怠慢ハ前哨勤務就中歩哨勤務ニ於テ最モ大害アルコトヲ終始
 肝銘スヘシ

歩哨カ森林ノ警戒
 ナ意タリシ爲メ小
 隊カ敵ノ爲メニ奇
 襲セラレタル例

第一例 千八百零五年ステッケンノ前方ニ立チシパーエルンノ複哨ハ
 常ニ勤勉ニ敵方向ニ通スル街道ヲ監視セリ然レトモ街道ノ側方ニ在
 ル森林内ノ搜索ニハ毫モ留意セザリキ然ルニ幾何ナラスシテ敵ハ街
 道側方ノ森林内ヲ潜行シ來リパーエルンノ小哨及騎哨ヲ奇襲シ而シ
 テ之ヲステッケンノ方向ニ驅逐セリ
 若シパーエルン歩哨ノ一人カ此際該森林ヲ斷ニス搜索シ在リタラン
 ニハ恐ラク此不幸ヲ免レ得タリシナラン然ルニ此事無カリシヲ以テ

パーエルン部隊ハ若干ノ死傷者ト捕虜トヲ犠牲ニ供スルノ止ムヲ得
 サルニ至レリ

暗夜ニ於テハ歩哨ノ一人ハ斷ニス行動シ主トシテ人影、語聲、足音、蹄響或
 ハ其他ノ疑ハシキ音響ニ注意シ之ヲ聽取スルヤ直チニ其方向ニ赴キ之
 ヲ確認スルヲ要ス若シ其音響稍々遠クシテ歩哨ノ一人カ之ニ赴キ偵察
 シ能ハサルトキハ其趣ヲ速カニ小哨長ニ報告スヘシ小哨長ハ之ヲ確ム
 ル爲メニ直チニ斥候ヲ派遣ス

其他歩哨ハ何ヲ報告スヘキカハ其時ニ現出スル所ノ諸情況或ハ諸徵候
 ニ由テ自ラ決定セラル、モノトス
 假令ハ歩哨カ前方ニ於テ銃聲ヲ聞キシ時或ハ敵ノ使用シツ、在ル鐵道カ
 平常ヨリ頻繁ニ列車ヲ往復セシムル時即チ千八百七十年オルレアン附
 近ノ戰鬪後ニ於テ晝間佛蘭西軍カ増援兵ヲウウルヨリ招致セシ時ノ如
 キ是レナリ要スルニ陸上ニ於テ軍隊カ行動スルトキハ之ニ伴フテ塵埃
 飛揚シ水上ニ在テハ船舶往來スル等多種多様ニシテ一々之ヲ枚擧スル

前哨カ報告チ急
ハリシ爲メ後方部隊
セラシ大砲及大行
李ヲ失ヒシ戦例

ヲ得ス故ニ步哨ハ常ニ次ノ言ヲ服膺スヘシ日ク「報告ハ可成之ヲ頻繁ニ
スヘシ決シテ少キニ失スル勿レト」

第二例 千七百七十七年一月二日アルレントオンニ於テ英國軍ノ前哨

ハ一ノ許容スヘカラサル失策ヲ爲セリ即チ同日ノ日暮ニ於テ彼等ノ
正面前若干距離ノ地點ヲ一縱隊カ通過スルヲ見タリ然ルニ英國ノ前
哨ハ之ヲ適當ノ時期ニ報告セスシテ却テ此縱隊ヲ友軍部隊ナリト速
斷セリ然ルニ此部隊ハ米國軍ノ一部ニシテ無人ノ境ヲ行クカ如ク真
直ニ英國軍ノ背後ニ向テ前進シ彼處ニ在リシ該軍ノ三個聯隊ヲ奇襲
シ彼等ヲ全ク潰亂セシメ而シテ彼等ニ附屬シ在リシ大砲及大行李ヲ
奪略セリ

河川或ハ湖海ノ沿岸ニ立ツ所ノ步哨ハ特ニ暗黒ニ且ツ風雨ノ夜ニ於テ
ハ斷ニス沿岸ヲ巡視シ撓聲人語ヲ聽取シ且ツ水面上ニ現ハルル所ノ運
漕具ニ就テハ特ニ注意シテ觀察ヲ遂ケサルヘカラス即チ此等ノ音響及
運漕具ハ敵カ我軍ヲ奇襲スル爲メニ企テタル處置ニアラサルヤ否ヤヲ

海岸ニ立チシ步哨
ノ注意周到ナリシ
爲メ敵兵三名ヲ其
端艇ト共ニ捕獲セ
シ戦例

飽迄精確ニ觀察スルヲ要ス故ニ步哨ハ夜間其聽感ヲ妨クル所ノ物體即
チ水車急流或ハ風ノ爲メニ音響ヲ發スル所ノ樹林灌木林叢等ノ近傍
ニ位置スルコトヲ避ケサルヘカラス

第三例 千八百六十四年三月十五日ブランデンブルグ歩兵第四十八聯

隊第五中隊ノ一兵卒ハ甚タ注意周到ニ其任務ヲ遂行セリ彼レハフ
一マルン島ノ海岸ニ步哨トシテ立チシトキ同日午後七時頃敵ノ端艇
カ漸次嶋岸ニ近接スルヲ見タリ仍テ彼ハ直チニ此事ヲ報告セリ此報
告ヲ得ルヤ下士一名兵卒四名ハ步哨ノ支援トシテ適時ニ派遣セラレ
沿岸ニ潛匿シテ敵ノ近接スルヲ待テリ此端艇ニハ敵ノ下士一名水夫
二名乗艇シ在リシカ固ヨリ自ラ其發見セラレシコトヲ知ラサルヲ以
テ漸次嶋岸ニ近接シ來リ後靜肅ニ上陸セリ此時先キニ潜伏シ在リシ
一群俄カニ起チテ之ヲ奇襲シ三名ノ敵兵ヲ捕獲シ端艇ヲ押收セリ
密ニ圍繞セシ要塞ニ對シテ立ツ所ノ步哨ハ最モ注意周到ニ其任務ヲ遂
行セサルヘカラス斯ノ如キ要塞内ニ在ル敵ハ決シテ晏然トシテ無爲ニ

以上掲ケ來リシ事實ヲ參照スレハ如何ニ精確ニ且ツ注意周到ニ前哨勤務ヲ施行セサルヘカラサルカヲ知ラン就中要塞ノ前方ニ在ル復哨及斥候ノ勤務ニ於テ最モ其然ルヲ見ル此等ノ諸勤務ニ服スル部隊及ハ各人カ行フ所ノ勤務ニシテ精確ナラサル所アルカ或ハ注意ノ足ラサル點アルカ其影響ハ忽チ友軍ニ波及シ最早ヤ再ヒ回復スヘカラサル不幸ニ陥ルナキヲ保セス加之其結果ハ全體ノ作戰ニ影響ヲ及ホシ我軍ヲシテ不利ノ情況ニ至ラシムルヤモ亦知ルヘカラサルナリ

讀者須ラク一考セヨ守者ハ終始間諜脚夫及水壕等ニ由リ最緊要ニ且ツ最モ精確ナル夥多ノ情報ヲ得而シテ要塞ノ内外ニ對シ常ニ充分ナル交通連絡ヲ保持シ得タランニハ彼等ハ果シテ如何ナル計畫ヲ企テ如何ナル處置ヲ爲シ而シテ如何ナル成功ヲ獲得シタリシカヲ然ルニ我軍ハ機敏ナル歩哨及斥候等ニ由テ此等ノ交通人員及機關ヲ捕獲シ而シテ敵ノ爲メニ絶體的必要ナル信書ヲ獲得シ我軍ノ爲メニ大ナル利益ヲ得タリ

之ニ反シ敵ハ此等ノ交通機關ヲ失ヒシ爲メ内外ノ情況概テ不明ニ陥リ其形勢頗ル不利ノ境遇ニ陥レリ

若シ普軍ノ前哨ニシテ其ノ服行比較的勤勉精確ナラス從テ諸般ノ注意ニシテ充分ナラサル所アリシナランカメツツ及セダンノ開城ハ果シテ彼レノ如ク迅速ニ成功セシカハ大ニ疑問トスル所ナリ
前哨ニ於テハ各人最モ猜疑的ニ其勤務ヲ服行セサルヘカラス故ニ我前哨線ヲ通過セント欲スルモノアルトキハ假令我軍ノ服裝ヲ爲シ在ルモ決シテ輕シク之ヲ信用スルコト能ハサルナリ如何トナレハ敵ノ間諜或ハ斥候等ハ往々我軍ノ服裝ヲ爲シテ我歩哨線ヲ出入シ我情況ヲ視察シ或ハ我歩哨ヲ捕獲シ以テ我軍ノ配置等ニ就テ精密ナル情報ヲ得ル爲メニ種々ノ手段ヲ講スヘケレハナリ

之ヲ要スルニ前哨ハ造次轉沛ノ間モ確ク次ノ言ヲ服膺スヘシ曰ク「勤勉ニシテ注意周到ニ且ツ能ク熟考シテ事ヲ處置スヘシ」ト

二、敵ヲ發見セシトキノ處置

歩哨カ我ニ向テ近接シ來ル敵兵又ハ潛行シ來ル敵兵ヲ發見シタルトキハ既ニ彼レノ任務中第一着ノ緊要ナル一部ヲ達成シタルモノナリ然レトモ速ニ且ツ精確ニ報告スヘキ第二ノ重要ナル任務有ルコトヲ忘ルヘカラス故ニ各兵卒ハ臨時ニ發生スル事件ニ就テ轉瞬ノ間ニ緊要ナル事實ヲ判斷シ且ツ能ク熟考シ而シテ適時ニ精確ナル報告ヲ上官ニ呈セサルヘカラス

常ニ能ク商量シ在ル兵卒ハ又能ク斷乎タル判斷ヲ爲シ能ク所ハ兵卒タルコトヲ忘ルヘカラス

歩哨敵ヲ發見シタルトキ其距離及情況カ口頭ノ報告ヲ許ストキハ複哨ノ一人ハ直チニ之ヲ小哨長ニ口頭ヲ以テ報告スルカ或ハ複哨中ノ一人ニ告知ス若シ事急ニシテ口頭報告ヲ爲ス違ナキトキハ急射撃ヲ以テ第一着ノ報告ヲ爲シ其後複哨ノ一人ハ驅足ヲ以テ口頭報告ヲ爲スモノトス

其他ノ一人ハ歩哨線ニ止マリテ敵ヲ監視シ敵益々前進スルトキハ尙射

撃ヲ續行シ射距離充分ニ且ツ命中確實ナル銃器ヲ以テ飽迄敵ノ前進ヲ支阻スルコトヲ努ムヘシ敵兵益々前進シ小哨ニ肉迫スルトキハ歩哨ハ此敵兵ニ向テ爲シ得ル限り急射撃ヲ施スヘシ斯ノ如キ情況ニ際シテノ急射撃ハ頗ル必要ニシテ假令命中セサルモ其効益ハ多大ナリ如何トナレハ後方ニ在ル部隊ハ此銃聲ニ由リ如何ナル方向ヨリ敵カ攻撃シ來ルヤヲ知ルヲ得ルヲ以テナリ

第四例 千八百七十年十一月オルレアンノ北方村落ヤンヒールレイニ於テ獨逸軍ノ驃騎兵大隊ハ佛蘭西義勇軍ヨリ一ノ奇襲ヲ受ケ甚タ不快ナル戦闘ヲ爲セリ是レ其原因ハ該村落ニ歩哨トシテ立チシ兵卒カ適時ニ於テ報告ヲ爲サス且ツ連續ノ急射撃ヲモ爲サ、リシ結果ナリ該驃騎兵大隊ハ騎兵第二師團ニ屬シ該師團ハ此時第二軍司令官皇太子「フリードリヒカール」ノ前衛ト爲リオルレアンノ會戰ニ先タチヤンヒールレイ附近ニ集中シタルモノナリ此師團ハ既ニ敵ト觸接シ在リシカ爲メ最モ嚴密ナル前哨勤務ヲ爲サ、ルヘカラサル形勢ニ在リ或

歩哨カ適時ニ報告
ヲ爲サ、リシ爲メ
友軍騎兵大隊カ敵
ヨリ奇襲セラレシ
戦例

ル日午後驃騎兵大隊ハ該村落ニ侵入セシカ時正ニ天候險惡ニシテ寒威凜烈ナリシカハ馬匹及騎者ヲ可成掩蔽下ニ宿營セシムヘク區處セリ依テ強大ナル村落衛兵ハ配布セラレテ村落内外ヲ警戒シ而シテ若シ不時ノ奇襲ニ際會セハ該衛兵ハ騎兵カ馬匹ヲ掩蔽下ヨリ牽出シ戰鬪準備ヲ爲ス迄敵ヲ拒支セサルヘカラス此夜暗黒ニシテ咫尺ヲ辨セサルヲ好機トシ佛蘭西義勇軍ハ俄然トシテ該村落ヲ四面ヨリ攻撃セリ此時驃騎兵ノ步哨ハ此敵ニ向テ急射撃ヲ爲サ、リシ故ニ佛蘭西義勇軍ハ咄嗟ノ間ニ該村落ニ幕入シ驃騎兵大隊カ其宿營地ニ在テ未タ戰鬪準備ノ整ハサルニ乘シ猛烈ニ之ヲ奇襲セリ之ニ於テ驃騎兵大隊ノ大部分ハ襯衣ノ儘乘鞍ナキ馬匹ニ跨リ軍刀ヲ揮フテ勇猛果敢ニ敵中ニ斬入セリ此矯捷ニシテ大膽ナル動作ハ辛フシテ佛蘭西義勇軍ヲ村落外ニ驅逐スルコトヲ得タリシモ驃騎兵大隊ニ於テハ多數ノ死者及重傷者ヲ生シ步哨ノ怠慢ヲ實ニ鈔ナカラサル損害ヲ以テ賠償スルノ止ムヲ得サルニ至レリ

步哨ノ報告ヲ忘リシ結果一角面堡ヲ失ヒタリシ戦例

步哨ハ斷ニス我隣步哨ニ注意スルコトヲ忘ルヘカラス故ニ若シ或ル何事カラ發見シタトキ又ハ隣哨ノ近傍ニ於テ同一事件ヲ發見シタルトキハ必ス之レヲ隣步哨ニ告知スルヲ要ス如何トナレハ我發見セシ事件ヲ隣步哨モ果シテ我ト同シク發見セシヤ否ヤヲ知ル能ハサルヲ以テナリ況ンヤ隣步哨カ敵ノ爲メニ奇襲セラレシカ或ハ安全ニ其信地ニ服務シツ、在ルヤ否ヤ等ヲ知ルハ步哨相互ノ關係上最モ必要ナル事件ナルニ於テオヤ

第五例 グラッツノ攻拔ノ際惜ラクハ一步哨カ他ノ步哨ニ告知スルコトヲ等閑ニセシ爲メ遂ニ回復スヘカラサル失敗ヲ見ルニ至レリ或ル時步哨ハ敵カナイイス河ノ橋梁ヲ通過スルヲ聞ケリ此時步哨ハ思ヘラク此事ハ他ノ步哨カ之ヲ報告スルナラン否或ハ既ニ之ヲ報告セシナラント故ニ一回ノ報告モ爲サス亦隣哨ニモ之ヲ通告セサリシ是ニ於テ敵ハ全ク無事ニ橋梁ヲ通過シ終リ咄嗟ノ間ニ角面堡内ニ突入シ而シテ守兵ヲ悉ク殺戮シタリ

之ニ反シ歩哨ハ亦深ク輕舉暴動ヲ慎シマサルヘカラス假令ハ遠方ヨリ我ニ向テ前進シ來ルモノヲ見其敵兵ナルヤ否ヤ未タ判明セサルニ敵發見ノ動作ヲ爲シ又ハ敵ノ小ナル斥候等ニ向テ其情況ノ如何ニ關ラヌ急射撃ヲ爲スカ如キコトアラハ後方ニ在リテ露營若クハ舍營シ在ル軍隊ハ如何ナル敵カ襲來セシモノナルヤヲ知ル能ハサルヲ以テ直ニ警急集合ヲ爲シ戰備ヲ整頓スルテ然ルトキハ歩哨ノ輕舉暴動ノ爲メニ後方ニ在ル軍隊ハ全ク其休息ヲ妨害セラル、ニ至ルモノナリ

晝間ニ於テ歩哨ハ小哨長ヨリ規定セラレシ記號ヲ應用スルヲ以テ利トスルコトアリ假令ハ歩哨カ敵ノ近接スルヲ見シキハ帽ヲ銃ノ上ニ懸ケ之ヲ高ク上クル等ノ如シ而シテ此記號ハ單ニ之ヲ一回施行セシノミニテ中止スルハ不可ナリ如何トナレハ此ノ記號ヲ受ケシモノハ果シテ之ヲ理解セシヤ否ヤヲ知ルコト能ハサレハナリ故ニ受記號者ハ此記號ヲ理解セシコトヲ記號者ニ向テ更ニ記號スル迄反覆施行セサルヘカラス故ニ小哨ノ銃前哨ハ斷ニス歩哨線ニ注意シ而シテ記號并ニ其他總テノ

不時ノ事件ニ注意シ適時ニ之ヲ小哨長ニ報告スルハ實ニ此歩哨ノ責任タリ

其レ然リ然レトモ記號ハ元來不確實ノモノタルヲ免レス語ヲ換ヘテ之ヲ曰ヘハ記號ハ單ニ一時的ノ表示ニ過キス故ニ記號ヲ爲シタル後ハ直チニ口頭報告ヲ爲シ以テ其不足ヲ補ハサルヘカラス

夜間或ハ濃霧ニ際シ又ハ密樹林ニ於テハ最モ少ナクモ複哨ノ一人カ斷ニス巡視セサルヘカラス是レ斯ノ如キ際若クハ地區ニ在テハ強大ナル敵兵カ俄然歩哨線前ニ現出スルコト往々之レアルヲ以テナリ斯カル機會ニ遭遇セシ歩哨ハ已レノ身ヲ犧牲ニ供シ爲シ得ル限り連續ノ急射撃ヲ爲シ以テ友軍ニ危險ノ切迫シタルコトヲ告知セサルヘカラス此際己レノ銃器破損スルコトアルカ或ハ敵ト格闘ヲ爲ス際ニハ少クモ大聲ヲ以テ敵襲ト疾呼スルコトヲ忘ルヘカラス

若シ敵カ或ル方面ヨリ攻撃シ來ルトキハ複哨ノ一人ハ必ス此方向ニ急進シ以テ之ニ對スル處置ヲ爲ササルヘカラス小哨長モ亦必要ノ兵力ヲ

提ケ直チニ該方向ニ向テ前進シ而シテ先ツ第一着ニ有利ナル位置ヲ占領シ此處ニ其兵力ヲ集結シ勉メテ長ク敵ヲ拒支シ而シテ前哨中隊ノ應援ニ來ルヲ待ツカ或ハ必要ト認ムレハ前哨本隊ノ戰備ヲ整フルヲ待タサルヘカラス

一 下士小哨長トナリ其部下ヲ率ヒテ模範的動作ヲ爲シタリ

第六例 千七百六十年四月十七日下士ビートシハヒルベルス村前ノ前進小哨長トシテ最モ賞讃スヘキ動作ヲ爲セリ或ル夜西風頻リニ至リ寒威亦凜烈而シテ敵ハ眼前ニ在リ何時攻撃シ來ルヤモ知ルカラサル形勢ナリキ從テ小哨ノ位置ヲ敵ニ發覺セラル、コトヲ顧慮シ焚火ハ一切之ヲ嚴禁シ兵員ノ半部ハ又銃線ノ直接近傍ニ在リテ至嚴ナル戰闘準備ヲ爲シ以テ不時ノ事變ニ備ヘタリ

既ニシテ夜ハ最早拂曉ニ近ケリ此時復哨ノ附近ニ若干秒時ヲ隔テ、前後三發ノ銃丸飛來セリ是ニ於テ小哨長タル下士ハ部下ニ告諭シテ曰ク『擔ヒ銃ヲ予ニ續テ前進セヨ』ト此一群前進ヲ始メ未タ五十歩モ經過セサルトキ復哨ノ一人驅足ヲ以テ來リ報告シテ曰ク『小哨長殿前方ヨ

リ一集團ノ人影カ我ニ向テ近接スルヲ見ル是レ敵兵ナラン』ト小哨長靜ニ之ニ答テ曰ク『善シ』ト尙部下ニ告諭シテ曰ク『我々ハ彼ノ敵ヲ途ニ要撃セント欲ス速ニ彼ノ生籠ヲ占領セヨ』ト勇敢ニシテ沈着ナル此一群ハ迅速ニ其位置ニ着クヤ直チニ其攜帶スル所ノ銃器ヲ檢査セリ是レ使用ニ際シ一銃モ故障無カラシメンカ爲メナリ

敵ノ稍強大ナル一群ハ益々前進ヲ續行シ前方ニ在リシ小哨ノ步哨ハ此敵ヲ射撃シツツ小哨カ占領シ在ル地點ノ一翼ニ退却セリ蓋シ小哨ヲシテ前方ニ自由ナル射界ヲ得セシメンカ爲メナリ該下士ハ部下ニ敵兵全ク近距離ニ來ルニアラサレハ決シテ射撃ヲ開始スヘカラスト告諭セリ是レ夜未タ全ク明ケス不明ナル目標ニ向テ遠距離ヨリ射撃スルモ何等ノ効驗ナキヲ以テナリ敵兵益々前進シテ適當ノ距離ニ來ルヤ下士ハ射撃ノ開始ヲ號令スルト同時ニ生籠ヨリ猛烈ナル彈丸敵ノ一群ニ向テ集中セシカハ敵ハ數

多ノ死傷者ヲ遺棄シ大ニ驚駭シテ全ク散亂セリ
若干時ノ後敵ハ援兵ヲ得テ再ヒ小哨ノ一群ニ向テ攻撃ヲ開始シ茲ニ
激烈ナル火戦ハ開始セラレタリ此時友軍ノ前哨線ニ於テモ亦戰鬪起
リシヲ以テ斯ノ如キ情況ニ於テ此小哨ノ一群ハ最早ヤ後方ヨリ援助
ヲ受クルノ望無キニ至レリ然ルニ敵ハ飽迄攻撃ヲ續行セスシテ遂ニ
再ヒ舊方向ニ退却セリ

此戰鬪ニ於テ小哨ノ一群ハ小哨長タリシ下士重傷ヲ負ヘシ外他ニ一
名モ死傷者ナカリキ

勇敢ナル下士ハ其負傷ノ爲メ一二日ノ後遂ニ死亡シ此賞讃スヘキ動
作ニ對シ「フリードリヒ」大王カ附與セント欲セシ恩賞モ遂ニ其實行ヲ
見スシテ止ミシハ惜ムヘシト雖彼レカ勇敢ナル動作ハ依然トシテ長
ク青史ヲ照ラシ彼ノ沈着ナル部下ト共ニ奏セシ事蹟ハ今ニ至ル迄吾
人ノ好紀念トシテ敬仰措ク能ハサル所ナリ

前哨勤務ノ不備ナ

第七例 千八百八十七年ノ機動演習ニ於テ前哨勤務ノ不備ナル爲メ一

リシカ爲メ敵ノ爲
メニ小哨及前哨中
隊ヲ突シセテ其
後ノ戰況モ甚タシ
ク不利ニ陥リシ適
例

ハ失敗シ一ハ之ヲ利用セシ爲メ成功セシ一例ヲ掲ケントス(著者ハ此
事實ノ證人タリ)或夜南軍ハ其陣地ノ前方ニ在ル稍々幅廣キ河川ノ橋
梁ヲ占領スル爲メ一ノ前進小哨モ尙一ノ獨立下士哨モ出サ、リシ
南北兩軍前哨ハ四乃至五吉羅米突相離レテ兩々相對峙シ而シテ該河
川ヲ其間ニ掃メリ拂曉前北軍ノ全支隊ハ悉ク前記ノ橋梁附近ニ集合
ヲ終リ騎兵聯隊ヲ先頭トシテ行進ヲ始メ爾餘ノ諸隊ハ之ニ跟隨セリ
此附近ノ地質ハ一般ニ沮洳地ニシテ人馬ノ行進ニ音響ヲ發スルコト
ナク且ツ濃霧迷濛四面ヲ遮キリシヲ以テ北軍騎兵ハ發見セラル、コ
トナク南軍ノ歩哨線ニ接近セリ南軍歩哨ハ敵ノ近接セシコトヲ知ラ
サリシカ故ニ固ヨリ一發ノ警報射撃モ爲サス從テ其小哨ニハ敵ノ近
接ニ就テ一ノ報告モ到着セサリキ是ニ於テ北軍驃騎兵ハ疾風ノ如ク
敵線ヲ突破シ二小哨及一前哨中隊ヲ蹂躪シ尙一直線ニ前哨本隊ニ向
テ突進セリ此時始メテ南軍ハ北軍ノ騎兵ニ向テ頑強ニ抵抗ヲ試ミタ
リシモ暫時ノ後北軍ノ後續部隊タリシ歩兵及砲兵到着シ直チニ附近

ノ緊要ナル高地ヲ占領シ此地點ヨリ南軍ヲ猛烈ニ攻撃セシカハ南軍ハ益々危急ニ陥リ之ニ反シ北軍ノ成功ハ何人モ之ヲ疑フヘキ餘地ナキニ至レリ

濃霧及地質ノ柔軟并ニ騎兵ノ駿速カ北軍ノ爲ニ利益ヲ與ヘ之ニ反シ南軍ノ爲ニハ大ナル不利益トナリシハ論ヲ俟タサルモ抑々利益又ハ不利益ナルモノハ固ヨリ一定ノ標準アルモノニアラスシテ之ヲ應用スルモノ、如何ニ由リテ又大ニ變更セラルヘキモノナリ故ニ南軍ノ歩哨(複哨及小哨并ニ前哨中隊ノ銃前哨)ハ此等ノ情況ニ鑑ミ一層注意ヲ倍菴シ以テ敵ノ近接ヲ早時ニ發見スルノ策ヲ講セサルヘカラス而シテ總テノ周到ナル注意ニモ拘ハラヌ敵ノ騎兵等カ驀然歩哨線ニ向テ疾驅シ來ラハ歩哨ハ各自カ携持セル精巧ナル彈倉銃ヲ以テ連續急射撃ヲ爲シ爲シ得ル限り之ニ損害ヲ與フルト同時ニ一方ニハ其銃聲ヲ以テ友軍ニ危急ノ切迫セルコトヲ警報セサルヘカラス然ルニ南軍ノ歩哨ハ此注意ヲ缺キシノミナラス不意ニ突進シ來ル北軍騎兵ノ爲

メニ蹂躪セラレテ精巧ナル火器モ遂ニ之ヲ使用スルノ機會ヲ得ザリシハ惜ムヘキコトナリトス

右ニ述ヘシ注意及訓練ハ豈獨リ歩哨ノミニ止マランヤ寧ロ其責任ハ大ニ幹部ニ歸スヘキモノタルコトヲ忘ルヘカラス

斥候モ尙右ニ述ヘシ要旨ニ準シ敵ヲ早時ニ發見シ迅速ニ報告シ尙必要ト認ムレハ急射撃ヲ以テ敵ノ近接ヲ友軍ニ警報スヘシ要スルニ南軍ノ失敗ハ前哨勤務ノ天職タル勤勉ト注意周到トヲ缺キシ結果ナリト斷言スルヲ憚ラス

攻撃シ來ル所ノ敵ヲ擊退セハ前哨ハ再ヒ舊位置ニ復シ尙一方ニハ追躡斥候ヲ派遣シ敵カ何レノ地點ニ停止セシヤヲ偵察セシム
敵ノ斥候我前哨線ノ近傍ニ來リ我ヲ偵察シ其距離甚タ近ク命中効力確實ナルトキハ歩哨ハ能ク照準シ一舉ニ之ヲ射殺スルヲ要ス其距離尙遠ク而シテ其兵力稍々多キトキハ之ヲ小哨長ニ報告ス小哨長ハ自ラ之ヲ偵察シ小哨ヲ散開シテ此敵ニ對抗スルカ或ハ強大ナル斥候ヲ派遣シテ

此敵ヲ驅逐スルカハ全ク其時ノ情況ニ由テ決定セラル、モノトス

四、晝間ニ於ケル問查

敵ハ我陣營ヲ奇襲スル爲メニ或ハ其情況ヲ視察スル爲メニ百方詭計ヲ旋ラシ我ヲ欺騙シ而シテ我前哨線ヲ通過センコトヲ謀ルモノナリ

第八例 千七百九十三年マインツノ合圍ノ際佛蘭西軍人中ニ農夫ノ服裝ヲ爲シ普魯士軍ノ步哨ニ勞働者ナリト告ケ步哨線ノ通過ヲ謀リシモノアリ此等ハ皆普軍ノ陣營迄引致セラレ該所ニ於テ多クハ殺戮セラレタリ

第九例 千八百十五年クリーゲスノ出撃ニ際シ普魯士軍ハ佛蘭西軍ノ前哨線ノ後方ニハ如何ナル堡壘又ハ阻絶物アルカヲ知ルノ必要ヲ感セリ依テシユレイジツシエンノ「フリードリヒ」二世ノ守護トシテ狙撃兵大隊ヲ全ク佛蘭西軍ノ服裝ニ變裝シ而シテ佛軍ノ前哨線ニ送レリ幸ニシテ此計畫ハ目的ヲ達シ總テノ情況ヲ偵察スルコトヲ得タリ

第十例 丁抹ノ將官トルデンスキオールドハ魚商ニ變裝シ瑞典ノ要塞

農夫ノ服裝ヲ爲シ
步哨線ノ通過ヲ企
テシ實例

敵軍ノ服裝ヲ爲シ
偵察ノ目的ヲ達シ
タリ實例

一將官魚商トナリ

要塞ノ内部ニ入り
偵察ノ目的ヲ達シ
タリ實例

一將校郵便脚夫ニ
變裝シ敵ノ歩哨チ
シテ城門ヲ開カシ
メテ後續ノ友軍部隊
ヲシテ奇襲ノ目的
ヲ達セシメタル戰
例

我國改定野外業務
令ハ查哨ニ關スル
規定ヲ一切削除セ
シ爲メ從來查哨ニ
於テ行ヒ來リシ事
項ハ總テ複哨チシ

マストランドニ進入シ彼處ニ於テ魚類ヲ一般ニ販賣シ其間ニ於テ總テノ偵察ノ目的ヲ達成セリ

第十一例 普魯士ノ別働隊ハシユルケエーテンヲ奇襲スル前ニ一ノ將校ヲ郵便脚夫ニ變裝シ奇襲隊ヨリ遙カニ前方ニ派遣シ城門前ニ到リ郵便脚夫カ平常爲ス所ノ動作ヲ爲サシメタリ蓋シ此門ノ步哨ノ慣例トシテ郵便脚夫ト確認セシトキハ直ニ開門スル習慣ナリキ今ヤ步哨ハ此變裝將校ノ爲メニ欺カレ容易ニ開門スルヤ變裝將校ハ電光石火ノ如ク拳銃ヲ以テ直チニ步哨ヲ擊殺シ而シテ其結果ニ由リ市街ハ遂ニ普魯士ノ別働隊ノ爲メニ奇襲セラレタリ

步哨線ヲ通過セント欲スルモノヲ最モ精密ニ檢察スルノ如何ニ必要ナルカハ何人モ恐ラク之ヲ知諒シ在ルナラン

此目的ヲ達成スヘキ爲メニ小哨ニハ查哨ヲ設ク即チ二人ノ兵卒ハ複哨トシテ大道上ニ立チ其後方ニ下士ノ指揮スル兵卒四人ハ步哨ノ交代兵トシテ位置スルモノトス此查哨ハ步哨線中ニ設ケラル、トキハ其他ノ

テ取扱ハシムルコト
トナレシムルコト
使及奔來人等ノ如
キモノニシテ歩哨
線外ヨリ歩哨線内
ニ入ラント欲スル
モノハ歩哨ノナシ
ニ止ル其ノ中ノ地
速ニ小哨長ニ報告
スルコトヲ要スル
又同野外要領ハ如
ク使明シシハ
軍使來リシ時ハ前
哨中隊長ハ歩哨線
外ニ於テ其來意ヲ
監視シテ前哨司令
官ニ報告シ軍使ハ
之ヲ歸還セシムヘ

歩哨ハ歩哨線ヲ通過セントスルモノヲ悉皆查哨ノ方向ヲ指示シテ之ニ
赴カシムルモノトス只我軍ノ將校、密集部隊、斥候、傳令ハ費間ニ限リ歩哨
線ノ通過ヲ許スモノトス
此查哨ハ通常小哨ヨリ敵方ニ通スル大道上ニ位置スルモノトス
歩哨敵ノ方向ニ於テ一部隊ヲ發見シ而シテ其部隊カ敵ナルヤ否ヤヲ知
ル能ハサルトキハ其距離ノ遠近ニ拘ラス復哨ノ一人ハ直ニ其兵力、兵種
及行進方向ヲ小哨長ニ報告スヘキモノトス其他ノ一人ハ依然其部隊ヲ
監視シ可成速ニ其敵兵ナルヤ否ヤヲ確メサルヘカラス
前進シ來ル部隊軍使ノ一行陸戰條規ニ由リ軍使ハ白旗ヲ掲ケ來ルコト
トナレリナルトキハ歩哨ハ之ヲ歩哨線前百歩ノ地ニ止メ查哨ノ方向ヲ指
示シテ之ニ赴カシム查哨ノ歩哨ハ此情況ヲ見ルヤ直ニ其長ニ報告シ尙之
ヲ停止セシムルコト前要領ニ同シ查哨長ハ其部下ヲシテ交戰ノ準備ヲ
爲シ可成掩蔽シテ其位置ニ就カシメ然ル後「一人前」ト呼ヒ其中ノ一人ヲ
適當ノ所迄前進セシメ若シ乘馬シ在ルトキハ之ヲ下馬セシメ之ニ其來

歩哨ノ注意周到ナ
ラザリシカ爲メ小
哨悉ク捕虜ト爲リ
テ戰例

意ヲ訊問ス軍使ナリト答フルトキハ其一行ヲシテ悉ク初メ來リシ方向
ニ面セシメ軍使ノ眼ヲ縛シ二人ノ兵卒ヲシテ之ヲ小哨ニ護送セシム
此際查哨ハ彼等ノ監視及其動作ニ就テ最モ嚴密ナル注意ヲ要ス從來ノ
經驗ニ由ルニ自ラ軍使或ハ降參人ト稱シテ一時我ヲ欺キ好機ニ乘シ俄
然我ヲ奇襲セシ例證尠ナカラサルヲ以テナリ
奔來人ノ數著シク多數ナルトキハ一方ニハ早時ニ之ヲ小哨ニ報告スル
ト同時ニ小哨ニ適當ノ應援兵ヲ請求スルヲ可トス
歩哨ハ敵ノ奔來人等ヲ甚シク近ク接近セシムヘカラス可成遠方ニ之ヲ
停止セシメ命令シテ武器ヲ脱セシメ且ツ指示シテ查哨ノ方向ニ赴カシ
ムルヲ要ス若シ少シニテモ命令ヲ遵奉セサルモノアルトキハ歩哨ハ之
ヲ射撃スヘシ而シテ歩哨ト奔來人言語相通セサルトキハ歩哨ハ手摸擬
或ハ記號ヲ以テ彼等ノ理解スル迄之ヲ指示スヘシ
第十二例 千七百九十三年埃軍部隊カ佛軍部隊ヲフアマルス附近ニ於
テ奇襲セシトキニ最初先ツ佛軍ノ小哨ヲ掩撃スルノ必要ヲ感セリ仍

テ埃兵二人ハ高ク繁茂セル穀物圃ヲ潜行シ最近ナル佛軍歩哨ニ向テ
近接セリ佛軍歩哨ハ之ヲ發見シ直チニ彼等ヲ問查セリ此時埃兵ハ脱
走兵ナリト答ヘ銃ヲ反對ニ擔ヘリ

佛歩哨ハ性質敏捷ナラスシテ其動作モ亦甚タ緩漫ナリキ即チ埃兵ヲ
至ク脱走兵ナリト確信シ彼等ニ命シテ其武器ヲ脱セシメサルノミナ
ラス彼等ヲシテ自由ニ己レニ近接セシメタリ是ニ於テ二人ノ埃兵ハ
俄然歩哨ヲ抑ヘテ其咽喉ヲ扼シ後方ニ跟随セシ埃軍部隊ハ機ヲ失セ
ズ不意ニ佛軍ノ小哨ヲ掩撃シ而シテ悉ク之ヲ捕虜トナセリ是レカ爲
メニ佛軍ノ歩哨及小哨ハ遂ニ一發ノ射撃ヲモ爲スコト能ハザリキ

第十三例

前哨線ヲ通過セントスル地方人ニ對シテハ最モ之ニ注意セ
サルヘカラス著者ハ自ラ目撃シタル例證ヲ次ニ掲載セントス千八百
六十六年普魯士エルブ軍ノ前衛ハ埃地利ノ國境某地附近ニ達シ其市
街ノ前方ニ前哨ヲ配布セリ時ニ鮮麗ナル服裝ヲ爲セル一紳士其夫人
ト共ニ旅行用ノ馬車ニ乘シ複哨ノ前ニ來リ歩哨線ノ通過ヲ許可セラ

歩哨及小哨長ノ適
當ナル處置ニ由テ
紳士ヲ裝ヒタル一
例同様に捕獲セシ
實

レンコトヲ要求セリ複哨ハ之ヲ許サ、リシノミナラス命令シテ紳士、
夫人及馭者ヲ車ヨリ下車セシメ初メ來リシ方向ニ面セシメ而シテ複
哨ノ一人ハ該紳士ヲ小哨ニ護送セリ此間他ノ一人ハ裝填セル銃ヲ以
テ夫人及馭者ヲ監視セリ該紳士小哨ニ到ルヤ先ツ自ラ姓名ヲ名乗リ
且ツ徐ロニ説明シテ曰ク「予ハ以前普魯士ノ一將校ナリキ然レトモ今
ハ此附近ニ移住シ在ルモノナリ願クハ以前予カ親交セシ二、三ノ朋友
及同僚ニシテ目下貴軍ニ屬シ在ルモノヲ訪問スルコトヲ許可セラレ
ヨ」ト其態度甚タ懇懇ニシテ言辭頗ル恭敬ナリキ尙彼ハ語ヲ續ケテ小
哨長ニエルブ軍司令官ノ姓名該軍ノ兵力、編組、志氣及行軍方向等要ス
ルニ最モ緊要ナル軍事事項ノ一般ヲ諮問セリ勿論小哨長タル一將校
ハ此等ノ諮問ニ對シ何等ノ説明ヲモ與ヘザリシノミナラス彼レノ諮
問ニ由リ一層其疑團ヲ深カラシメタリ依テ小哨長ハ此紳士ヲ前哨司
令官ノ許ニ送附スヘク命令シ又其夫人及馭者モ紳士ト共ニ同行セシ
メタリ而シテ令ヤ兵卒ハ紳士及夫人ヲ馬車ニ乘ラシメ馭者ハ徒歩ニ

歩哨ハ其動作最モ敏活ナラサルヘカラス而シテ問查ノ際受問者ノ答辯
 此際恐怖スヘカラス
 歩哨ノ問查ハ受問者ニ聞キ得ルヲ度トシ甚タシキ高聲ヲ發スヘカラス
 如何トナレハ夜間ノ靜肅ニ於テ各人ノ言語ハ晝間ヨリモ其音響遠ク傳
 波スルヲ以テ此際若シ敵ノ斥候等カ歩哨ノ近傍ニ潛匿シ在ルトキハ彼
 等ハ歩哨ノ問查ヲ容易ニ聽取ルコトヲ得且ツ其位置ヲモ發見スルコト
 ヲ得ルモノナレハナリ
 歩哨ノ交代或ハ我斥候ノ近接或ハ隣歩哨トノ連絡ニ際シ無益ノ問查ヲ
 避クヘキ爲メニ確實ナル信號即チ口笛或ハ其他ノ音響ヲ以テ互ニ識別
 ニ便ナラシムルヲ要ス
 歩哨ノ問查嚴密ナルカ或ハ其處置猜疑ニ偏スルモ此ニ對シ何人モ決シ
 テ惡感情ヲ惹起スヘカラス如何トナレハ歩哨ハ一舉一動ハ直チニ全軍
 ノ安危及ヒ榮辱ニ關係スルモノニシテ其問查ノ嚴密或ハ其處置ノ猜疑

查哨ノ注意及問查
 不確實ナリシ爲メ
 或ル部隊其背後ニ
 於テ敵ノ騎兵ヨリ
 奇襲セラレシ戦例

ニ偏スルハ寧ロ其職務ニ忠實ナル誠心ヨリ出テシ動作ナレハナリ

第十四例 千八百十三年九月六日ノ拂曉ロイブル附近ノバレン谷ニ立

チシ埃地利軍ノ歩哨ハ其動作甚タ不良ナリキ時正ニ深霧迷濛ナリシ
 カ偶々歩哨ハ一人ノ騎兵カ我前面ニ現ハル、ヲ目撃セリ是ニ於テ步
 哨ハ「止レ」誰カト呼ビシニ先頭ニ在リシ騎兵ノ一人之ニ答ヘテ曰ク
 「味方」ト此全ク不得要領ナル答辯ニモ拘ハラヌ歩哨ハ更ニ之ヲ精密ニ
 問查スルコト無ク直チニ銃ヲ「休メ」ノ位置ニ復セリ

思慮淺キ歩哨ハ此騎兵ヲ以テ飽迄友軍ノ騎兵ナリト信シ在リシニ豈
 圖ランヤ該騎兵ハ電光ノ如ク歩哨ニ近接シ彼ノ襟邊ヲ強握スルヤ其
 他ノ後續騎兵モ殆ント同時ニ到着セリ此歩哨ハ遂ニ如何ナル運命ヲ
 擔ヒシカハ説明ヲ要セサルモ自ラ明ラカナラン抑モ此行タル先頭ニ
 在リシ騎兵ハ其數決シテ少ナカラサリキ即チ敵ノ主將タル以太利ノ
 副王オイゲンモ其中ニ在リキ然ルニ歩哨ハ此敵ニ對シテ何等ノ注
 意モ爲サヌ又友軍ニ對シテ何等ノ警報ヲモ與ヘスシテ空シク敵手ニ

落チシヲ以テ以太利軍ハ容易ニ埃地利軍ノ背後ニ出テ之ヲ奇襲スル
コトヲ得タリ

要塞戰ノ前哨ニハ時トシテ暗號適宜ニ短簡ナル言語ヲ使用スルコトアリ其目的ハ疑ハシキ場合ニ於テ彼我ノ識別ヲ容易ニシ且ツ前哨線ヲ通過セント欲スルモノヲ問查シ而シテ其敵ナルヤ否ヤヲ精確ニ判定センカ爲メナリ但シ此問查法ハ前ニ掲クルト同要領ニシテ問查ヲ爲スモノハ受問者ニ向テ「暗號」ト呼ビ受問者ハ問查ヲ爲スモノカ聞キ得ル程度ノ音聲ヲ以テ規定ノ暗號ヲ發唱スルモノトス而シテ受問者全ク暗號ヲ知ラズ或ハ其發唱不充分ナルトキハ指示シテ查哨ノ方向ニ赴カシム此際若シ遁逃セント欲スルカ或ハ其他疑ハシキ舉動ヲ爲ストキハ直ニ之ヲ射撃スルモノトス

查哨ニ關シテハ前ニ提ケシ注意ヲ參照スルヲ要ス

六、小哨ニ於ケル動作

小哨ハ敵襲ニ際シテハ何レノ時期何レノ場合ニ拘ハラズ瞬時ニ之ニ對抗シ得ル如ク常ニ至嚴ナル戰鬪準備ヲ爲シ在ラサルヘカラス何人モ許

可又ハ任務無クシテ小哨ノ位置ヲ離ル、コトヲ得ス晝間ハ背囊ヲ卸スコトヲ得ルモ夜間ハ概テ之ヲ負フモノトス甚タシク敵ノ近傍ニ在リテ夜間ハ少クモ兵員ノ半部ヲシテ銃ヲ手ニシ徹宵セシムルモノトス又小哨ニ於テハ何人モ高聲ナル談話唱歌若クハ其他ノ音響的動作ヲ許サズ是レ音響的動作ハ容易ニ敵ヨリ小哨ノ位置ヲ發覺セララル、ノ恐アレハナリ

不意ニ敵ニ攻撃セラレ必要ノ位置ヲ占領スルニ一ノ時間モナキ場合ヲ願慮シ小哨長ハ其兵員ニ斯ノ如キ場合ニ際シテ占領スヘキ位置ヲ豫メ指示シ置クヲ要ス若シ不意ノ敵襲ニ際シ小哨ノ兵員カ瞬間ニ或ル位置ヲ占領スルコト無ク右往左往ニ狂奔シツ、在ルカ如キコトアラハ其結果ハ多クハ失敗ニ歸シ成功ノ見込愈々減少スルモノトス之ニ反シ小哨カ毫モ豫期セサル奇襲ニ遭遇スルニモ拘ハラズ果斷決行瞬息ノ間ニ應急ノ位置ヲ占領シ敵ニ對抗スルコトヲ得ハ敵ヲ擊退スルカ或ハ其後ノ處置ニ於テ成功ノ見込愈々確實ナルモノトス暗夜ニ於テハ敵ノ近ク近

小哨ノ勤務不確實
ナリシ爲メ其後方
ニ舍營シ在リシ部
隊悉ク敵ノ爲メニ
捕獲セラレシ戦例

接スルヲ待チ適當ノ距離ニ來ルニ及ヒテ毫モ遲疑スルコト無ク喊聲ヲ揚ケ銃槍ヲ揮テ勇猛果敢ニ敵ニ向テ突撃シ而シテ之ヲ一瞬間ニ驅逐スルヲ要ス

第十五例

千八百十三年將官ブリッフエルカブリンネニ舍營セシトキ

普魯士軍ハ單少ナル前哨線ヲ該市ノ前方ニ配布セリ其際小哨ノ兵員ハ其勤務ヲ等閑ニシ焚火ヲ圍繞シテ悉ク睡眠シ在レリ然ルニ佛蘭西軍ハ此夜密カニ普魯士軍ノ前哨線ヲ潛行シ一發ノ射撃ヲ受クルコト無ク小哨ノ全員ヲ捕獲セリ該市ノ入口ニハ騎哨在リシカ其前方ニ配布シ在リシ小哨ノ全員カ敵ノ爲メニ捕獲セラレシコトヲ知ラス且ツ敵ノ奇襲ニ就テ毫モ豫想シ在ラサリシヲ以テ該騎哨ハ直チニ殺戮セラレタリ今ヤ佛軍ハ疾風ノ如ク市街内ニ進入シ將官ブリッフエルノ本營モ殆ント全ク捕獲セラレントスルノ危殆ニ瀕セリ此時副官某著者ノ父始メテ之ヲ發見シ本營ニ警報セシヲ以テ本營ハ辛フシテ其虎口ヲ脱スルコトヲ得タリ

夜間ニ於テ歩哨カ
敵ノ發見後レタル
モ下士哨長ノ勤勉
ニ由リ敵ノ突進ヲ
例撃退シ得タリシ戦

第十六例

千八百七十年巴里要塞ノ前方ニ於テ普魯士軍ノ一下士哨ノ

歩哨カ殆ント右ニ掲ケシ如キ運命ニ際會セリ
黄昏前下士哨長ハ暗號ヲ授クルニ當リ嚴ニ其部下ヲ戒メテ曰ク「本夜ハ殊ニ暗黒ナリ斯ノ如キ夜ニ在テハ敵ハ必ス何等カノ企謀ヲ我ニ向テ施スナルヘシ故ニ我々ハ最モ細心注意シテ其勤務ニ服セサルヘカラス依テ下士哨ノ半部ハ炭火ニ暖ヲ探ルコトヲ得ルモ他ノ半部ハ銃ノ直下ニ在テ至嚴ノ戰備ヲ爲シ在ラサルヘカラス」ト既ニシテ暗號ハ一般ニ交附セラレタリ
下士哨ハ斯ノ如キ情態ニテ警戒ヲ續行シツ、在リシニ夜一時頃俄然一發ノ銃聲響キ此ト同時ニ步哨ハ「佛蘭西人」敵襲ト呼ヒ其後亦何等ノ叫聲無ク亦警報射撃無ク亦口頭報告モ無カリシ大ニ警戒シ在リシ下士哨長ハ步哨ノ叫聲ニ由リ直チニ部下ヲ率ヒ驅足ヲ以テ最初歩哨カ叫ヒタリシ方向ニ向テ前進セリ
下士哨長ハ暗黒中微カニ或ル一人カ我方向ニ向テ走り來ルヲ見タリ

依テ彼ハ「止レ」誰カ「暗號ニ進メ」ト呼ヒシニ近接者ハ一ノ答モ爲サ
 サリシ仍テ下士哨長ハ直ニ之ヲ射殺セリ後ニ至リ檢スルニ此近接者
 ハ佛軍ノ一將校ナリキ其後直チニ佛軍ノ後續部隊突進シ來リ下士哨
 ハ全力ヲ揮テ之ヲ射擊シ以テ其銳鋒ヲ挫折センコトヲ努メタリ此戰
 聲ヲ聞クヤ適時ニ大尉某ハ其部下ヲ率ヒテ應援シ來リ暫時戰鬪ノ後
 遂ニ佛軍ヲ擊退セリ

最初敵襲ト叫ヒシ步哨ハ其際敵ノ爲メニ射殺セラレシヲ以テ爾後何
 等ノ報告モ無カリシコトハ其後ニ至リテ始メテ之ヲ知レリ抑モ此步
 哨カ敵ノ爲メニ射殺セラレントスルニ際シ初メテ敵ヲ發見セシカ如
 キハ步哨ノ任務ヲ全フシタルモノト曰フヲ得ス然レトモ此步哨ニ對
 シ何人モ亦一片ノ同情ヲ寄スルヲ惜マス何トナレハ彼レハ最初己レ
 カ任務ノ遂行敏活ナラサルカ爲メ早時ニ敵ヲ發見スルコト能ハサリ
 シモ此等閑ヲ回復シ最モ少クモ我僚友ニ危險ノ切迫ヲ告知シ而シテ
 其全滅ヲ免レシメント欲シ彼レハ身既ニ重傷ヲ負ヒ死ニ瀕スルニモ

拘ハラズ「佛蘭人」敵襲ノ一語ヲ叫ヒテ遂ニ瞑目スルニ至リシハ亦以
 テ其心事ヲ諒トスルニ足ル

七、銃前哨

獨立下士哨前哨中隊前哨本隊ノ密集部隊ハ必ス其哨所ノ銃前ニ步哨ヲ
 配置スルモノトス而シテ其哨所ノ位置敵開ナルカ或ハ複雑ナルカ或ハ
 露營シ在ルカ或ハ掩蔽下ニ在ルカニ從テ單哨若クハ複哨ヲ設置スルモ
 ノトス小哨若クハ獨立下士哨前ニ在ル銃前哨ハ可成步哨線ニ在ル復哨
 ヲ展望シ得ルヲ要ス是レ步哨線ヲ斷ニス監視シ而シテ此線中ニ於テ生
 セシ事件ヲ細大ト無ク直チニ小哨長若クハ獨立下士長ニ報告センカ爲
 メナリ且ツ此銃前哨ハ不意ノ敵襲ニ際シ直接ニ小哨若クハ獨立下士哨
 ヲ掩護スルノ任務ヲ有スルモノトス其他ノ銃前哨ニ在テモ其任務ハ概
 ネ小哨若クハ獨立下士哨ノ銃前哨ト大同小異ナリト雖前哨中隊等ノ如
 ク直接ニ步哨線ノ後方ニ在ラサル銃前哨ノ任務ハ若干右ニ掲ケン銃前
 哨ノ任務ト異ナル所アリ然レトモ要スルニ銃前哨ハ其監視區域内ニ於

ヲ發生スル事件ハ細大ト無ク適時ニ當該指揮官ニ報告スルヲ以テ任務ト爲テ、ルヘカラス假令ハ該哨所ニ向テ上官ノ近接スルトキハ適時ニ之ヲ當該指揮官ニ報告スルカ如キ之レナリ困難ナル地形即チ森林等ニ在テハ夜間小哨若クハ前哨中隊ハ多クノ單哨ヲ以テ其周圍ヲ圍繞セシメ以テ不時ノ敵襲ニ對シ警戒ヲ嚴ニスルコトアリ

八、要塞戰ニ於ケル前哨

前既ニ説述セシカ如ク野戰ニ於ケル前哨ハ概テ各道路及緊要ナル地點ヲ占領スレハ足リ一連ニ聯繫シタル步哨線ヲ形成スル如キハ寧ロ其必要ヲ感セサル場合多シ然ルニ攻圍線ヲ形成セシ要塞戰ノ前哨ハ野戰ノ前哨ニ比スレハ自ラ其疎密ノ度ヲ異ニスルモノトス即チ各步哨ハ小間隔ヲ以テ配置セラル、カ故ニ自然ニ一連ノ步哨連鎖ヲ形成スルモノトス從テ其後方部隊(小哨前哨中隊及前哨本隊)ハ近ク前方ニ開進シ敵ノ出撃ニ對シ直チニ之ニ應シ得ラル、如ク準備シ在ラサルヘカラス其他要塞戰ニ於ケル前哨ハ地形ヲ爲シ得ル限リ防禦工事スルコト緊要ナリ要

我國改定野外要務令
左ノ如ク觀
終リニ進抄シ
明シニ進抄シ
攻圍作業ヲ施ス
ニテハ通常ノ哨
ヲ備ヘス哨隊ノ要
領ニ從ヒテトス

スルニ攻圍線ヲ形成セシ要塞ノ周圍ハ恰モ一連ノ鐵鎖ヲ以テ纏繞セシ一大環形ニ等シキモノナリ

要塞戰ノ前哨勤務久キニ亘ルトキハ軍隊ハ特ニ疲勞ヲ感スルモノナリ故ニ各部隊ハ可成掩蔽下ニ屯在スルヲ可トス然レトモ此等ノ部隊ハ其必要ニ際スレハ速カニ該掩蔽下ヨリ進出シ得ル如ク設備セラレサルヘカラス亦莊邸公園等ニ於テハ交通路ヲ設備スルコト最モ緊要ナリ

要塞戰ニ於ケル主要ナル勤務ハ步兵之ヲ擔任スルモノトス而シテ全體ノ攻圍線ハ若干ノ地區ニ區分セラレ各地區ハ可成同一部隊ヲ以テ之ヲ擔任セシムルヲ要ス是レ前哨ノ各人ヲシテ精細ニ其地區ノ情況ヲ會得セシメ又敵ノ出撃ニ際シ一定ノ地區ヲ迅速確實ニ占領スルハ成功ニ向テ最モ缺クヘカラサル一大要件ナレハナリ

一般ノ勤務ニ關シテハ野戰ノ前哨ト異ナル所ナシ而シテ勤務時間ノ長短及各部隊ノ交代ノ如キハ悉ク其時ノ情況ニ由テ決定セララル、モノトス

第三章 斥候勤務

一、一般ニ於ケル斥候ノ目的及責務

敵情及地形等ヲ潛カニ偵察シ又ハ斥候ヲ派遣シテ自ラ警戒セント欲スルトキハ斥候ヲ使用スルモノトス其兵力ハ通常二人若クハ三人トス是レ容易ニ敵ノ爲メニ發見セラレサルカ爲メナリ

斥候ノ任務ハ單簡ナリ今茲ニ小哨ヨリ派遣スヘキ斥候ニ就テ二三ノ例ヲ擧クレハ其出發ニ際シ小哨長ハ恐ラク次ノ如キ任務ヲ命スルナラン

曰ク汝ハ彼處ヨリ彼處迄前進シ而シテ敵カ攻撃ノ爲メ前進シ來ルヤ否ヲ觀察シ來ルヘシ曰ク予ハ彼ノ地點ニ敵カ到着セシコトヲ聞ケリ汝往キテ果シテ其然ルヤ否ヤヲ偵察シ來ルヘシ曰ク林縁ノ彼處ニ於テ予ハ武器ノ如キモノ、閃耀セルヲ目撃セリ汝往キテ敵兵ナルヤ否ヤヲ確認シ來ルヘシ曰ク敵歩哨線ノ前方彼處ニ一ノ橋梁アリ該橋梁カ敵ノ爲メニ破壊セラレサルヤ否ヤヲ汝往キテ實檢シ來ルヘシト

駐止斥候及潜伏斥候ニ對シ我國改定野戰要務令ハ左ノ如ク說明セリ

步兵線ノ前方ニ在ル土地ヲ監視スル爲メ某地點ニ斥候ヲ駐止セシメ又敵兵ヲ捕獲スル爲メ之ヲ潜伏スルコトヲ有利トスルコトアリ

斥候ノ任務ハ單簡ナレトモ其責務ハ實ニ重大ナリ故ニ斥候ハ其任務ニ當ルヤ萬難ヲ排シ困苦ヲ忍ビ以テ要求セラレタル情報ヲ完全ニ復命セサルヘカラス之レ斥候ノ心肝ニ銘シテ終始忘ルヘカラス一大責務ナリ而シテ之ヲ達成スルニハ如何ニシテ可ナルヤ即チ能ク洞見シ能ク商量シ能ク敏活ニ之ヲ實行スルニ在リ

歩兵斥候ハ概シテ歩哨線ノ外方ニ吉羅米突以外ニ進出セサルモノトス若シ歩兵斥候ヲ尙此距離以外ニ派遣スルノ必要アルトキハ其人員ヲ増加シ將校若クハ有爲ナル下士ヲ以テ其長ト爲スモノトス

小哨ノ警戒ノ爲メニ派遣スヘキ斥候ハ其大小ニ拘ハラズ時及場所ノ情況ニ應シテ其派遣法ヲ規定スルモノトス

斥候ハ出發ニ際シ小哨長若クハ其他ノ上官ヨリ復命ニ關シ必要ノ訓示ヲ受クヘキモノトス又斥候ノ各員ハ其任務即チ斥候ノ目的及目標ヲ精確ニ知得シ在ラサルヘカラス

斥候長ハ出發前各人ノ服裝ヲ檢查シ且ツ彼等ニ充分ナル彈藥ヲ攜帶セ

シメ出發スルヤ各人ニ分散セシ際ニ於ケル集合點ヲ指示シ且ツ分離セシ際ヲ顧慮シ各人ニ特別ナル任務ヲ命シ置クコトアリ

斥候ハ小哨長又ハ其他ノ上官ヨリ其復命ニ關シ一定ノ時刻ヲ指定セラレタルトキハ其時刻迄ニ歸還復命セサルヘカラス然レトモ其時ノ情況ニ由リ一地ニ稍々長ク滯留シテ敵ヲ監視スヘキ必要アルトキハ斥候ハ其中ノ一人ヲ受命ノ指揮官ノ下ニ報告ノ爲メ送還スルヲ要ス是レ小哨長若クハ其他ノ上官ハ指定ノ地點ニ於テ我斥候ヲ其勤務ニ從事シ在ルコトヲ知ルト其報告ニ由テ速ニ我要求セシ一部ヲ知了スルコトヲ得ルヲ以テナリ

情況之ヲ許ストキハ斥候ハ略帽ヲ被リ武裝ハ可成之ヲ輕減スルヲ可トス

斥候出發ニ際シ歩哨ニ告知スル件ニ要務令ハ從來ノ規

一、如何ニシテ斥候ハ敵方ニ前進スヘキカ
斥候ハ常ニ歩哨ノ位置ニ於テ前哨線ヲ通過シ而シテ其際歩哨ニ斥候ノ前進方向ヲ告知シ置クヲ要ス

定ノ外ニ左ノ注意ヲ加セリ
斥候ノ往路ト異ナルトキハ其路ヲ監視スル歩哨ニ要スル概略ノ時刻ヲ豫メ告知シテハ殊ニ然リ

二人或ハ三人ヨリ成ル斥候ハ如何ニシテ行進スヘキカハ専ラ地形及地物ノ狀況ニ由リテ決定スルモノニシテ固ヨリ一定ノ形式アルモノニアラス又斥候長ノ位置ニ就テモ固ヨリ一定シ在ルモノニアラス要スルニ其部下ヲ通視シ得且ツ能ク指揮スルニ便利ニシテ亦我ヨリ敵方向ヲ能ク展望シ得ル位置ナレハ可ナリトス斥候ハ屢々集合シテ必要ノ件ニ付キ互ニ商量セサルヘカラス又屢々分離シテ敵情ヲ搜索セサルヘカラス然レトモ其分離スルヤ互ニ目撃シ或ハ互ニ聽取シ得ルヲ度トシ其以上ニ分離スルハ不可ナリ是レ敵ヨリ各別ニ奇襲セラレ又相互ノ連絡ヲ切斷セラル、ノ虞アルヲ以テナリ

斥候出發後第一着ニ注意スヘキハ任務ノ爲メニ赴カントスル地點ハ何處ナルヤ又其任務ヲ達成スルニハ如何ニセハ可ナルヤトノ疑問是レナリ此疑問ハ地形斥候ニ有利ナルトキハ之ヲ解決スルコト容易ナリ然レトモ地形ハ必スシモ毎時斥候ノ爲ニ便利ヲ與ヘスシテ其任務ヲ達成スヘキ爲メニ搜索スヘキ地點ハ往々森林又ハ山丘ノ後方等ニ在リテ多ク

ハ其情況不明ナルモノナリ故ニ此等ノ地形ヲ搜索スヘキ任務ヲ以テ前進スル斥候長ハ通視シ得ヘキ地點ヲ先ツ遠方ヨリ撰定シ其方向ニ斥候ヲ進メ更ニ此處ヨリ通視シ得ヘキ地點ニ進ミ漸次斯ノ如クシテ遂ニ所命ノ地點ニ達シ目的ヲ貫徹スルモノトス之ヲ躍進的搜索法ト稱ス

斥候ハ大ナル迂路ヲ取り又大ナル努力ヲ要スルノ必要ヲ見ルコト屢々アリ如何トナレハ斥候ハ時々隱匿シテ停止シ之レカ爲メニ經過セシ時間ハ動作ノ敏活ヲ以テ之ヲ偵ハサルヘカラサルコト往々是レアレハナリ

森林壕渠高ク繁茂セル穀物圃斷絶地及深谷ハ斥候ノ通過ノ爲メニハ敵ニ對シ概テ身體ノ全部ヲ掩蔽シ得ルモノトス故ニ晝間敵方向ニ向テ潛行セント欲セハ此等ノ地物ヲ應用スルヲ可ナリトス然レトモ展望自在ナラサルカ爲メ附近ノ搜索ヲ極メテ綿密ニシ潛カニ前進スルコト緊要ナリ而シテ行進途上又ハ其近傍ニ展望ヲ許スヘキ地點在ルトキハ之ヲ利用シテ敵方ヲ展望シ而シテ敵ニ就テ必要ナル事件ヲ發見シ之ヲ報告ス

下士一兵卒ニ
或ル斥候カ困難
ナル戰況ニ於テ大
勝ニ且ツ適當ナル
處置ヲ爲シ自隊ノ
戰陣ニ大ナル便利
ヲ與ヘタル戰列

スルコト肝要ナリ若シ前進方向ノ地形一モ斥候ノ身體ヲ掩護スルニ足ラサルトキハ斥候ハ樹木又ハ其他ノ物體ノ陰影ヲ利用スルコトヲ忘ルヘカラス又斥候ハ銃ヲ擔フヘカラス是レ太陽ノ光線ノ爲メニ遠方ニ反射スレハナリ且ツ軍帽ハ必要ニ際スレハ之ヲ脱シテ手ニ携フルカ或ハ之ヲ反對ニ被リ以テ爲シ得ル限り閃耀ヲ少クシ早時ニ敵ニ發見セラルカ如キコト無キヲ要ス

第一例 千八百七十年八月十八日グラブロットノ會戰ノ際獵兵第九大隊ノ伍長(グルウト)ハ困難ナル情況ニ於テ大膽ニシテ且ツ成功的ナル動作ヲ爲セリ

此日普魯士軍ハチエントレンヌノ莊邸ニ於テ著シク優勢ナル佛蘭西軍ト對戰セリ

佛蘭西軍ハ莊邸ノ前方ニ在ル高地及森林ヲ占領シ此處ヨリ普魯士軍ニ向テ墜落的射撃ヲ開始セリ普魯士軍ハ此時高地ノ基脚ニ伏臥シ而シテ平坦開潤ナル地上ニ在ル堆土ニ據テ敵ノ彈丸ニ對シ僅カニ掩蔽

シツ、在リシニ其右側ニ於テ突然森林ノ一部カ或ル部隊ヨリ占領セラル、ヲ目撃セシモ其部隊ハ果シテ普魯士軍ナルカ或ハ佛蘭西軍ナルカヲ識別スルコト能ハサリキ我部隊ハ彼ノ森林ノ方向ニ射撃ヲ爲スノ必要アルモ彼ノ森林ヲ占領セシ部隊カ果シテ我軍ニアラサルコトヲ確認セシ後ニアラサレバ能ハス依テ之ヲ偵察スヘキ爲メニ志願者ヨリ成レル一ノ斥候ヲ派遣スルコトナレリ此問題ヲ解決スル爲メニハ平坦開濶ナル戰場ヲ然モ激烈ナル敵ノ射撃ヲ冒シテ前進セサルヘカヲサルカ故ニ頗ル困難ナル任務ナルコトハ何人モ之ヲ疑ハサリキ然ルニ獵兵伍長及其他數多ノ獵兵ハ聲ニ應シテ直チニ其志願者ナルコトヲ言明セリ

獵兵伍長ハ其中ノ二人ト共ニ恰モ猫兒ノ如ク躍進シ約二十步前方ニ在ル一ノ小堆石ノ後方ニ伏臥シ而シテ爾後如何シテ前進スヘキヤヲ熟考セリ今前進スヘキ方向ヲ通視スルニ一ノ空壕カ略々該森林ノ方向ニ畑地ヲ切斷シテ走り然ル後一ノ小ナル凹地カ該森林ノ方向ニ向

テ延長シ其端末ニ一ノ覆盆子草在ルヲ目撃セリ此草叢ヨリ該森林ハ容易ニ目撃シ得ルヲ以テ斥候ハ先ツ此草叢ヲ以テ行進目標ト爲セリ斥候ハ此目標ニ向テ前後ニ適當ノ距離ヲ取り或ハ匍匐シ或ハ此處ニ暫時伏臥シテ止マリ或ハ彼處ニ必要ナル躍進ヲ行ヒ有ユル手段ヲ盡シテ遂ニ目標タル草叢ニ達スルヲ得タリ此地點ヨリ該森林ヲ偵察セシニ該森林ハ敵ノ強大ナル部隊ヨリ占領セラレタルコトヲ確認セリ而シテ此敵ヲ命中確實ナル射撃ヲ以テ再ヒ此位置ヨリ驅逐スルハ爾後ノ作戰上必要ニシテ且ツ最モ火急ヲ要スルモノト判斷セリ然ルニ亦再ヒ困難ナル戰場ヲ通過シ目撃セシ此情況ヲ復命スルトキハ徒ラニ時間ヲ經過シ且ツ時期ヲ喪失スルノ恐アリ依テ斥候ハ已レノ位置ヨリ考フレハ甚タ危険ナル情況ニモ拘ハラヌ斷然決心シテ急射撃ヲ該森林ニ集注セリ是レ一方ニハ此急射撃ニ由リ必要ナル目標ヲ我友軍ニ附與スルヲ得ヘク又一方ニハ不意ノ射撃ニ由テ敵ヲ驚駭セシメシカ爲メナリ

獵兵大隊長ハ斥候ノ機敏ナル處置ニ由テ確カニ該森林カ敵ヨリ占領
 セラレ在ルコトヲ識リ直チニ適當ノ處置ヲ施シ以テ佛蘭西軍ヲ該森
 林ヨリ再ヒ驅逐スルコトヲ得タリ獵兵伍長及二人ノ獵兵ハ模範的動
 作ノ表彰トシテ鐵十字勳章ヲ受領セリ
 今、各、國、競、フ、テ、精、巧、ナ、ル、火、器、及、無、煙、火、藥、ヲ、使、用、ス、ル、カ、故、ニ、將、來、ニ、於、テ、
 斯、ノ、如、キ、斥、候、ノ、派、遣、ハ、益、々、其、必、要、ヲ、感、ス、ル、ナ、ラ、ン、即、チ、將、來、ニ、於、テ、ハ、斥
 候、又、ハ、其、他、ノ、部、隊、カ、俄、然、敵、ヨ、リ、射、擊、ヲ、受、ケ、其、彈、丸、カ、果、シ、テ、何、レ、ノ、方、向
 ヨ、リ、來、ル、カ、ヲ、知、ル、能、ハ、サ、ル、コ、ト、屢、々、是、レ、ア、ラ、ン、而、シ、テ、此、射、擊、ハ、敵、ノ、步
 兵、ヨ、リ、受、ク、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、敵、ノ、砲、兵、ヨ、リ、受、ク、ル、コ、ト、モ、屢、々、是、レ、ア、ラ、ン、情
 況、斯、ノ、如、キ、ニ、モ、拘、ハ、ラ、ス、益、々、前、進、ヲ、續、行、セ、ン、カ、敵、ニ、就、テ、何、等、モ、發、見、ス
 ル、コ、ト、能、ハ、ス、シ、テ、前、進、者、ハ、既、ニ、多、大、ナル、損、害、ヲ、受、ク、ル、ニ、至、ラ、ン、能、ク、掩
 蔽、シ、テ、射、擊、ス、ル、敵、ニ、對、シ、テ、ハ、雙、眼、鏡、モ、亦、其、真、相、ヲ、發、見、ス、ル、コ、ト、能、ハ、ス
 是、ニ、於、テ、前、進、者、ハ、其、前、進、ヲ、停、止、ス、ル、ノ、止、ム、ヲ、得、サ、ル、ニ、至、ル、斯、ノ、如、ク、前
 進、者、ハ、種、々、ノ、困、難、ト、多、大、ノ、損、害、ト、ヲ、受、ル、ニ、モ、拘、ハ、ラ、ス、敵、情、ニ、就、テ、ハ、何

モ得ル處ナシ之ニ反シ隱匿シ在ル敵ハ益々有利ノ情況ニ至ルモノナリ
 故ニ斯ノ如キ敵ニ對シテ其真相ヲ知得セント欲セハ之ニ對シテ特別ノ
 處置ヲ施サ、ルヘカラス而シテ此特別ノ處置ハ斥候ヲ措テ亦他ニ方法
 ナシ前陳ノ理由ナルヲ以テ將來斥候ノ動作ハ愈々困難ト爲リ其危險モ
 亦益々増加スルヤ必セリ然レトモ其任務ハ愈々重大トナリ其名譽ハ益
 々顯著トナルコト亦疑ヲ容レサル所ナリ要スルニ斥候ハ巧ミニ敵眼ヲ
 避ケテ目的點ニ向テ潛行シ以テ充分ノ視察ヲ遂クヘシトノ原則ハ何レ
 ノ場合何レノ地形ニ於テモ適用セラル、モノトス即チ斥候ハ其任務ヲ
 達成スル爲ニハ百難ヲ排シテ或ル地點迄潛行シ此地點ヨリ雙眼鏡ヲ以
 テ豫期シタル敵情ヲ視察セサルヘカラス若シ此斥候一ノ雙眼鏡ヲモ有
 セサルトキハ尙近ク敵方ニ潛行シ以テ其目的ヲ貫徹セサルヘカラス
 前記ノ理由ナルヲ以テ將來ノ戰鬪ニ於テ敵ノ陣地等ヲ偵察スル爲メニ
 斥候ノ派遣ハ從前ニ比シ一層頻繁トナル、今ヨリ之ヲ推定スルモ敢テ
 空想ニアラサルヘシト信ス

兵卒三人ヨリ成ル
斥候カ危敷チ冒シ
テ某堡壘カ敵ヨリ
占領セラルシヤ否
ヤテ偵察シ二人ハ
戰死シ一人ノ兵卒
ニ由テ偵察ノ目的
ヲ達シタル戰例

自衛ノ爲メ止ムヲ得サル時ノ外尙其効其害ヲ償フコトヲ確認シタル時
之ヲ許スモノニシテ其他ニ於テハ概テ之ヲ禁スルヲ通常トス

第二例 千八百零七年コルベルクニ於テ兵卒「ロートシヤルク」ハ甚タ困
難ナル一ノ任務ヲ受領セリ

五月十八日ノ夜ニ於テウオルフスベルク堡壘(現在ノグナイゼナウ堡
壘)ノ射撃カ俄カニ止ミシハ或ハ同堡壘カ敵ヨリ占領セラレタルニハ
アラサルカトノ疑問ヲ解決スルノ必要ニ迫レリ

「ロートシヤルク」ハ二人ノ兵卒ト共ニ此堡壘ニ向テ潜行ヲ始メタリ
此夜ハ極メテ暗黒ナリシカハ斥候ハ暗黒ニ於テモ尙微カニ相見得ル
如ク近ク左右ニ列ナリテ前進セリ

時ニ前方ニ於テ人語ヲ聞キ亦直チニ蹙音ヲ聞ケリ此ニ於テ「ロートシ
ヤルク」ハ記號ヲ以テ同僚ヲ更ニ己レノ近邊ニ招致シ低聲ヲ以テ之ニ
告ケテ曰ク「予ハ彼等カ他國語ニテ談話スルヲ聞ケリ是レ佛蘭西兵ニ
アラサレハ以太利兵ナラン汝等ハ伏臥シ彼等ヲシテ通過セシムヘシ」

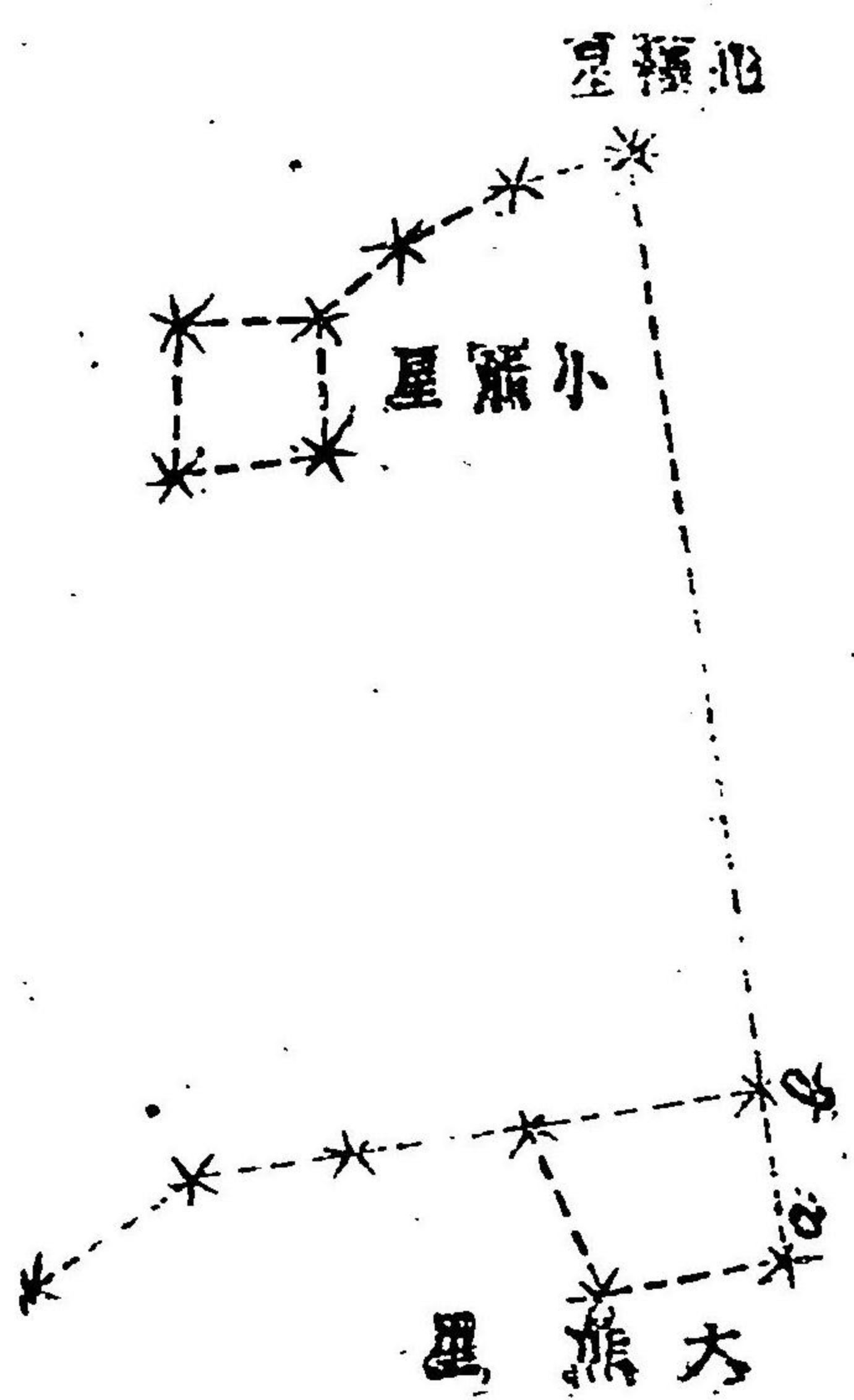
五人ヨリ成ル敵ノ斥候ハ普魯士斥候カ潜伏シ在リシ傍ヲ通過シ約五
十歩前進シタルトキ普魯士斥候ハ行進方向ヲ要塞ノ方向ニ取レリ
勇敢ナル普魯士斥候ハ更ニ前進シ堡壘ノ入口附近ニ到リ音聲ヲ聞ク
ヘキ爲メニ茲ニ伏臥セリ此時内部ニ於テ敵兵カ談話スルヲ聞ケリ斯
ノ如キ情況ニ在テ普ノ潜行斥候ハ如何ソ長ク敵ニ發見セラレスシテ
停止スルヲ得ンヤ是ニ於テ「ロートシヤルク」ハ大膽ニモ堡壘ノ入口ニ
向テ前進シ同僚モ亦彼ニ跟随セリ
彼等カ將サニ堡壘ノ入口ニ透セントスルトキ敵兵二人電光ノ如ク躍
出シテ「ロートシヤルク」ニ向ヒ同僚二人ハ他ノ敵兵ヨリ射殺セラレタ
リ
「ロートシヤルク」ハ今ヤ單獨トナリシモ爲メニ以前ノ勇氣ヲ失ハス最
初ノ敵ニ向テ格闘シ該敵ヲ銃床ヲ以テ打ち倒シ飛鳥ノ如ク再ヒ堡壘
外ニ脱出セリ

斯ノ如クニシテ彼レハ幸ニモウオルフスベルクヲ去リ歸路ハ少シモ迂路ヲ取ラスシテ一直線ニ中尉某ノ許ニ歸還シ該堡壘カ全ク敵ヨリ占領セラレ在ルコトヲ確實ニ報告セリ

夜間ニ於ケル斥候ノ動作ハ晝間ニ比シテ稍々容易ナルモノトステニ斥候カ行動スヘキ範圍内ノ地形ヲ暗識シ在ルトキニ於テ然リ敵國ニ於テ斥候ハ行進方向ニ在ル村落又ハ街道ヲ通過セサルヘカテサルトキハ村落ノ邊緣若クハ街道ニ近ク其側方ヲ通過スルヲ要ス是レ一方ニハ行進方向ヲ迷ハサル爲メト一方ニハ此等ノ地區ヲ斷ニス監視センカ爲メナリ但シ夜間ニ在テ部隊ノ運動ハ概テ道路ニ由ルモノナレハナリ又夜間ニ於テ斥候ノ最モ利用スヘキ道標ハ敵ノ篝火ナリトステ天晴レ星明カナル夜ニ於テ各人ハ北極星ニ由リ容易ニ其方位ヲ識別シ得ルモノトス又將校ハ概テ參謀本部出版ノ地圖ヲ携帯シ在ルヲ以テ之ニ由ルトキハ斥候ノ行進方向及其範圍内ニ於ケル地形地物ヲ識ルヲ得ルモノナレハ斥候長ハ出發前之ヲ研究シ置クコト最モ緊要ナリ

北極星ニ由ル方位ノ識別法ハ最モ單簡ナリ即チ此ニ向テ直線ニ前進スルトキハ北方ニ到ルモノナリ之ヲ左方ニ見テ行進スルトキハ東方ニ到ルモノナリ又之ヲ背後ニシテ反對ニ行進スルトキハ南方ニ到ルモノナリ又之ヲ右方ニ見テ行進スルトキハ西方ニ到ルモノナリ

幾百萬ノ星象中ニ於テ北極星ヲ觀別スルハ敢テ困難ナラス即チ之ヲ識ラント欲セハ先ツ容易ニ目撃シ得ヘキ大熊星ヲ發見スルヲ要ス此星ハ一ノ大ナル四邊形ヲ形成シ其四邊形ノ一邊ニ列リ尙三個ノ星アリテ之ヲ連接スレハ恰モ堡壘ノ如キ形狀ヲ爲ス此七星ノ集團ヲ大熊星ト稱ス而シテ此大熊星ノ他ノ一邊ニ延長シタルノ距離ノ五倍ノ所ニ光耀セル一星ヲ視ル此レ即チ北極星ナリ此北極星ト其他ノ六星トヲ以テ大熊星ト略同形ナル星象ヲ形成ス之ヲ小熊星ト稱ス故ニ北極星ハ小熊星中ノ最端末ノ一星ナリ而シテ大熊星ト小熊星トハ略同形ナルモ其方向ハ彼此相異ナルコト左圖ノ如シ



晝間ニ於テ方位ヲ識別スルハ比較的容易ナルモノトス(即チ未知ノ地方ニ於テ方位ヲ確實ニ判斷スルコト)特ニ大陽ヲ目撃シ得ル間ニ於テ各自ヲ携帯スル所ノ時計ト之ヲ對照スルトキハ方位ヲ決定スルニ於テ大ニ便利ナリトス即チ未知ノ地方ニ於テ方位ヲ識ラント欲セハ先ツ大陽ノ位置ヲ見次テ時計ノ幾時ナルヤヲ見ルヲ要ス假令ハ時計午後二時ヲ指ストキハ大陽ハ南ヨリ少シク西ノ方ニ傾キ居ルモノナリ又午前六時ニハ大陽ハ東ニ在ルモノニシテ午前九時ニハ東南ニ在ルモノトス又正午

ニハ南方ニ午後三時ニハ西南ニ午後六時ニハ西方ニ在ルモノトス突起シタル物體假令ハ風車獨立樹寺塔通常寺院ノ西端ニ在リ)等ハ自然ニ方位ヲ決定セシムルモノトス斯ノ如ク著シク人目ヲ惹キ易キ地物ハ集合點トシテ屢々採用セラル、モノナリ假令ハ斥候等カ不意ニ敵ニ出會シ四分五裂トナリタル場合ヲ豫測シ後方ニ集合點ヲ撰定シ置ク時ノ如キ即チ是レナリ而シテ此集合點ハ友軍前哨線ノ附近ニシテ之ヨリ適當ニ支援セラレ得ル地點ナルヲ要ス是レ分離者ヲシテ敵ノ捕獲ヲ免カレシメ以テ再ヒ原隊ニ復歸スルコトヲ得セシメンカ爲メナリ

三、敵ノ近傍ニ於テ斥候ハ如何ニシテ

必要ナルコトヲ視察スヘキカ

完全ナル斥候ハ必要ナル性能トシテ頓智剛氣狡猾體力忍耐敏捷カ缺クヘカラサルモノナリ如何トナレハ斥候ハ其任務ノ遂行ニ當リ諸種ノ困難及危險ナル情況等ニ遭遇スルコト屢々ナルヲ以テ迅速ニ之ヲ判斷シ且ツ適當ニ之ヲ處置セサルヘカラサルカ故ナリ故ニ其性質敏捷ヲ缺キ

體方亦非常ノ勞働ニ堪エ難ク且ツ勇氣ニ乏シキモノハ之ヲ善良ナル斥候ト稱スルヲ得ヌ要スルニ斥候ハ前ニ掲ケシ諸性能ヲ具備シ常ニ活眼ヲ以テ任務ノ達成ヲ謀リ且ツ自ラ守護セサルヘカラス
 斥候敵ニ近クニ從ヒ急々警戒ヲ加ヘ益々熟慮シテ總テノ處置ヲ爲サルヘカラス是レ一方ニハ其一行ヲ自ラ保護シ一方ニハ己レノ任務ヲ達成センカ爲メナリ

斥候ハ常ニ共同一致シテ其事ニ從事セサルヘカラス故ニ必要ニ際スレハ互ニ相集合シテ商議シ且ツ自他ノ認識セシ事項ヲ相通報シ且ツ其一人危難ニ陥ルトキハ爲シ得ル限り之ヲ救助セサルヘカラス然レトモ斥候ノ一人或ハ二人カ不意ニ敵ノ爲メニ捕獲セラレ其殘員ハ此敵ニ向テ如何トモスル能ハサルトキ或ハ新タナル敵兵現出セシトキ或ハ我陣地ノ近傍ニ敵兵現出セシトキノ如キハ捕獲セラレシ同僚ハ之ヲ天運ニ委テ斥候ノ殘員ハ直チニ歸還シ其情況ヲ報告スルヲ要ス
 斥候俄カニ敵ニ出會スルカ或ハ敵ノ歩哨線ニ近接シ而シテ歩哨ノ呼聲

或ハ衛兵ノ談話ヲ聞キ得ル距離ニ達セハ殊ニ警戒ヲ加ヘサルヘカラス蓋シ此際ニ在テハ注意ヲ倍從シ務メテ沈黙ヲ守リ爲シ得レハ斥候ハ一所ニ集合シ我任務ノ遂行ニ關シ尙如何ナルコトヲ偵察スヘキカ且ツ之ヲ達成スルニハ如何ナル手段ヲ取ルヘキカニ付キ敵ニ聞カレサル如ク商議スルヲ要ヌ要スルニ其處置ハ任務ニ由テ自ラ決定セラル、モノナリ

斥候カ一地在ル敵情ヲ知ラント欲スルトキハ之ヲ展望シ得ヘキ地點ニ終始停止シテ視察ヲ遂クルカ或ハ一ノ潜伏所ヲ設ケ其潜伏所ヨリ必要ニ應シテ脱出シ敵情ヲ偵察スル等ハ專ラ其時ノ情況ニ應シテ決定スルモノトス
 之ニ反シ斥候カ前進シ來ル敵ヲ偵察セントスルトキハ森林ノ邊緣或ハ穀物圃ニ通スル間道ヲ取リ此方面ヨリ近接シ來ル所ノ敵情ヲ視察スルヲ要ス夜間ニ於テハ斥候ハ大街道或ハ其他ノ道路ノ近傍又ハ該道路上ニ停止シ近接シ來ルモノ、音響ヲ聞クトキハ必要ナル方向ニ迄前進シ

之ヲ確認スルモノトス

若シ斥候敵兵カ我友軍ニ向テ攻撃又ハ奇襲ノ爲メ前進シ來ルコトヲ確認スルトキハ假令他ニ任務アルモ其任務ニ顧慮スルコト無ク其中ノ一人ハ我友軍中最近部隊ニ一直線ニ急行シ以テ危險ノ切迫シツ、在ルコトヲ報告セサルヘカラス敵兵既ニ近ク口頭報告ニテハ時機ヲ失スルノ顧慮アルトキハ急射撃ヲ以テ敵兵ノ近接ヲ友軍部隊ニ報告セサルヘカラス且ツ必要ト認ムレハ大聲ヲ以テ敵襲ト連呼シ斥候ノ其他ノ人員ハ敵ヲ斷エス監視シ在ルヲ要ス

斥候カ一定ノ地區假令ハ村落、莊邸、橋梁、堡壘等カ敵ヨリ占領セラレ在ルヤ否ヤヲ偵察セント欲セハ躊躇スルコト無ク敵ノ近傍迄前進シ彼所ニ於テ適當ナル潜伏所ヲ撰定シ之ヲ占領シ而シテ此ヨリ我任務ノ視察ヲ遂クルヲ要ス而シテ其潜伏所ハ往々敵ノ背後又ハ側方ニ撰定スルヲ利トスルコトアリ敵ノ兵力并ニ防禦配備等ヲ偵察スヘキ爲メニ斥候長ノミ單獨ニテ尙必要ナル距離迄潜行スルコトアリ斥候若シ該方面ノ敵兵

真好ナル斥候ノ報
告ニ基キ敵軍ノ堡
壘ヲ夜襲シ其目的
ヲ達シタリシ戰例

ヨリ我企謀ヲ察知セラレタルトキハ勉メテ沈黙ヲ守リ潜カニ該方面ヲ去リ他方面ヨリ更ニ觀察ヲ遂クルヲ要ス又斥候長ハ雙眼鏡及時針ヲ携帶スルヲ要ス是レ雙眼鏡ヲ以テ精細ニ視察ヲ遂ケ其報告ヲ發送セントスル時精確ニ時刻ヲ記入センカ爲メナリ

第三例 千八百六十四年南部米國軍ヨリ占領セラレシ巖石多キ高地ヲ北部米國軍ハ再ヒ奪還スヘキ必要ニ迫レリ依テ北軍ハ南軍ヲ距ル約四千歩ノ地點迄近接シ此處ニ在ル一ノ森林ニ潜匿シテ停止シ晝間潜行斥候ヲシテ森林ヲ通過セシメ夜間ニ於テ右ノ高地ニ到ル最良ノ道路并ニ敵ノ堡壘線ヲ偵察セシメタリ此際斥候ハハルレ河ニ沿ヘル巖石地ハ比較的寡弱ニ占領セラレアルコトヲ偵察シ且ツ敵ノ斥候カ最モ屢々往復スヘキ道路ヲモ探知シ置ケリ

北軍ノ將官某ハ彼ノ潜行斥候ノ報告ニ由リ精細ニ敵情ヲ知得シ部下ヲ率ヒテ夜十二時潜伏所ヲ出發シ晝間ニ於テ斥候カ既ニ偵察セシ道路ヲ取リハルレ河ニ沿ヘル巖石地ヲ踰越シ面シテ南軍ノ堡壘ヲ

奇襲シ幸ニ其目的ヲ達成スルコトヲ得タリ抑モ此顯著ナル成功ハ果シテ何ニ起因セシカ是レ何人モ斥候ノ注意周到ナル偵察ニ基キシ結果ト斷言スルヲ憚ラサルヘシ

大體ニシテ且ツ偵
察ニ富ミタル斥候
勤務ノ實例

第四例 千八百七十年メッツ要塞ノ攻圍間獵兵第九大隊ノ上等兵デム
ト及ヒ獵兵二人三人共ニ著者ノ中隊ノ兵卒ナリキハ沈着ニシテ且
ツ頓智ニ富ミタル斥候勤務ヲ爲セリ此大要塞ノ開城若干日前或ル日
午後ニ於テ從來殆ント間斷無カリシ佛軍ノ銃砲聲ハ漸次ニ沈黙ニ歸
セリ而シテ獨軍ニ於テハ其原因何ニ由ルカヲ判斷スルコト能ハサリ
キ依テ同夜其情況ヲ偵察スヘキ爲メニ一ノ稍々大ナル斥候ヲ派遣セ
リ
攻守兩軍ノ前哨障地ハ僅カニ數百步離隔シ在ルノミニシテ或ル地點
ノ如キハ百步以内ニ兩軍ノ步哨相對立シ兩軍共散兵壕及鹿砦ヲ構築
シ步哨ハ其内方或ハ其後方ニ在テ我身ヲ掩護セリ而シテ兩軍前哨障
地間ニ葡萄山及花園ヲ挾メリ

上等兵デムトハ兼テヨリ敵ノ小哨前ニ立テ爾復哨ノ位置ヲ知レリ
依テ彼等カ今尙現在セハ之ヲ捕獲セント欲シ葡萄山ヲ潛行シテ之レ
ニ近接シ將ニ其目的ヲ達成セントセシトキ斥候ノ一人或ル地點ヨリ
墜落シ其音響ニ由テ敵ノ步哨ヲ驚カシ該步哨ハ大聲ヲ以テ之ヲ後方
ニ報告セリ上等兵ハ敵ヨリ發見セラレタルコトヲ知ルヤ斷然決心シ
テ敵ノ兵力ヲ展開セシメント欲シ高聲ヲ以テ『第一小隊前へ前へ』ト號
令シ敵ノ小哨ニ向テ前進セリ蓋シ上等兵ノ意ハ斯ノ如クニシテ敵ノ
兵力ヲ展開セシメ以テ其兵力ト配置トヲ偵察セントセシナリ而シテ
彼レカ其一行ト共ニ約二十步前進セシトキ潛カニ側方ニ隱匿シ在リ
シ敵兵ヨリ俄カニ圍繞セラレタリ此時上等兵ハ思ラク此虎口ヲ脱ス
ルニハ一ノ詭計アルノミト是ニ於テ彼ハ速ニ一計ヲ按出シ直チニ敵
ノ一將校ニ向テ敬禮ヲ行ヒ然後之ニ謂テ曰ク『中尉殿私ハ今一ノ滑
稽ヲ爲セリ私カ茲ニ來リシ目的ハ他ニアラス即チ貴軍ノ飢餓セル步
哨ニ一個ノ麵包及肉片ヲ與ヘント欲スルニ在リ而シテ此食糧ハ實ニ

私カ此目的ノ爲メ特ニ節約シテ殘置シタルモノナリ」ト然ルニ幸ニシテ此將校ハ獨逸語ヲ解スルエルザアース人ナリキ彼レハ温和ナル態度ヲ以テ上等兵ニ近接シ來リ發言シテ曰ク「噫實ニ勇悍ナル兵卒ヨ予ハ斯カル勇卒ヲ捕虜トスルニ忍ヒス」ト遂ニ彼ノ勇悍ニシテ詭智ニ富メル上等兵ヲ放還セリ(譯者曰ク斯ノ如キ場合ニ於テ敵兵ヲ空シク放還スルハ將校ノ職責ヲ全フシタルモノト曰フヲ得ス故ニ將來斯ノ如キ事跡カ再ヒ演出セラルヘントハ思惟シ難シ)

此偶發事件ノ間斥候ノ他ノ二人ハ側方ノ葡萄酒ニ潛匿シ該地點ヨリ注意ヲ倍從シ總テノ情況ヲ觀察シ且ツ任務上知得スヘキ總テノ緊要事項ニ就キ聽取ヲ爲セリ而シテ四面ノ情況再ヒ沈靜ニ復スルヤ彼ノ二人ハ戒心ヲ加ヘツ、已レノ小哨ニ歸還セシトキ斥候長タリシ上等兵ハ既ニ歸還シテ小哨ノ位置ニ在リキ

若シ敵兵警戒ヲ等閑ニ附スルカ或ハ不完全ナル民兵ヨリ成立スルカ或ハ各步哨カ甚タ遠ク分離シ在ル時ハ其時ノ情況ニ由リ斥候ハ甚タ良好

ナル情報ヲ獲得シ得ルモノトス即チ敵ノ前哨線ニ近接シ或ハ此レヲ潛カニ超越シテ適當ノ地點ヨリ敵ノ步哨小哨騎哨及爲シ得レハ前哨本隊ノ位置ヲモ探知シ得ヘキモノトス斯ノ如キ場合ニ於テ斥候ハ敵ノ陣地ヲ能ク展望シ得ヘシト信スル地點ヲ豫メ考定シ遠方ヨリ該地點ヲ目標トシ之ニ向テ前進スルヲ要ス斯ノ如キ地點ハ前哨線ノ前方或ハ側方ニ往々存在スルモノナリ若シ斯ノ如キ地點ヲ發見スルコト能ハサルモ却テ步哨線ノ潛行通過或ハ迂回ヲ實行シ得ヘク信スルトキハ地形ヲ利用シテ步哨線ノ潛行通過ヲ爲シ或ハ之ヲ迂回シ背後ヨリ敵情ヲ觀察スルヲ有利ナリトス森林線葡萄酒高ク繁茂セル穀物圃、凹道及河谷等ニシテ敵ノ步哨線間ヲ此方面ヨリ彼方面ニ貫通スル時ハ晝間ニ於テ前記ノ目的ヲ貫徹スル爲メニ至便ノ機會ヲ呈スルモノナリ

夜間ニ於テ敵ノ步哨線ヲ潛行通過スルハ比較的容易ナルモノトス即チ斥候ハ黃昏前ニ於テ敵ノ步哨線並ニ斥候ノ通路等ヲ觀察シ然ル後暗黒ヲ利用シテ步哨線ヲ通過シ或ハ之ヲ迂回シ再ヒ友軍ニ向テ復歸スルモ

ノトス此際注意シテ敵ノ斥候ト出會スルコトヲ避クルヲ要ス
 敵ノ步哨線ヲ潛行通過セントスル時ハ努メテ警戒ヲ周密ニシ耳目ヲ活
 動シ就中運動シツ、在ル敵兵或ハ停止シ在ル部隊ニ對シテハ特ニ甚大
 ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス若シ斥候敵ニ發見セラル、ノ虞アルトキ
 ハ一地點ニ潛匿シテ敵兵ヲ通過セシメ其危險ノ虞ナキニ及ヒ再ヒ前進
 ヲ續行スルモノトス又斥候カ常ニ潛匿シテ敵ヲ視察スルニ有利ナル地
 點ハ敵ノ斥候カ搜索ニ困難ナル地區即チ繁茂セル草叢新ニ播種セラレ
 且濕潤セル沿岸稠密ナル荆棘叢及險阻ナル斷崖等ヲ撰定スルヲ可トス
 第五例 千八百十三年十月九日ノ夜ニ於テ普魯士軍ノ獵兵下士某ハ兵
 卒二人ト共ニ一ノ森林ニ沿フテ配布セラレシ佛蘭西軍ノ前哨線ニ向
 テ潛行斥候ヲ爲セリ其目的ハ敵ノ步哨ノ後方ニ如何ナル部隊アルヤ
 ヲ確カメ或ハ一ノ捕虜ヲ得此ニ由テ或ル必要ナル事項ヲ探知セント
 スルニ在リ

沈着ニシテ且ツ敏
 捷ナル斥候勤務ノ
 實例

斥候ハ或ル距離ヲ最モ戒心ヲ加ヘ前進シツ、在ルトキ前方一二百步

ノ地點ニ於テ稍々多人數ノ音響ヲ聞キ此レヲ敵ノ小哨ト推定セリ
 斥候ハ尙灌木ヲ以テ繁茂セル空壕ニ沿フテ前進シ屢々停止シ且ツ音
 響ヲ熟聽セリ時ニ斥候ノ一人空壕ノ前方平地ニ於テ聲音ヲ聞キシカ
 故ニ此レヲ確メント欲シ斥候長ハ其中ノ二人ヲシテ草叢ノ中ニ入り
 テ潛匿セシメ自己ハ匍匐シテ聲音ノ方向ニ赴ケリ
 斥候長ハ直チニ暗黒中ニ於テ一人ノ人影ヲ認メタリシカ此人影ハ佛軍
 ノ一步哨ナリキ而シテ此步哨ハ甚タ注意周到ニ其附近ヲ視察シ且ツ
 屢々停止シテ音響ヲ熟聽シ恰モ其胸中ニ何等ノ疑團ヲ掃ムカ如キ舉
 動ヲ爲セリ亦其後方約百五十歩ノ地點ニ於テ敵部隊ノ音聲ヲ聽取セ
 リ
 斥候長ハ斯カル情況ノ下ニ於テ敵ノ步哨線ヲ通過セントスルハ不利
 ナルモノト認メ勉メテ靜肅ニ暫時其位置ニ停止シテ前面ノ步哨カ疑
 團ヲ解キ他ノ方面ニ向テ巡行シ去リシ時期ヲ待チ再ヒ匍匐シテ舊位
 置ニ歸リ二人ノ同僚ト共ニ大迂回ヲ爲シ尙他ノ方面ニ於テ更ニ良好

ノ情報ヲ得ント欲シ解樹ヨリ成レル一ノ小森林ニ向テ再ヒ前進セリ
 既ニシテ斥候ハ該森林ヲ通過セシトキ斥候長ハ或ル一人ノ肝聲ヲ聞
 ケリ依テ警戒ヲ加ヘツ、其方向ニ前進セシニ敵ノ單哨銃ヲ腕ニ托シ
 靜カニ睡リ在ルヲ發見セリ是ニ於テ斥候ハ突然彼レノ頸部ヲ抑ヘ且
 ツ其咽喉ヲ扼シ而シテ若シ一言ニテモ發聲スルコトアラハ直チニ刺
 殺スヘキ旨ヲ告ケ之ヲ威嚇セリ斥候ノ處置ハ總テ遺憾無ク實施セラ
 レ佛軍ノ前哨線ニ於テハ何人モ之ヲ知ラサル間ニ其步哨ハ普軍斥候
 ノ爲メニ捕虜トシテ後方ニ引致セラレタリ

敵計ヲ以テ危險
 ヲ成スルコトヲ得
 メリシ斥候ノ實例

第六例 斥候カ頓智ヲ具有スルコトノ如何ニ必要ナルヤハ次ノ例證ニ
 於テ充分之ヲ證明スルコトヲ得ヘシ

千八百六十四年ケエール附近ノ戰鬪ニ於テ普魯士軍ハ一ノ地隙ノ後
 方ニ在ル草叢ヲ以テ蔽ハレタル一ノ土坡ニ敵兵ノ有無ヲ認ムル爲メ
 一ノ側斥候ヲ該地點ニ派遣セリ然ルニ敵ハ該地點ニ潜伏斥候ヲ置キ
 普軍斥候ノ到ルヲ待チ俄然躍出シテ之ヲ急襲シ其一人ノ頸部ヲ攫ミ

之ヲ捕虜トシテ後方ニ引致セントセリ普軍斥候ハ飽迄之ニ抵抗セン
 ト欲シタリシモ一人ヲ以テ數人ニ敵スルヲ得ス然レモ爲シ得ル限リ
 詭計ヲ以テ此虎口ヲ脱セント欲シ彼レハ大聲ヲ揚ケ叫テ曰ク「下士殿
 速ニ此處ニ來レ予ハ敵兵三人ヲ捕獲セリ」ト此時幸ニシテ下士某ハ兵
 卒數人ト共ニ其附近ニ在リシカハ瞬間ニ友軍斥候ノ叫聲ノ方向ニ走
 リ來リ彼ノ兵卒ヲ解放セシノミナラス却テ敵兵三人ヲ捕虜ト爲セリ

四、如何ニシテ斥候ハ再ヒ歸還スヘキカ

斥候ハ其豫期セル事項ヲ探知シ終ラハ始ノ如ク戒心ヲ加ヘ敵ニ察知セ
 ラレサル如ク再ヒ歸還ニ就クヘキモノトス而シテ若シ爲シ得レハ歸路
 ハ往路ト別路ヲ取ルヲ要ス是レ一ハ退路ニ潜伏シテ斥候ヲ奇襲セント
 スル敵ノ虎口ヲ逃レ一ハ同時ニ多クノ地形ヲ觀察シ得ルノ利益アルヲ
 以テナリ然レトモ情況及任務ノ關係上再ヒ往路ヲ歸還セサルヘカラサ
 ルトキハ注意ヲ倍進シ斷然之ヲ採用スルモノトス又斥候歸還スルニ當
 リ敵兵前進シ來ルヤヲ觀察スルノ任務ヲ有スルトキハ其退却ヲ特ニ迅

速ナラシムルコト無ク却テ寧ロ敵カ通過スヘシト豫想スル地點假令ハ橋梁、淺瀬等ニ一時停止シテ敵カ前進シ來ルヤ否ヤヲ觀察スルヲ要ス然レトモ敵兵攻撃ノ爲メ我陣地ニ向テ前進シ來ルヲ發見セハ斥候ノ一人ハ其目撃セシ事項ヲ爲シ得ル限り迅速ニ歸還シテ小哨ニ報告スルモノトス其他ノ兩人ハ敵ト觸接ヲ保持シ而シテ敵兵益々前進シテ我前哨線ニ近接スルヤ斥候ハ激シク之ヲ射撃スルヲ要ス

斥候歸還ノ際我前哨線ヲ通過セントスルトキハ其目撃セシ事項ヲ步哨ニ告知スルヲ要ス又歸還斥候カ我前進斥候ニ出會セシトキハ此者ニ敵情等ニ就テ詳細告知ヲ爲スヘキモノトス

五、前哨內部ニ於ケル斥候ノ目的及責務

步哨ノ勤情ヲ觀察スヘキ爲メニ派遣セラレ、斥候ハ晝間ハ步哨線ノ內部ヲ行進スルモノトス是レ敵ヨリ發見セラレサルカ爲メナリ此斥候ハ警戒線ニ於ケル各障害及各缺點ヲ排除シ又患者或ハ遲鈍者若クハ怠慢者ハ他ノ健康ニシテ敏捷且ツ勤勉ナル者ト交換スル等ノ手段ヲ講スヘ

キモノトス

此斥候ハ交代ヨリ交代迄ノ時間内ニ派遣セラレルヲ最良トス是レ交代ノ際ニ於テハ其局ニ當ルモノ自ラ步哨ノ勤情ヲ監視シ得ヘケレハナリ

其他小哨或ハ前哨中隊ヨリ連絡ノ爲メ隣接前哨等ニ派遣セラレヘキ斥候アリ蓋シ此斥候ノ目的ハ我情況ヲ彼ニ告知シ且ツ不明ノ點ヲ質問シ又隣接前哨等カ依然舊位置ニ在ルヤ否ヤヲ觀察スルモノナリ

時トシテ此斥候ニ步哨ノ近傍ニ在リテ未タ我軍ノ爲メニ占領セラレ在ラサル森林、凹地等ヲ搜索スヘキ任務ヲ附加スルコトアリ其動作ハ敵前ニ於ケル斥候ト異ナルコトナシ

第七例 千八百十三年九月六日埃軍小哨ハエンヂツシハイストリツツ地方ニ一ノ斥候ヲ派遣セリ其任務ハ敵步哨ノ位置ヲ確カメ同時ニ敵情ヲ觀察スルニ在リ抑モ二三三人ヨリ成ル一ノ小斥候ハ進退動作輕便ニシテ容易ニ敵眼ヲ避クルコトヲ得ルカ故ニ敵ヨリ發見セラレヌシテ自ラ早く敵ヲ發見スルコトヲ得ルモノナリ

斥候ノ動作甚々不
確實ナリシ爲メ敵
ノ前哨ニ潜伏斥候
ノ爲メニ捕獲セラ
レシ實例

然ルニ茲ニ揭ケントスル例證ハ其反對ヲ示セリ前記ノ斥候ハ警戒及
搜索等ノ手段ハ一モ之ヲ取ルコト無ク恬然トシテ雜談ニ耽リツ、道
路上ヲ前進シ敵ニ就キテハ全ク何等ノ顧慮ヲモ有セザリシモノ、如
シ此際敵ハ前衛ヲ先頭ニシ其後方ニ大縱隊跟随シ本道ヲ前進シ來リ
シトキ前記ノ如キ不注意ノ敵斥候ヲ發見セシヲ以テ道路ノ側方ニ潛
伏斥候ヲ置キ以テ彼等ノ近接ヲ待テリ全ク怠慢ニシテ其身斥候ノ任
務ニ在ルヲ忘却セシ彼ノ三人ノ埃國兵ハ忽チニシテ佛軍潛伏斥候ノ
術中ニ陥レリ

斥候ノ責務ヲ等閑ニシ恬然トシテ敵ニ就キ何等ノ豫想モ有セザリシ
埃軍斥候カ俄然佛軍斥候ニ圍繞セラル、ヤ彼等ハ大ニ周章狼狽シ一
發ノ射撃ヲモ爲スコト能ハス從テ後方部隊ハ敵襲ニ關シ何等ノ警報
モ得ルコト能ハザリキ
此影響ハ直チニ埃軍ノ前哨部隊ニ波及シ其一小哨ハ忽チニシテ優勢
ナル敵兵ヨリ攻撃セラレ頗ル勇悍ニ之ニ抵抗セシモ支援隊ノ未タ到

着セサル前ニ於テ既ニ佛軍ノ爲メニ擊退セラレタリ佛軍ハ其結果或
ル緊要ナル地點ヲ占領スルコトヲ得爾後ノ戰鬥ニ於テ多大ノ利益ヲ
得タリ

前哨内部ニ於ケル斥候ハ其長ト共ニ通常二人ヨリ成ルモノトス

六、其他ノ前哨斥候ノ動作

以上開陳セシ斥候ノ外小哨長及前哨中隊長並ニ前哨司令官ハ種々ノ任
務ヲ以テ向他ノ斥候ヲ派遣スルモノトス

一、我前哨線ノ側方或ハ後方ニ於ケル斥候

軍隊カ一地ニ停止シ其側方或ハ後方ニ於テ敵襲ノ虞アルトキハ該方向
ニ停止斥候ヲ派遣スルモノトス其兵力ハ通常三人以上トシ指示サレタ
ル地點ニ到リ其範圍内ニ於テ適當ニ運動シテ敵方向殊ニ彼ニ通スル主
要道路ヲ監視シ夜間ニ於テハ最モ靜肅ヲ守リ屢々停止シテ音響ヲ聽取
スルヲ要ス故ニ遠方又ハ附近ニ於テ或ル音響ヲ聞クトキハ之ヲ明瞭ニ
聽取シ得ヘキ地點迄前進シテ之ヲ熟聽シ其原因ヲ探究セサルヘカラス

巡邏ノ兵數ニ關シ
我國改定野外要務
令ハ左ノ如ク説明
セリ
巡邏ハ其長及兵本
若干名ヨリ成ルモ
ノトス

而シテ此斥候ノ兵力三人以上ナルトキハ下士若クハ上等兵之ヲ指揮スルモノトス

二、掩護斥候

此斥候ハ歩哨ノ配布ヲ掩護スル爲メニ派遣セラレ、モノニシテ配布スヘキ歩哨線ノ前方數百歩ノ地形ヲ搜索シ且ツ敵情ヲ觀察シ展望自在ナル地點ニ到レハ一時茲ニ停止シテ充分ニ敵情及地形等ヲ觀察シ而シテ其後方ニ歩哨線ノ配布セラレシ時期ヲ圖リ再ヒ歸還スルモノトス
三、追躡斥候

此斥候ハ敵ノ攻撃ヲ擊退シタル後有効射距離以外ニ派遣セラレ敵ノ動靜ヲ觀察スルモノトス若シ敵兵再ヒ我ニ向テ前進ヲ開始セシトキハ激シク之ヲ射撃シテ友軍ニ第一ノ報告ヲ爲スヘキモノトス又敵兵停止スルカ或ハ分離スル如キコトアラハ單ニ報告スレハ足レリ而シテ敵兵益々其退却ヲ續行シ最早我ニ危險ナキ距離ニ達シタルコトヲ確認シタルトキハ斥候ハ再ヒ歸還ニ着クヘキモノトス

四、大斥候(偵察斥候)

此斥候ノ目的ハ敵情及地形ヲ偵察シ又敵ノ斥候ヲ支阻シ或ハ之ヲ驅逐シ又ハ敵ノ下士哨或ハ小哨ヲ奇襲シ或ハ之ヲ擊退シ或ハ之ヲ掩撃スルニ在リ即チ多少ノ強力ヲ有シ必要ナル場合ニハ之ヲ利用シテ其目的ヲ達成セサルヘカラス故ニ詭計ノミニテ其目的ヲ達成スルコト能ハスト認ムルトキハ速カニ決心シ斷乎タル處置ヲ取ラサルヘカラス然レトモ過早ニ敵ニ發見セラレ或ハ敵ノ伏兵ニ陥ラサルカ爲メニ細心注意シテ前進スルヲ要スルハ小斥候ノ動作ニ異ナラサルモノナリ
然レトモ此斥候ハ一定ノ地點迄前進シ彼處ニ掩蔽シテ停止シ更ニ小斥候ヲ必要ノ偵察ノ爲メニ派遣シ以テ其任務ノ充實ヲ計ルコトアリ即チ偵察スヘキ地區カ偵察隊ヲ出スヘキ部隊ヨリ比較的遠ク離隔シ在リテ小斥候ヲ派遣スルニハ其距離遠キニ失スル等ノ顧慮アル時此斥候ノ派遣ヲ必要トスルモノナリ

大斥候ハ可成各人ニ斥候ノ目的及目標ヲ理解セシメ置クヲ要ス又大斥

敵ト觸接スルコト
切迫スルニ當テ
定メテ時刻ヲ以テ
容易ニ敵ノ動作ハ
容易ニ察知スル所
ト爲リ殊ニ定時ノ
交代ハ要塞ヨリ砲
火ヲ受ケルノ虞ハ
宜シク注意スヘ
シ
前哨ノ各部隊殊ニ
最前線ニ在ルモノ
ハ其位置ヲ敵ニ知
ラサシムルカ爲メ
メ時々之ヲ變更ス
ルヲ有利トスルコ
トアリ

トハ今尙吾人ノ記憶ニ存スル所ナリ即チ複哨ノミニテハ到底其目的ヲ達スルコト能ハサル事項假令ハ複哨ノ前方或ハ側方ニ在ル所ノ各隅角及各塹壕等ハ停止斥候ヲ以テ夜間之ヲ搜索セシメ且ツ之ヲ監視セシムルヲ常トセリ又歩哨ト歩哨トノ間ニ配置セラレ在ル停止斥候ヲ救援スルコトヲ努メタリ

森林地谷地若クハ繁茂セル葡萄丘等ハ敵ノ間諜又ハ脚夫等ノ通過ニ便ナルヲ以テ之ヲ豫防スル爲メニ斥候ヲ屢々派遣スルヲ要ス又警戒ヲ補足スル爲メニ前哨線ノ後方ニモ尙斥候ヲ行動セシムルコトアリ是レ前方歩哨線ヲ通過シ來リシモノヲ悉ク後方ニ於テ捕獲センカ爲メナリ蓋シ夜間ハ敵ノ脚夫等カ往々前哨線ヲ潜カニ通過セント企圖スルモノナレハナリ

七、前哨ノ密集部隊ニ在ル兵卒

前哨ニ於テ密集部隊ハ下士哨獨立下士哨小哨前哨中隊及前哨本隊ニ在リ初メノ三者ニ在テハ其密集兵員中ニ歩哨及斥候ヲ含有スルモノトス

面シテ何レノ部隊ニ拘ハラヌ前哨ハ迅速ニ敵ノ攻撃ニ對抗シ得ルヲ以テ第一ノ急務ト爲サ、ルヘカラス此原則ニ由リ前哨ハ斷ニス戰闘準備ノ姿勢ニ在ラサルヘカラス且ツ高聲ノ談話喧噪及唱歌等ハ禁セラル、モノトス銃ハ斥候及歩哨毎エ交叉シ必要ニ際シ各人混雜スルコト無ク速ニ之ヲ解キ得ルヲ要ス背囊ハ常ニ能ク結束シ又銃ニ於ケル注意ト同シク適當ニ排列シ各人ハ常ニ銃ノ近傍ニ休憩シ在ルモノトス是レ各記號又ハ各叫聲ノ下ニ爲シ得ル限リ迅速ニ戰備ヲ整頓センカ爲メナリ焚火ハ前方或ハ側方ヨリ展望セラレサル時ニ限リ之ヲ許可ス

夜間ハ一層注意ヲ倍蕪セサルヘカラス特ニ日没前及拂曉ヲ然リトス是レ奇襲及偵察ハ多クハ此時期ヲ利用スレハナリ故ニ危險多キ前哨ニ於テハ各人ハ銃ヲ手ニシテ休憩シ在ルカ或ハ最モ少クモ又銃ノ近傍ニ集團シ在ラサルヘカラス睡眠ハ主トシテ晝間ニ於テ爲サシメ夜間ハ可成之ヲ避クルヲ要ス情况ニ由リ其一部睡眠ヲ許サルコトアルモ他ノ一部ハ必ス醒覺シ在ルヲ要ス通常ノ場合ニ於テ背囊ハ之ヲ卸シ只二個ノ

前方彈藥盒ヲ附シタル帶革及雜糞水筒并ニ器具ヲ携帶スルモノトス然レトモ危險多キ下士哨、獨立下士哨、及小哨等ニ在テハ之ヲ各兵卒ニ負擔セシメ置クコトアリ

要塞戰ニ於ケル前哨ノ如ク近ク敵ノ前哨ニ相對峙シ危險多キ地點ニ於テハ日暮ル、ト同時ニ全小哨ヲ豫定ノ戰鬪線ニ散開セシメ以テ不時ノ敵襲ニ對シ何時ニテモ瞬間ニ之ニ應シ得ラル、如ク準備シ置クコトアリ千八百七十年メツツ要塞前ニ於ケル我小哨ハ散兵壕、鹿砦及其他ノ防禦地區ヲ占領シ而シテ此等ノ小哨ハ環形ニ全要塞ヲ圍繞セリ而シテ翌拂曉新小哨ヲ交代ノ爲メニ晝間ノ位置ヲ占領シ終ルヤ夜間ノ各小哨ハ其位置ヨリ撤退スルヲ常トセリ

若シ兩軍前哨線ノ距離若干相離隔シ直接ニ敵ニ展望セラレ、ノ顧慮ナキトキハ小哨ノ交代ニ際シ新舊兩小哨ヨリ混成斥候ヲ編組シテ前地ニ派遣シ舊斥候ハ新斥候ニ地形及敵情並ニ我任務ニ就キ詳細ニ次ノ事項ヲ告知スヘキモノトス即チ何處ニ敵ノ歩哨等カ位置スルカ如何ナル道

路ヲ敵ノ斥候カ多ク往復スルカ如何ナル地點ヲ特ニ觀察スヘキカ如何ナル道路及地區ヲ採用スレハ我斥候ニ最モ利益ヲ呈スルカ等ナリ要スルニ時期ト情況トニ由リ緊要ト認メタルモノハ細大洩スコトナク詳細ニ告知スルヲ要ス

前哨中隊及前哨本隊ニ在ル各人ハ其他ノ哨所ニ在ルモノニ比スレハ比較的寬裕ヲ許可セラル、モノトス是レ其前方ニ下士哨、獨立下士哨、小哨アリテ敵ト第一ノ衝突ニ對シ直接ニ前哨中隊及前哨本隊ヲ掩護シ在レハナリ然レトモ小哨敵ノ爲メニ攻撃セラル、ヤ其影響ハ直チニ前哨中隊及前哨本隊ニ波及スルヲ以テ此等ノ部隊ハ常ニ迅速ニ之ニ應シ得ル如ク準備シ在ラサルヘカラス要スルニ前哨各部隊ハ其前方ニ在ルト後方ニ在ルトニ拘ハラズ一般ニ靜肅ヲ守リ且ツ至嚴ノ戰備ヲ爲シ在ルヲ以テ原則ト爲サ、ルヘカラス

八、報告

迅速且ツ確實ナル報告ハ前哨及其他ノ諸勤務ニ於テ最モ緊要ナルモノ

ナリ而シテ其回数ハ寧ロ三回ヨリモ四回ヲ一回ヨリモ二回ヲ良トス若シ斥候敵ニ就キ何事カヲ視察セシニモ拘ハラス之ヲ等閑ニ附シ去リ何レノ方面ニモ報告又ハ告知セサリシナラハ我ハ其敵情ヲ毫モ知得スルコト能ハサルニアラスヤ又遙カニ後方ニ位置シ在ル高級指揮官ハ報告ニ由ルニアラスンハ何ヲ以テカ敵情及地形ノ詳細ヲ知得スルコトヲ得ンヤ故ニ「勤勉ニ視察シ熱心ニ報告セヨ」トハ戰時勤務ノ一大要訓ナリ抑モ軍事報告ナルモノハ徒ラニ大言壯語ヲ爲シ又ハ冗長ナル文字ヲ排列スヘキモノニアラス然レトモ甚ダシク簡畧ニ過キ真相ヲ知ル能ハサル如キハ亦大ニ不可ナリ故ニ軍事報告ハ單簡ニシテ且ツ精緻ニ總テノ緊要事項ハ悉皆之レヲ網羅セサルヘカラス從來慣用ノ軍事報告ナルモノ冗長ニアラサレハ或ハ簡略ニ過キ或ハ誤字脱字極メテ多ク或ハ字體不明或ハ行文ノ趣旨不明ニシテ殆ント其真相ヲ解スルニ苦シムモノ歟シトセス故ニ報告ハ其筆記ナルト口頭ナルトヲ問ハス己レカ直接ニ見聞シ且ツ之ニ就テ考定セシ意見ト單ニ想像ニ過キサルカ或ハ風説ヨリ

聞知シタルモノトハ判然明テカニ之ヲ區別セサルヘカラス知得シタル情況ハ勉メテ虚心坦懷ニ判斷シ而シテ其觀察ヲ公平ニシ以テ報告ノ資料ト爲サルヘカラス感情ノ消長ニ由リ實際ヨリ之ヲ過重視スルカ或ハ輕視スルカ如キハ其ニ甚ダ不可ナリ

斥候ハ已レヲ派遣セシ上官ニ途中ヨリ何時何地ニ於テ何レノ方向ニ何時迄觀察ヲ續行セシムル爲メニ何名ヨリ成ル斥候ヲ派遣セリ等ノ報告ヲ爲シ又出發當時ニ於ル情況ト出發後ニ於ル情況ト變化ナキ時或ハ敵情ニ就キ何モ得ル所ナキ時ト雖之ヲ上官ニ報告スルヲ要ス此等ノ件ニ關シ上官ヨリ斥候ニ對シテ或ハ細密ナル訓示無キヤモ知ルヘカラス故ニ斥候ハ能ク當時ノ情況ヲ判斷シ途中ニ於テ報告スヘキモノト歸還後報告スヘキモノトヲ區別シ兩者共ニ毫モ遺憾ナカラシムルヲ期スヘシ千八百七十年メツツストラスブルクバリノ如キ敵ノ要塞前哨ニ向テ夜間派遣セラルヘキ斥候ハ敵情ニ就キ何モ聽取スルコトナキモ或ハ何等ノ恠シムヘキ點ヲ發見セサルトキモ斷ニス報告ヲ上官ニ呈スルヲ以テ

要戰ニ於テ斥候
シノ報告宜シキヲ得
シノ爲メ敵ノ出テ得
容易ニ撃退シ得タ
リシ戦例

常トセリ若シ此等ノ斥候ニシテ異狀ナキカ爲メ上官ニ報告ヲ呈セザリ
シナラハ上官ハ斥候カ安全ニ其任務ニ從事シツ、在ルカ或ハ敵ヨリ捕
獲セラレタルカハ之ヲ知ルニ由ナキナリ若シ不幸ニシテ斥候敵ニ捕獲
セラレ該方面ノ情況ヲ斷ニス觀察スルモノナキトキハ如何ナル患害カ
發生スヘキカハ考慮ヲ要セスシテ自ラ知ルヘキナリ

百五十一

第九例 千八百七十年十月一日ノ夜ニ於テメツツ前方普軍小哨ヨリカ
アルテイル附近ニ於テ佛軍前哨ニ向テ派遣セラレタリシ斥候上等兵
「レブシユ」ノ報告ハ頗ル要領ヲ得タリ該報告ノ全文ニ曰ク「第二斥候長
上等兵「レブシユ」ノ報告○敵ノ復哨ハ尙依然トシテ舊位置ニ在リ其ノ
後方カアールニ通スル大道附近ニ於テ強大ナル部隊ノ行進スルカ
或ハ集合スル如キ音響ヲ聞ケリ夜半前ニ於テハ此等ノ音響無ク曾テ
靜肅ナリキ又敵ノ歩哨ハ本日特ニ警戒ヲ嚴ニシ我斥候其位置ニ觸接
セントスルヤ彼ハ一種ノ叫聲ヲ發セリ予ハ大道ノ屈曲部ニ止マリ尙
敵情ヲ觀察セントスト」ト

此報告ノ到達セシハ午前三時ナリキ同三時四十五分上等兵ハ更ニ第
二ノ報告ヲ送レリ其要旨ニ曰ク「音響ハ益々強大トナリ馬匹ノ蹄響及
指揮官ノ號令ヲ聞ケリ察スルニ敵ハ我ニ向テ出撃ヲ企ツルニアラサ
レハ或ハ大ナル偵察ヲ準備シツ、在ルナラント」ト
此報告ニ基キ普軍ハ直ニ防禦配備ニ必要ナル處置ヲ施シ亦其情況ヲ
隣接各小哨ニ通報セリ是ヨリ約十五分ノ後二三ノ銃聲ヲ前方ニ聞ク
ト同時ニ斥候ノ一人呼吸ノ續ク限リ疾驅ヲ以テ來リ報告シテ曰ク「敵
兵數大隊彼ノ前哨線ヨリ我ニ向テ前進ヲ始メタリ」ト佛軍ノ此企圖ハ
成功セスシテ全ク無益ナル勞働ト大ナル損害トヲ以テ再ヒ舊位置ニ
復歸スルノ止ムヲ得サル結果ニ終レリ蓋シ其原因ハ普軍ノ斥候カ早
時ニ之ヲ發見シ適當ニ之ヲ報告セシ爲メ普軍ハ充分ナル戦備ヲ以テ
此敵ニ對抗シ得タリシカ爲メナリ

緊要ナル報告ハ可成報告紙若クハ小紙票等ニ筆記スルヲ要ス又送達者
ノ人格如何ニ由リ筆記報告ノ趣旨ヲ該送達者ニ告諭シ置クコトアリ而

シテ國語ヲ自在ニ談話シ能ハタルモノ又ハ口吃者或ハ遲鈍者ハ報告ノ送達者トシテ之ヲ使用スヘカラス總テ筆記報告ニハ必ス次ノ要點ヲ包括セシメサルヘカラス一發簡者ノ任務及階級氏名假令ハ第二斥候長上等兵某二發簡地假令ハ何地附近ノ十字路三月日及時假令ハ二月三日午

前地ニ派遣セララルヘキ斥候ハ常ニ注意シテ適當ニ地形ヲ觀察シ置クヲ要ス是レ地形ノ諮問ニ對シテ答解ヲ爲シ且ツ必要ノ場合ニハ部隊ノ前進ニ嚮導トシテ使用セララル、カ爲メナリ

第四章 宿營

總則

宿營ヲ分チテ露營、村落露營及舍營ノ三種ト爲ス
露營ハ有爲ナル敵ト近ク相對峙シ其情況完全ナル戰備ヲ要求スル時實

宿營ノ要領ニ關シ
我國改定野外要務
令ハ左ノ如ク説明
セリ

舍營ハ戰團ノ準備
容易ナル能ハスト
雖風雨ヲ障シテ
人馬ヲ休養シ需要
品ノ補充調理及裝
置、被服ノ補修ニ
使ナルヲ以テ休養
上ヨリ云ヘハ極メ
テ露營ニ優リトス
故ニ荷重戰術上ニ
妨ケナクハ露營
ハ舍營ヲ以テ最良
トス
敵軍ニ接近スルカ
或ハ數團隊ヲ稠密
ニ集合スルチカ
ルカ若クハ其地方
ニ住民ノ乏シキカ
爲メ舍營ヲ爲ス能
ハサル時ハ村落露
營ヲ爲スヘシ此露
營ハ戰團準備ニ關
シテハ開始露營ニ
同シキモ軍隊休養
上ニ於テハ尙之ニ
優レリト
敵ニ接近シ夜間尙
一一定ノ距離ニ位
セサルチ得サル時
或ハ舍營スヘキ村
落ニ乏シクハ露營
爲スモノトス

施セラル、モノニシテ通常前哨ノ各部隊之ヲ爲スモノトス前記ノ關係ニ於テ其情況少シク我ニ有利ナル時ハ各部隊ハ一部ハ全ク露營シ一部ハ近傍ニ在ル村落及莊邸ヲ利用シテ其掩蔽下ニ休宿スルモノトス即チ密集部隊ハ厩舍、穀倉、寺院、學校等ノ大ナル掩蔽下ニ入り其他ノ部隊ハ庭園及民家ノ近傍ナル野外ニ露營ヲ爲ス之ヲ村落露營ト稱ス敵兵尙遠ク或ハ我前哨ニ由テ掩護セララル、トキハ軍隊ハ民家ヲ利用シ可成寬裕ナル宿營法ヲ取ルヲ要ス之ヲ舍營ト稱ス而シテ舍營ハ道路ノ兩側ニ沿ヒ最モ長距離ニ延長セララル、行軍舍營及給養上若クハ戰術上ノ關係ニ由リ適當ニ配置セララル、駐軍舍營并ニ警戒ヲ嚴ニスル爲メ最モ狹小ナル地域ニ宿營セシメラル、警急舍營等ニ由テ各々其廣狹寬嚴ノ度ヲ異ニスルモノトス

一、露營

露營ニ於ケル諸勤務
露營地ヲ撰定スルニハ主トシテ敵ヨリ展望セラレヌシテ其位置ハ防禦

我國野要務令ニ
露營ニ於テ風紀
兵ノ動作ハ衛成
務ノ規則ニ從フ
アリ故ニ戰陣ヲ
ニ目夕ニ起ラント
スル場合ニ於テ
露營地ニ於テ風
行ハサルヘカテ
行ハサルヘカテ
然ラハ是レ頗ル
機ニ合セサル動
ナリト曰ハサル
カラス故ニ予ノ
見ハ露營ニ在テ
如ク露營ニ在テ
ハ露營ニ在テ
若シ行フヘキ時
アルトキハ其時
之ヲ命令スル時
テ事機ニ適シタ
ルヲ以テ

哨ニ區分セラル

露營内部ノ秩序ヲ保持スヘキ爲メ并ニ武器等ノ監視ノ爲メ各部隊ハ内
衛兵ヲ配置スルモノトス(歩兵ニ在テハ之ヲ軍旗衛兵ト稱ス)而シテ其兵
力ハ軍旗前一單哨同時ニ銃前哨ヲ兼ス)及部隊長前一單哨同時ニ車
輛衛兵ヲ配置スルヲ以テ標準ト爲ス
内衛兵ノ動作ハ衛成勤務ノ規定ニ準スルモノトス然レトモ銃前哨ハ「執
レ銃」ヲ發唱スルコトナク歩哨及衛兵ハ敬禮ヲ行フコトナシ
數大隊若クハ之ニ準スル部隊同一地ニ露營スルトキハ其形式ハ次ノ要
領ニ準スルモノトス
歩兵ハ縱隊橫隊(各中隊ノ間隔ヲ半小隊面ニ十歩ヲ加ヘタルモノニ等ク
ス)ノ各中隊右左側面ニ方向變換ヲ爲シタル隊形ヲ以テ大隊毎ニ露營ス
而シテ各小隊ハ先頭ヨリ適當ノ距離ヲ取り其整頓ハ先頭小隊ニ爲スモ
ノトス而シテ各小隊又銃シ終ルヤ中隊ハ其後方ナル集落地ニ移リ茲ニ
順序正シク背囊ヲ卸下スヘキモノトス此地點ヲ點呼場ト名ク尙其後方

ニ休宿場アリ又其後方ニ中隊及大隊ノ大行李及將校ノ休宿場アリ尙其
後方ニ炊事場アリ而シテ團圍ハ可成遠ク其後方ニ設置セラル、ヲ要ス
小部隊ノ露營ニ在テハ右ノ如キ形式ニ拘泥スルヲ要セス勉メテ地形ト
風向トヲ顧慮シ以テ警戒上并ニ衛生上ニ便利ナル如ク設備スルヲ緊要
トス

外衛兵及歩哨ノ責務并ニ動作

外衛兵ハ土地蔭蔽シテ正面及側面ヨリ敵兵ノ近接シ易キ地點ニ配置セ
ラル、モノトス而シテ二個以上配布セラル、トキト雖相互ノ直接連絡
ハ敢テ必要ナラサルモノトス然レトモ情況ニ由リ露營地ノ周圍ヲ閉鎖
スルノ必要アルトキハ相互ノ連絡ハ亦必要ナルモノトス土地概テ敵開
シ而シテ甚タ大ナラサル部隊ノ露營ニ在テハ二個ノ外衛兵ヲ配置スル
ヲ以テ足レトス即チ一ハ露營地ノ前方ニシテ他ノ一ハ其後方トス而
シテ其各衛兵ハ共ニ少クモ各二複哨ヲ配布セラルヘカラス但シ複哨ト
複哨トハ必ス連絡ヲ保持スヘキモノトス

外衛兵ノ配置不完
各ナリシメ爲メ全
營隊ノ爲メニ全
シテ全ク潰走セ
ル例

外衛兵ノ緊要ナルコト及其勤務ヲ等閑ニ爲セシ爲メ失敗立ロニ到リシ
例證ヲ左ニ掲ケントス

第一例 千七百九十九年佛軍ノ一部隊ハクルーム河ノ下流附近ニ露營
セリ而シテ其一側方ヲ衛兵及歩哨ニ由テ警戒スルコトヲ等閑ニ附セ
リ如何トナレハ露營地ノ一側方ハ沮洳タル森林ニ由テ自然ニ掩護セ
ラレタルヲ以テ佛軍ハ此方面ヨリ敵ノ進入ヲ全ク不可能ト判斷シタ
ルヲ以テナリ

然ルニ埃軍ハ夜ニ乘シ佛軍ノ露營ヲ奇襲セシニ事全ク不意ニ出テシ
ヲ以テ露營者ノ大部分ハ一ノ抵抗モ試ミスシテ全ク混亂シ抵抗セシ
モノハ悉ク殺戮セラレタリ是ニ於テ全露營者ハ背囊武器及馬匹ヲ遺
棄シ四分五裂ト爲リテ潰走セリ而シテ此大成功ヲ博シタリシ埃軍ノ
兵力ハ僅カニ百三十八ニ過キサリキ彼等ハ此寡少ナル部隊ヲ以テ地
理ニ明ラカナル二人ノ住民ヲ嚮導ト爲シ警戒ナキ一側方ノ森林ヨリ
容易ニ佛軍ノ露營地ニ闖入シ瞬息ノ間ニ赫々タル偉功ヲ奏セリ

露營地ノ外方ニ對
スル警戒不備ナ
リシ爲メ全露營
隊ノ爲メニ全
シテ全ク潰走セ
ル例

晝間ニ於テハ沮洳ノ爲メニ通過スヘカラナル土地モ夜間氣候ノ寒冽
ニ遭ヒハ忽チ凍結シテ容易ニ通過シ得ル如ク變化スルコトヲ吾人ハ
深ク留意セサルヘカラス此日佛軍カ認メテ通過不可能ト爲セシモノ
其夜ニ及ヒテ全ク凍結シ而シテ通過自在ト爲レリ然ルニ佛軍ノ注意
少シモ此點ニ及ハサリシヲ以テ全ク意外ノ失敗ヲ見ルニ至レリ

第二例 千八百七十年八月十八日ヘルチヒール附近ニ於テ普ノ第九軍

團ハ佛軍ノ露營ニ衝突セリ此際佛軍ノ驚愕ハ實ニ非常ニシテ各指揮
官ハ殆ント策ノ出ツル所ヲ知ラス只僅カニ比較的迅速ニ後方ニ集合
セシ部隊ニ由テ辛フシテ焦眉ノ急ヲ救ハント欲セリ斯カル不利ノ情
況ニ於テ堂々タル大戰ノ端緒ヲ開カハ佛軍ハ遂ニ不幸ノ結果ヲ見ル
ヘキハ蓋シ何人モ疑ヲ容レサル所ナリ

尙次ニ一例ヲ掲ケントス

千八百七十一年戰ニ於テ佛軍ハ獨軍ノ近傍ニ在ルヲ知リシニモ
拘ハラス外衛兵勤務ヲ等閑ニ附シ之カ爲メニ甚タ不良ナル結果ヲ發

休憩地ノ外方ニ對
スル警戒不備實ナ
リシ爲メ休憩シテ
ル一軍團ヲ一軍
團ヨリ奇襲ヲ受ケ
ル戦例

生シタリシ例證ハ千八百七十年八月三十日ベアウモント附近ニ於テ
普魯士第四軍團カ佛將デフアイリーノ率ヒタル第五軍團ノ全部ヲ休
憩地ニ於テ奇襲シタル事跡ヲ以テ證明セントス
佛將デフアイリーハ彼レノ軍隊ト共ニ前夜ニ於テ一大強行軍ヲ爲セ
リ依テ八月三十日午前彼レノ軍隊ヲ休憩セシメ其間ニ炊爨ヲ爲シ各
人ヲシテ喫食ヲ終ラシメ正午十二時頃休憩地ヲ出發シ更ニ行軍ヲ續
行セント欲セリ此時ニ於ケル獨軍ノ形勢ハ漸次佛軍ヲ壓迫シ來リ其
前衛ハ佛軍ヲ距ル僅カニ一獨里ノ距離ニ在リシコトハ佛將デフアイ
リーモ恐ラク之ヲ知リ在リシナラン然ルニ休憩地ノ周圍ニ一ノ外衛
兵モ配置セス或ハ或ル一方ニハ配置シ在リタランモ其數タル極メテ
寡弱ニシテ即チ現下ノ情況ニ於テ斯ノ如キ不完全ナル警戒配備ニテ
ハ到底全軍團ヲ安全ニ掩護スルコト能ハサリシハ何人モ疑ヲ容レサ
ル所ナリ

休憩地ニ於テ將校及下士兵卒中ニ今ヤ正ニ食事中ナルモノアリ或ハ

種々ノ雜役ニ服務中ノモノアリ而シテ今僅カニ若干部隊カ點呼ノ爲
メ集合セラレツ、アリ然ルニ午前十一時三十分頃ベアウモント南方
ニ横ナル高地線ヨリ獨軍ノ榴彈俄然トシテ佛軍ノ休憩地ニ飛來セリ
此際ニ於ケル佛軍ノ驚愕及不利ノ情況ハ之ヲ想像スルニ餘リアリ蓋
シ獨第四軍團ハベアウモント南方ノ森林ヲ潛カニ通過シテ佛軍ノ休
憩地ニ近接シ而シテ全ク警戒無キ佛軍ニ向テ勇猛ニ大奇襲ヲ敢行セ
シナリ(普魯士參謀部ノ著書ニ據ル)
佛軍ハ若シ強大ナル外衛兵ヲ敵方向適當ノ地點ニ派遣シ此外衛兵ヨ
リ斷ニス敵方向ニ斥候ヲ派遣シ以テ敵情ヲ根本的ニ搜索セシナラハ
必ス早時ニ敵ノ近接及其企圖ヲ發見シ豫メ充分ノ準備ヲ以テ之ニ對
抗シ得タリシナラン

近接シ來ル敵ヲ發見スル爲メ及其他ニ就キテ外衛兵歩哨ノ動作ハ小哨
ノ歩哨ノ動作ニ同シ即チ晝間ニ於テハ我軍ノ將校及密集部隊ハ歩哨線
ノ通過ヲ許スモ其他ノモノニアリテハ衛兵ニ送ルカ或ハ之ヲ設置シ在

晝哨ニ關シテハ前
哨ノ部ニ於テ爲セ

ルトキハ査哨ノ方向ニ赴カシムルモノトス夜間ニ在テハ總テ調査ヲ行ヒ要塞戰ニ在テハ必要ニ應ジ暗號ヲ交附セラル、モノトス
外衛兵ノ歩哨ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行フヲ要セヌ亦「執レ銃」ヲ呼フコトナシ

露營地内外ニ於ケル總テノ衛兵ハ露營司令官露營日直將校及巡察將校ノ區處ヲ受クルモノトス

外衛兵ノ歩哨ハ露營地ヲ脱出セントスル單獨兵卒ヲ發見セシトキハ之ヲ衛兵ニ送致スルモノトス又外方ヨリ來リテ歩哨線ニ入ラントスル單獨兵卒并ニ總テノ地方人縱令ハ飲食品販賣人ノ如キモノハ歩哨之ヲ其前方適當ノ所ニ停止セシメ而シテ復哨ノ一人ヲシテ衛兵ニ送致致セシムルモノトス

外衛兵ノ歩哨ハ前哨ニ於ケル歩哨ノ如ク總テノ點ニ就テ精細ニ注意セサルヘカラス故ニ異狀ト認ムヘキ部隊ノ運動及銃聲等尙モ敵ノ近接ヲ意味スル現象ハ小哨ノ歩哨ノ如ク直ニ衛兵ニ報告スヘキモノトス即チ

外衛兵ノ歩哨ハ近傍ニ於テ見聞セシ事項ハ其真相ヲ確認スル迄精密ニ之ヲ搜索探究セサルヘカラス

前哨線ヲ潛行シ來リ而シテ露營ニ向テ奇襲ヲ行ハントスル如キ大膽ナル敵ハ其動作概シテ沈着巧妙ニシテ決シテ輕舉暴動ヲ爲スモノニアラス從テ其進退モ亦靜肅ニシテ其企圖ノ發展前ニ於テ甚タシキ喧騒ヲ演スル如キハ稀有ナルモノト覺悟セサルヘカラス故ニ外衛兵ノ歩哨ハ極メテ僅少ナル管轄又ハ疑團ヲ見聞スルモ決シテ之ヲ等閑ニ附シ去ルコト無ク充分ニ耳目ヲ活動シテ根本的ニ其真相ヲ發見スルコトニ努力セサルヘカラス則チ其一人ハ直チニ管轄又ハ疑團ノ方向ニ向テ前進シ精密ニ之ヲ確認スルヲ要ス

露營地ノ後方若クハ側方ニ在ル歩哨ハ殊ニ注意シテ其方向ヲ監視セサルヘカラス縱令露營地カ險阻ナル巖石地湖海及其他ノ障害物ヲ以テ掩護セラル、モ之ヲ以テ全ク安全ト爲ス能ハサルナリ何トナレハ敵ハ却テ露營者ノ不意ニ出ワル目的ヲ以テ多少ノ障害物ノ如キハ之ヲ踰越ス

ルニ敢テ躊躇セサルヘシ是レ該障害物アルカ爲メ露營者ハ該方面ノ警戒ヲ比較的簡略ニシ在ルモノト想像シ得ヘゲレハナリ
 暗夜濃霧暴風雨及吹雪等ハ歩哨ノ耳目ヲ掩蔽シ其視聽ヲ妨クルコト大ナルヲ以テ敵ハ之ヲ利用シテ容易ニ露營地ニ近接スルコトヲ得ヘシ故ニ外衛兵ノ歩哨ハ右ノ如キ天候ニ在テハ特ニ注意シテ耳目ヲ活動シ最モ勤勉ニ任地ヲ行動シ以テ總テノ徵候ヲ早時ニ發見シ迅速ニ衛兵ニ報告ヲ爲サ、ルヘカラス

第三例 千八百十四年十二月十九日午前九時三十分頃佛軍ノ一軍哨ハ

メイエル村ノ前方ニ立テリ

時正ニ寒風凜烈ニシテ驟然タル吹雪ハ斷ニス歩哨ノ顔面ヲ劈ケリ依テ歩哨ハ此寒威ヲ防ク爲メ外套ヲ以テ堅ク身幹ヲ裏ミ寒風及吹雪ヲ正面ニ受クルヲ避クル爲メ身體ヲ反對ノ方向ニ向ケシカ故ニ主トシテ監視スヘキ敵方向ヲ背面ニシ却テ友軍ノ方向ニ面スルニ至レリ是ヲ以テ普軍少佐ニコムプノ指揮ノ下ニ近接シ來ル敵兵ヲ歩哨ハ目撃

外衛兵ノ歩哨カ其
 任務ヲ盛サレリ
 爲メ外衛兵ノ一部
 ハ敵軍ヲシテ村落
 内ニ宿營セリ
 友軍ノ宿營シテ村落
 トナリシ戦場

スルコト能ハサリシノミナラス亦其音響ヲモ聴取スルコト能ハサリキ少佐ノ部隊前進シテ歩哨ノ背後一、二歩ノ所ニ達セシトキ彼レハ正面ニ向キ初メテ事ノ意外ナルニ驚キ外套下ニ在ル拳銃ヲ使用セント欲シ急ニ外套ヲ脱セントセリ然ルニ此時頗ル銳利ナル斬撃ハ電光ノ如ク彼レカ頭上ニ墜落シ來リ一發ノ警報射撃モ爲ス能ハスシテ彼レハ地上ニ墮レタリ

後方ニ在ル衛兵ハ歩哨ヨリ何等ノ報告モ得ス且ツ一發ノ警報射撃ヲモ聞カサリシヲ以テ固ヨリ危険ノ目前ニ切迫シツ、在ルヲ知ルニ由ナク今ヤ各人噫々然トシテ正ニ朝食中ナリキ是ニ於テ其一部ハ殺戮セラレ他ノ一部ハ驅逐セラレタリ

今ヤ少佐ノ率ユル普軍部隊ハ疾風ノ如ク村落内ニ闖入シ同所ニ宿營シ在リシ佛軍部隊ヲ悉ク捕虜ト爲セリ
 抑モ佛軍カスノ如キ不幸ニ遭遇セシ所以ノモノハ外衛兵ノ歩哨カ不良ナル天候ノ爲メ其任務ヲ等閑ニセシ結果ニ外ナラス譯者曰ク斯ノ

如キ情况ニ在テ單ニ一單哨ノミヲ以テ警戒セシメタリシ幹部ノ責任モ亦決シテ輕々ニ看過スヘカラサルナリ

外衛兵ヨリ其宿營地ノ側方或ハ後方ニ屢々派遣セラレヘキ斥候ハ小哨ノ前方若クハ側方ニ派遣セラレ、斥候ノ如ク勤勉ニ且ツ注意周到ニ總テノ敵候ヲ根本的ニ觀察セサルヘカラス之カ爲メ音響ヲ聞クヘキ爲メニ屢々且ツ長ク停止スルコトアルヘシ又高聲ノ談話ハ之ヲ嚴禁ス若シ然ラサルトキハ敵ハ先キニ斥候ヲ發見シ一地ニ潛匿シテ彼レノ近接ヲ待チ適當ノ距離ニ到ルニ及ヒテ俄然トシテ之ヲ奇襲スルナラン

不注意ナル斥候カ
敵ノ斥候ノ爲メ捕
獲セラレシ實例

第四例 千八百七十年ノエヒールヨリ普軍ノ來否ヲ觀察スヘキ爲メオルレアノ森林ニ派遣セラレタル佛軍斥候ハ前項記載ノ過失ヲ爲セ

リ
普軍ノ驃騎兵斥候ハ道路上ヲ警戒シツ、行進シ在ル時偶々前方ニ高聲ヲ以テ雜談シツ、行進シ來レル佛軍ノ斥候ヲ發見セリ依テ直チニ道路ノ側方ナル一莊邸ノ後方ニ停止シ佛軍斥候ノ通過スルヲ待チ之

ヲ捕獲セリ

ハ、露營ニ於ケル兵卒

露營ハ通常敵ニ甚タ近接シ在リテ迅速ニ戰備ヲ整頓スヘキ必要アル時實施セラレ、モノトス故ニ各人ハ常ニ一定ノ位置ニ停止シ何人ト雖許可ナクシテ露營地ヲ離ル、ヲ許サス

露營ニ在リテハ秩序ヲ嚴正ニ保持スルコト殊ニ緊要ナリ即チ各人ノ銃ハ順序正シク交叉シ裝具ハ夜間ニ在テハ特ニ注意シテ正シク結束シ何時ニテモ之ヲ負擔シ得ル如ク準備シ在ラサルヘカラス又各人ハ規定ニ從ヒ睡眠シ或ハ炊爨シ或ハ食事スヘキモノトス此等ノ規定カ能ク實行セラレ、ト然ラサルトハ亦戰備ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ

糧食ハ可成之ヲ豊富ナラシムヘシト雖靜止安息ノ時ニ之ヲ多量ニ採用セシムルハ不可ナリ故ニ靜止安息ノ時ハ可成之ヲ節約シ非常ノ勞働ヲ要求スル時充分之ヲ豊富ニスルヲ要ス軍事勤務ニ未タ慣染セサル新兵ハ少シク飢餓ニ迫ルトキハ動モスレハ身體ヲ地上ニ投ケ且ツ其境遇ノ辛

酸ナルヲ密カニ歎息スルモノナルヲ以テ幹部ハ特ニ糧食ノ給養ニ甚大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス

各兵卒ハ明瞭ナル認可アルニアラサレハ住民ノ物品ヲ使用スヘカラス故ニ軍隊カ村落露營ヲ爲スカ或ハ村落ノ近傍ニ露營スルトキハ特ニ此點ニ注意セサルヘカラス

軍隊其露營地ニ於テ何等ノ必要物品モ得ルコト能ハサルトキハ一將校ノ指揮下ニ一ノ徵發隊ヲ編成シ附近ノ村落ニ差遣シ必要ノ物品ヲ該村落ノ村長若クハ人民ヨリ徵發シ來ラシムルコトアリ(第七章第一節ヲ參照スヘシ)

露營ニ在リテ炊爨ハ通常一人ノ兵卒ハ自己ノ分ト他ノ一人分トヲ合ヒテ自ラ炊爨スヘキモノトス是レ最モ少クモ露營地ニ在ル兵卒ノ二分ノ一ハ戦闘ノ爲メ準備シテ又銃ノ近傍ニ停止シアラサルヘカラサルヲ以テナリ

夜間各中隊ハ密集シテ休憩シ在ルモノトス而シテ各人ハ其背囊ヲ枕ト

シテ應用スルコトヲ得若シ露營地ニ藁若クハ木葉等アルトキハ之ヲ以テ風障ヲ作り此風障ノ中央ニ於テ木片其他ノ燃料ヲ焚キ一ハ各兵ノ採煖ニ供シ一ハ休宿所ノ照明ニ供ス

敵兵甚タシク近傍ニ存在セス從テ戰備ニ幾分ノ餘裕アルトキハ各部隊ハ交附セラレ在ル露營用ノ天幕ヲ應用スヘキモノトス

軍隊一地ニ長ク露營シ在ルヘキ必要アルトキハ藁或ハ樹枝等ヲ以テ急造掩蔽ヲ構築スルヲ要ス加之氣候寒冷ナル時期ニ在テハ急造廠舎ヲ建築セサルヘカラス千八百七十七一年戰ニ於テ普軍ハ此種ノ急造建築物ヲ頗ル多數ニ設備セリ此等ノ急造建築物ヲ多數ニ設備スルトキハ可成軍隊ノ建制順序ニ應シテ一定ノ地區内ニ整頓シテ配置セシメ展望ノ爲メニハ適當ノ工事ヲ其建築物ニ施シ連絡ノ爲メニハ廣濶ナル交通路ヲ設ケ集合ノ爲メニハ各廠舎前ニ相當ノ空地ヲ存スル如ク注意スルヲ要ス

ニ、敵襲ニ際シテノ動作

各兵卒ハ斥候派遣中或ハ歩哨勤務中又ハ其他ノ諸勤務ニ服務中ニ拘ハ
 ラス敵ヲ發見セシトキハ爲シ得ル限り急射撃ヲ施シテ第一ノ警報ヲ爲
 シ其他ノ一人ハ疾驅シテ其情況ヲ口頭ヲ以テ報告スヘキモノトス
 此際隣歩哨ハ敵襲アル方面ノ歩哨ニ向テ爲シ得ル限り充分ノ援助ヲ與
 ヘ衛兵ハ直チニ敵ニ向テ前進ス若シ敵兵甚タ近距離ニ逼迫シ來ルトキ
 ハ衛兵ハ斷然決心シテ勇猛果敢ニ敵ノ先頭部隊ニ向テ突進シ最モ少ク
 モ彼レノ前進ヲ遲滞セシメ以テ露營部隊ノ戰鬥準備ヲ整頓スル爲メニ
 必要ノ時間ヲ之ニ與ヘサルヘカラス或ハ衛兵ハ豫メ撰定シ在ル一ノ掩
 蔽地ニ據リ急射撃ヲ敵ニ集注シ而シテ敵ノ前進ヲ爲シ得ル限り防遏セ
 サルヘカラス

夜間敵ノ奇襲ニ際シ最モ恐ルヘキモノハ我部隊ノ混雜ニ在リ故ニ各兵
 卒ハ第一ノ警報ニ際シ迅速ニ且ツ靜肅ニ彼等ノ背囊ヲ負擔シテ又銃線
 ノ後方ニ集マリ號令ニ從テ又銃ヲ解キ沈着ニ所命ノ隊形ヲ取テ指示セ
 ラレタル方向ニ前進スルカ或ハ其地ニ停止スヘキモノニシテ各人各個

斥候ノ早時ノ報告
 井ニ中隊ノ敵活ナ
 ル敵ノ準備ニ由テ
 敵ノ夜襲ヲ全ク擊
 退セシ戰例

ハ行動ハ之ヲ嚴禁セサルヘカラス

高聲ノ談話及無益ノ叱咤ハ此際ニ於テ些少ノ益ナキノミナラス寧ロ大
 害アルモノトス如何トナレハ之レカ爲メニ各人ハ必要ノ號令ヲ全ク聞
 クヤト能ハサルカ或ハ之ヲ誤聞シ加之混雜ハ益々増大スルモノナレハ
 ナリ而シテ各部隊ハ可成密集シ嚴正ナル秩序ヲ以テ整列シ指揮官ヲシ
 テ暗黒ノ中ト雖モ其指揮ヲ容易ナラシメ敵兵益々前進シ來ルトキハ其
 兵力ヲ提ケ勇猛果敢ニ此敵ニ向テ突進シ一舉ニ之ヲ驅逐スルヲ要ス

第五例 千八百六十六年七月二日ノ夕步兵第十三聯隊ノ第三中隊ハバ

アルヒ野附近ニ露營ヲ爲シ今ヤ正ニ炊爨ノ準備中ナリキ時ニ夜十時
 頃一斥候來リ急報シテ曰ク「敵兵我ニ向テ前進シ既ニバアルヒ野ニ達
 セリ」ト

是ニ於テ中隊長ハ直ニ命令シテ各人ノ炊爨ヲ中止セシメシ爲メ今ヤ
 將ヲニ熱セントスル携帶鍋中ノ食物ハ投棄セラレ半ハ紅燭セル携帶
 鍋ハ直チニ再ヒ各人ノ背囊ニ結束セラレタリ中隊ハ斯ノ如クニシテ

充分ナル戦闘準備ヲ爲セリ
 此等ノ處置最モ敏活ナリシ爲メ敵兵ノ近接シ來ル音響ヲ聽取スル迄
 ニハ尙若干ノ猶豫ヲ存セリ
 同中隊ノ一中尉ハ命令ノ下ニ其中隊ノ下士以下六十人ヲ引率シ靜肅
 ニ敵ニ向テ若干距離前進シ大道ノ側方ニ適當ナル陣地ヲ占領シ至嚴
 ナル戦闘準備ヲ以テ敵ノ近接ヲ待テリ幾何ナラスシテ我驃騎兵斥候
 カ敵ニ向テ射撃ヲ爲シツ、退却シ來ルヲ聞ケリ
 既ニシテ我歩兵斥候モ亦退却シ來リ敵兵既ニ近傍ニ迫リ來ルヲ報告
 セリ忽チニシテ敵ハ迅雷ノ如キ喊聲ヲ發シ襲歩ヲ以テ我ニ向ヒ突
 進シ來リ約百五十歩ノ距離ニ近接スルヤ我兵一齊射撃ヲ之ニ集注セ
 リ
 敵ノ喊聲ハ直チニ沈黙シ悲惨ナル歎聲及救助ヲ哀求スル叫聲相次テ
 起レテ普軍部隊ハ此機ニ乘シ頻リニ急射撃ヲ續行スルヤ敵ハ「後へ」ノ
 號令ニテ退却ヲ始メ我兵之ヲ追撃セリ

元來敵ノ此企圖ハ大膽ニシテ其指揮モ亦巧妙ナリキ然レトモ我兵ノ
 敏捷ニシテ且ツ勤勉ナルヤ之ヲ早時ニ發見シテ迅速ニ報告シ其部隊
 ハ嚴正ナル秩序ヲ以テ迅速ニ戦闘準備ヲ爲シ勇猛果敢ニ敵ニ對抗セ
 シヲ以テ容易ニ敵ノ奇襲ヲ擊退スルコトヲ得タリ
 此戦闘ノ結果敵ハ二人ノ死者及四十人ノ負傷者ヲ生シ普軍ニ於テハ
 僅カニ二三名ノ負傷者アリシノミナリキ
 尙其他ニ大ナル注意ヲ要スルコトハ暗黒ノ際友軍相互ニ射撃セサルコ
 ト是レナリ此顧慮ハ夜間ノ奇襲等ニ於テ特ニ多シトス若シ近傍ニ一部
 隊ヲ發見シ其敵ナルヤ否ヤヲ知ル能ハサルトキハ之ヲ確認シ得ル迄接
 近シ而シテ精密ニ之ヲ觀察セサルヘカラス
 今日吾人ノ攜帶シツ、在ル射距離充分ナル銃器ニ對シテハ一層注意シ
 テ此患害ヲ避クルヲ要ス

ガクセン獵兵大隊ハギツチエン附近ニ於テ晝間友軍部隊タル埃國軍ヨ
 リ其背後ヲ射撃セラレシコトアリ

前哨ノ不注意ナリシカ爲メ要塞カ敵ノ奇襲ニ由テ占領セラレタリシ實
例ハ千八百七十七年露西亞軍カ夜襲ヲ以テ土耳其軍ノカルス要塞ヲ占
領セシ事跡ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘシ

二、舍營

總則

軍隊敵ヨリ遠ク離隔シ在リ且ツ情況之ヲ許ストキハ其宿營法ハ舍營ヲ
應用スヘキモノトス而シテ敵ト觸接スヘキ顧慮益々少キトキハ軍隊ハ
兵力ノ保護及給養ヲ以テ第一ト爲シ益々廣濶ナル地域ニ舍營ヲ爲スヘ
キモノトス又單簡ナル行軍舍營ニ於テハ各兵卒ハ多クハ舍主ヨリ給養
セラルベキモノトス愈々敵ニ近接シ其衝突亦近キニ在ルモノト想像セ
ラルルトキハ益々舍營ハ狹縮セラレモノニシテ遂ニ村落露營ヲ爲ス
ニ至ルモノトス即チ村落露營ハ露營ト舍營ノ一大限界ヲ形成スルモノ
ト稱スルモ可ナリ
舍營ハ其地區ニ進入スルニ先チテ可成準備セララル、ヲ要ス故ニ爲シ得

村落露營ニ關シ我
國改定野要務令
ハ左ノ如ク說明セ
凡テ村落内ニ宿營
セシ者ハ其警戒法
及内部ノ勤務ハ舍
營ニ準シテ行ハル
定シ近ク村落外ニ
露營スル部隊ハ露
營ノ爲メ定メタル
方法ニ從フヘシ

舍營司令官ニ關シ
獨逸及外國野要
務令ニ將官及聯隊
長ハ一ノ佐官ヲ以
テ舍營司令官ト爲
スノ權アリトアリ
又兩國共ニ其野外
露營ノ舍營ニ於テハ
露營司令官ニ於テハ
舍營日直將校ヲ兼
テスルコトアリトア
ル

レハ軍隊ハ般營隊ヲ前遣シ其舍營地ヲ宿營スヘキ部隊ニ應シテ適當ニ
區分スルヲ要ス此等ノ諸準備整頓シタル後軍隊ハ宿營地ニ進入シ情況
ニ應シテ小隊分隊若クハ尙其以下ノ數ニ區分セラレテ宿營スルモノト
ス
各舍營地ニ於テ高級古參ノ將校ハ別命ナキモ舍營司令官タルモノトス
故ニ該將校ハ舍營地全般ニ關スル總テノ要務ヲ規定ス而シテ其勤務ヲ
輔佐スル爲メ舍營日直將校并ニ必要ニ際スレハ巡察將校任命セララル、
モノトス
舍營日直將校ハ諸衛兵ノ長官ナリ故ニ之ヲ配布シ之ニ守則ヲ授ケ亦之
ヲ監守スルハ此將校ノ責任トス又此外ニ露營勤務ニ於ケルカ如ク各大
隊各獨立中隊等毎ニ部隊日直將校及部隊日直下士任命セララル、モノト
ス此等ノ諸官ハ其命令ヲ受クルヤ直チニ舍營日直將校ノ許ニ到リ必要
ノ命令ヲ受ケ我從屬スル部隊若クハ軍隊區分ノ範圍内ニ於テ其命令ヲ
實行スヘキ責任ヲ有スルモノトス